

令和5年度 事業報告書

大慈厚生事業会

1. <経営理念>

- ①時代の変遷にとまなない、福祉ニーズの変化を敏感に把握し、社会の人々のために、良質な福祉サービスを提供する。
- ②いつでも、どこでも、誰でもが必要な時に最善の福祉サービスを提供できるように日々研究努力する。
- ③All for One, One for All [全てが一人の為に、一人が全ての為に]

2. <基本方針>

- ・法人の設立方針である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき、人権を尊重した運営をする
- ・各施設の基本方針を尊重する
- ・社会的に評価を得られるよう努める

3. ～社会福祉法人を取り巻く環境が急速に変化している現代～

令和7年に向けて、高齢者人口が増加した後、その増加は緩やかになるとともに生産人口の減少が加速することが予想されている。こうした中、福祉ニーズの複雑化・多様化・地域社会の変化に対応していくために私達に出来ることを考え、社会福祉法人としての存在意義を追求し、良質な福祉サービスの提供を継続し続ける大慈厚生事業会を目指す。

法人ビジョン「創設者の思いを胸に、常に改革を」

4. <令和5年度目標>

- ①新規事業に向けて準備・計画をする
神戸市との意見交換会や他事業所の見学を行った。
- ②部門間の見える化
法人運営会議で情報共有や話し合いを行った。また「夢プロジェクト」を部門間の見える化を進め、風通しの良いチーム作りをスタートした。
- ③中長期計画の策定
計画の策定までは出来なかったが、「夢プロジェクト」の中で理念やビジョンについて話し合い、土台作りを行った。

5. <会議>

法人運営会議	R5/4/13、5/23、6/15、7/20、8/10、9/13、10/6、11/16、12/12、 R6/1/22、2/19、3/18
予算・経営会議	R5/10/30、R6/1/9

6. <<行事等>>

日付	行事等
5月24日・25日	監事監査
6月 2日	理事会（事業報告、決算他）
6月16日	定時評議員会（決算、社会福祉充実残高）
6月16日	理事会（理事長選任他）
6月21日	資産登記
7月11日	大慈園（土地建物）抵当権抹消登記
8月 4日	緊急理事会（エレベーター改修工事入札参加業者審査他）
8月21日	緊急理事会（エレベーター改修工事入札価格決定他）
8月22日	エレベーター改修工事入札
9月 8日	緊急理事会（大規模修繕入札参加業者審査他）
9月 9日	ゾーニング工事入札
9月26日	緊急理事会（大規模修繕入札価格決定他）
9月27日	大規模修繕工事入札、屋上防水改修工事入札
10月16日	緊急理事会（はぐくみ基金導入決定他）
11月28日	理事会（一次補正予算、規程変更他）
1月29日	理事会（事業計画・予算・二次補正予算他）
2月27日	電動ベッド入札

7. <<総括>>

新規事業については、今年度は進捗がほとんどない状況であったが、引き続き来年度以降も情報収集を行い、進めていくこととする。

また今年度は、退職共済を「はぐくみ」に変更することが決定し、その準備を実施した。

来年度以降スムーズに移行出来るようにし、福利厚生の実施を図りたい。

法人の明るい未来を創るために立ち上げた「夢プロジェクト」では、各管理者の思いを聞くことができ、改めて大慈厚生事業会の人財の厚さを感じた。

今後は、管理者だけでなく、主任やリーダーやその他の職員も素晴らしい人財になるようにしていきたい。

☆高齢者部門

1. <<目標>>

すべての人（ゲスト・職員・ご家族）がより健康に、より幸福に。

～ウェルビーイングを目指して～

- ・組織力向上プロジェクトの実施
- ・安定した採用と利用者確保をすすめる。
- ・大規模修繕の実施

2. <<行動計画>>

- ①チームコーチングを活用し、リーダー育成やチーム作りを行う

- ②部署内、部署間、施設間での話し合いを重ね、ボトムアップを基本とした組織作りの継続
- ③広報・人財確保・営業での効果的な方法を模索、実施する
- ④大規模修繕を最後まで安全に行えるよう設計事務所工事関係者と協力していく。また、助成金についてもチームで関わり取りこぼしが無い様にする。

3. 《総括》

今年度も新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したこともあり、面会や行事も再開し少しずつ閉塞感が減少した。しかしながら、各施設感染や発症が見られ、引き続き対応に追われているのも事実である。

その影響もあり充足率が予算よりも低めとなっている施設もあるが、デイサービスセンターの充足率が上向きな事と大慈智音園では収益増という良い結果も生まれた。

引き続き行っている大規模修繕については、大きな問題もなく計画通りに実施が出来ている。今後も計画通りに進めていきたい。

外国人の特定技能生については、今年度は7人入ってきており、合計20人となった。

今後の労働人口減少を予測して、外国人人財とICTは欠かせないので引き続き力を入れていく予定である。

4. 《人財確保と育成等》

①人財確保 新卒10名採用

人財の採用については、新卒は3名に留まった。

②人財育成計画

組織向上プログラム（チームコーチング）を大慈弥勒園・大慈吉祥園・ケアハウス大慈・大慈智音園で月に1回研修を行った。この中でプロジェクトチームを作り、人財育成や各施設の課題解決、目標達成を行っている。

安原監事による管理者育成研修を10回実施した。会計その他の管理者に必要な知識や考え方を学ぶ事が出来た。

③福利厚生等

日帰り2回（58名）と1泊1回（35名）の職員旅行を実施した。

5. 《地域貢献事業》

・地域サポート施設として地域での福祉活動（生きがいデイサービス・健康教室・移動支援）を定期的な活動として実施できた

【実施事業】

- ・榎谷地区の給食会の送迎を行った。
- ・認知症サポーター養成講座開催。
- ・ほっとかへんネット西に参画した。
- ・榎谷地域のごみ拾いを定期的に行った。

6. 《広報活動》

今年度も、あんしんすこやかセンター等に報告や営業に行き、新規利用者につなげた。また、InstagramやTikTokを活用して広報を行った。

- 随時対応・・・ホームページ更新作業

7. 《研修会等》

月	研修名	対象者
4月～7月	介護職員初任者研修	新人職員
4月～7月	新人職員研修	新人職員
2月28日	ステップアップ研修	昇級予定者
毎月1回	コーチング研修	役職者

8. 《施設整備等》・・・50万以上の主な工事等を記載

項目	施設
エレベーター改修工事（養護老人ホーム大規模修繕における補助事業 R6.12.31 完成予定）	大慈園
大型乾燥機設交換、設置工事	大慈園
LED 改修工事	大慈園
介護ロボット ピュアット購入	弥勒園・SS・智音園
介護ロボット Hug 購入	智音園
特浴機シャワーチェア購入	デイ・SS
ベッド購入	大慈吉祥園・ケアハウス
屋上防水改修工事	ケアハウス
Wi-Fi ネットワーク	ケアハウス

※SS→ショートステイ

※大慈園→大慈弥勒園、大慈ショートステイ、大慈デイサービスセンター、大慈吉祥園

9. 《会議・委員会》

会議名等	
事業戦略推進会議	予算管理委員会
広報委員会	人事委員会（3チーム）

10. 《新型コロナウイルス感染症報告》

○発生件数

陽性者（職員）	陽性者（ゲスト）
114人	67人

○費用・補助金等

感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等
¥12,828,351円

○まとめ

- ・感染拡大防止時、毎日リモート会議を行い、ゲストの健康状況や職員の健康状態の把握、予防や対策について、全フロアにて相談・決定事項の周知を行った。
- ・高齢者部門間の職員応援派遣
- ・危険手当見直し
- ・職員への定期的な抗原検査の実施（令和6年3月末終了）
- ・今までの感染時の経験により、今年度はスムーズに対応・準備が行えた上、職員の報告内容・仕方からも職員の成長を感じられた。

☆ 保育・児童部門

1. <<目標>>

施設間の情報共有の強化

チーム会議をオンラインで開催し、情報の共有を図った。

2. <<令和5年度報告>>

- ・園長管理者会議をオンラインや対面で行った。
毎月1回 各園（館）の状況や取り組み、課題を共有し、運営や保育を進めた。
- ・保育教諭会議をオンラインで行った。情報交換、意見交換を行い、問題解決に向け検討を重ねた。
- ・キッチン会議をオンラインで行った。献立の意見交換、情報交換、食育に関する相談等を行い、実際に園での取り組みや献立に反映させた。
- ・リスクマネジメント会議をオンラインで行った。環境要因、人的要因等、課題を抽出し解決、改善に向けて取り組んだ。

3. <<人財確保と人財育成等>>

① 人財確保

- ・こども園…兵庫県・神戸市合同就職フェアに参加した。
- ・ハーバー大慈…社会的養護施設合同フェアに参加した。
- ・園見学会の開催

② 人財育成

- ・今年度は、各園、館内での教育に加え、対面・オンラインで全園共通研修を行った。
- ・個々の保育技術、教育的知識を高められるようにオンラインでの研修も行った。
- ・職場内での伝達研修を強化した。

4. <<地域貢献事業>>

- ・子育てサロン、園庭開放、トライやるウィークを通常通り行った。
- ・児童館において、親子館事業のプログラムは、年間を通して完全予約制にし、一般来館は自由に遊びに来られるようにした。
- ・小学生の学習支援、外国にルーツを持つ子どもの学習支援は、通常通り行った。
- ・大慈こども園の地蔵盆は、地域の方も招いて行った。
- ・子育てサロンの充実を図った。（こども園、小規模保育園、おやこふらっとひろば中央）
- ・園庭開放を再開した。（こども園）
- ・一時保育を再開した。（大慈ほまれこども園）
- ・一時保育を開始した。（大慈こども園とも分園）
- ・こども園の保育時間外保育を継続している。（ハーバー大慈）
- ・ほっとかへんネット中央との連携を行った。（こども園、ハーバー大慈）
- ・ほっとかへんネット兵庫との連携を行った。（大慈ひょうごこども園）

5. 《研修会等》

月	研修名	対象者
4月	新任職員研修（対面）	新卒職員
5月	中堅職員研修（対面）	2年目、3年目職員
11月	大慈理念・保育研修（対面）	全職員
随時	コンプライアンス・子どもの人権を尊重するための研修（各園）	全職員
毎月	大慈だより研修	全職員

6.《施設整備等》・・・50万円以上の主な工事等を記載

施設	内容
大慈幼保連携型認定こども園	園庭花壇仕切り改修工事 見守りカメラ
大慈ひょうご幼保連携型認定こども園	大規模修繕
大慈ほまれ幼保連携型認定こども園	見守りカメラ
ハーバー大慈	退所後のリフォーム 防犯カメラの取り替え
たちばな児童館	リニューアルに伴う改修工事

○費用・補助金等

施設	内容	金額
大慈幼保連携型認定こども園	新型コロナウイルス感染症に係る事業継続支援事業補助金	182,000円
大慈ひょうご幼保連携型認定こども園	新型コロナウイルス感染症に係る事業継続支援事業補助金	111,000円
大慈ほまれ幼保連携型認定こども園	新型コロナウイルス感染症に係る事業継続支援事業補助金	64,000円
大慈あい小規模保育園	新型コロナウイルス感染症に係る事業継続支援事業補助金	8,000円
大慈さち小規模保育園	新型コロナウイルス感染症に係る事業継続支援事業補助金	23,000円

7. 《総括》

- ・新型コロナウイルス感染症が5類になったので、子育て支援事業等を再開した。
- ・園説明会を行い、法人内の園を知っていただく機会を設けた。
- ・一時保育の問い合わせや利用者が増えてきている。
- ・キャッシュレスやペーパーレスに向けての取り組みが進んでいる。
- ・「おやこふらっとひろば中央」の利用者が昨年度よりもなお増えた。
- ・児童館のリニューアルを行ったことで、利用者が増えている。
本来の児童館の機能を充実させていくよう考える。
- ・部門全体的に令和4年度に比べヒヤリハットの件数が減っている。
令和3年度と同じ位の件数であった。

事故件数は、令和4年度に比べて7件増えた。令和3年度に比べて6件減った。
職員の勤続年数に関係しているのではないかと考えられる。
これからも全職員でヒヤリハット報告書を活用し、事故を未然に防いでいきたい。

1. <基本方針>

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的、肉体的な援助を行なう。又、ゲストの皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。特養においては、認知症専門棟及び一般棟の特色を活かしたケアができる様に努める。

2. <中長期行動計画>

○最終目標（10カ年）

『選ばれる施設になる』・・・新規採用者25名以上の応募がある

- ・技術と情熱の両輪が育っている
- ・コミュニケーションと繋がり大切にする
- ・一人一人の夢や目標を叶える
- ・地域の中心的な拠点となり、地域とともに持続可能な社会をつくる
- ・大慈で蓄積した技術が世界の福祉を変える

○中長期目標（5カ年）

- ・高齢者介護の拠点として競合他社に負けない独自の強みをつくる
- ・ここで働きたいと思える施設になる

3. <令和5年度重点目標>

①健全な経営 各施設で設定した充足率の目標達成を目指す。

- ・各事業の強みを発揮する
- ・ケアマネ見学会の定期的開催
- ・各事業所（居宅介護支援事業所・病院等）への営業
- ・経営勉強会の継続



【充足率の目標達成値】

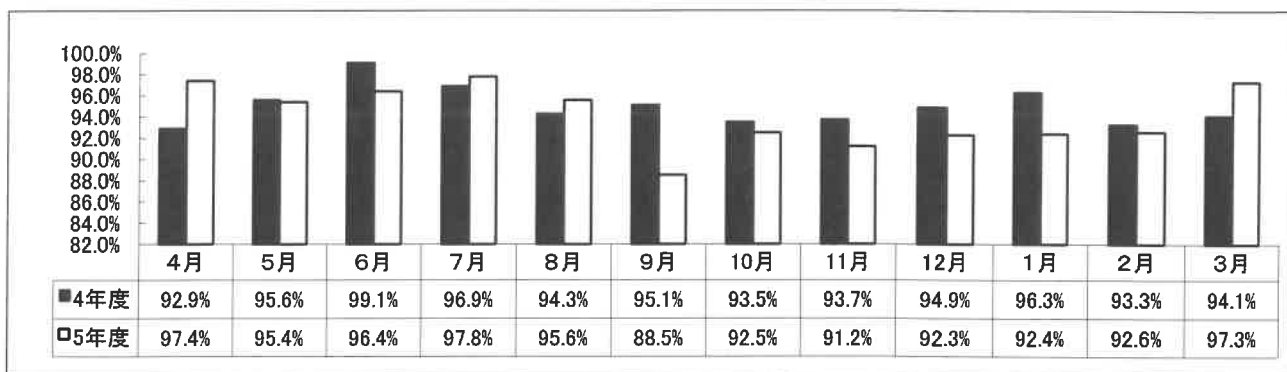
- ・特別養護老人ホーム大慈弥勒園（定員100名） 98%

施設入所を必要とされているゲストや家族に対して、入所前の相談からサービス提供に至るまでの流れに関し、各担当者が役割を理解し迅速に対応できている。入所者が前年に比べ増加しているのにもかかわらず充足率は目標値に達成しなかった。

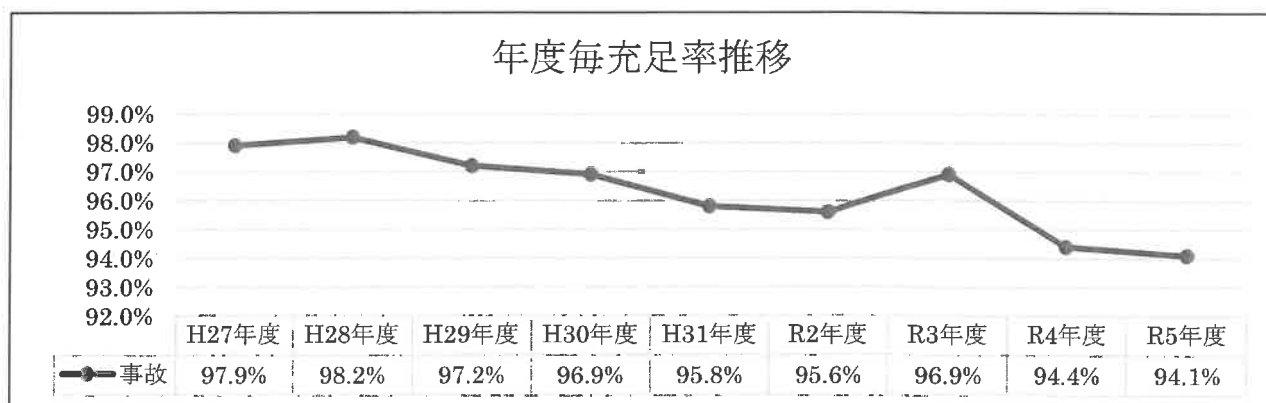
又、退所者や入院者が前年以降と比較して多い。その理由として施設で終末期を看取りとして過ごすのではなく、医療院や療養型病院に転院し、必要な医療を受けることを選択されるゲストやご家族が増加したことが考えられる。

次年度は上記を踏まえ特養・デイ・ショート間で情報共有することで入居待機者を管理し、入所申込書到着から迅速な面談をすることで入所の受入に繋げる。また入所者、家族の価値観も多様になり延命治療を望む方も増えていることからスムーズな退所支援を行い長期的な空床がないように努める。

○令和5年度月別充足率表



○充足率推移 (%)



○入退所等内訳表 (人)

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
① 令和4年度	38	1	34	32	34	3
② 令和5年度	54	14	49	33	40	7
増減①-②	+16	+13	+15	+1	+6	+4

○介護度別年齢別等人数表

令和6年3月31日時点での在籍数

平均滞在期間3.1年(男性3.5年、女性3.0年)、最高滞在期間16.7年(女性)

要介護度	令和4年度				令和5年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
1	0	0	0	歳	0	0	0	歳
2	5	1	4	88.5歳	2	1	4	83.1歳
3	44	11	33	87.8歳	40	12	28	88.0歳
4	37	8	29	87.7歳	50	13	37	88.3歳
5	9	6	3	86.1歳	10	2	8	84.7歳
合計	95	26	69		102	28	74	
平均介護度		3.78	3.78	3.78		3.6	3.7	3.7

平均年齢	85.7歳	88.1歳	87.4歳	85.4歳	88.5歳	87.6歳
最高年齢	99歳	100歳		97歳	102歳	
最小年齢	64歳	75歳		64歳	70歳	

②人材育成 情熱・ロマン・思い・気持ちを共有

- ・毎月、全リーダーが参加する会議を開催
- ・ラインワークスを導入し情報の見える化を行い、ムリムダムラを無くす
- ・一人一人の強みを見出し、活躍の機会を共につくる
- ・課題解決型ではなく目標達成型の面談を2か月に1回実施する



・インドネシア特定技能生の採用を3名実施。
 ・中途採用者の採用実績についてはハローワークからの応募や求人広告を通じた採用は0名。代わりに、ホームページからの応募が2名、リファラルから1名、人材紹介から6名、成果報酬型サイトから4名の合計13名を採用。
 採用プロセスの改善点としては、新卒採用の不足とハローワークや求人広告からの応募不足が挙げられる。採用手法の評価では、リファラルや人材紹介、成果報酬型サイトが有効であることが分かったが、費用面を考慮すると比較的安価な成果報酬型サイトや、費用がかからないリファラル採用を積極的に利用していきたいと考えているため再評価する。
 ・新卒採用については、今年度は0名となっていることから高卒採用のみではなく短大・専門・大学の新卒にも裾野を広げ、幅広く採用活動を行うことで、法人の認知と応募の増加に繋げていきたい。

《職員会議・OFF-JT》

頻度	会議名				
月1回	看取り介護委員会	事故再発防止委員会	サービス向上委員会	感染症防止対策委員会	事業戦略推進委員会
	虐待防止委員会	身体拘束適正化検討委員会	介護機器活用委員会	チームコーチング	給食委員会
	褥瘡防止委員会	全体会議(1F・3F)	非常災害時対策委員会	営業部門会議	法人運営会議
	人事委員会	研修委員会	予算・経営会議	広報委員会	外国人労働者担当者会議
	BCP委員会	医療的ケア推進委員会	労働衛生委員会	予算・経営委員会	
随時	ケアカンファレンス		人事検討会議		

日付	研修会内容	参加人数
10月12日	感染まん延防止について	7名
	BCP(災害・感染事業継続計画について)	3名
	ICT(介護機器活用)	7名
	ハラスメント/法令遵守について	6名

	職場での安全衛生について	7名
11月27、28日、 12月8、11、15日	身体拘束適正化研修・高齢者虐待防止研修	全職員
12月5日	感染症発生時のマニュアルとガウンテクニック	9名
	BCP（災害・感染事業継続計画について）	6名
	土砂災害避難訓練	12名
	身体拘束適正化研修・高齢者虐待防止研修	4名
	法令遵守/ハラスメント	5名
1月16日	身体拘束適正化研修・高齢者虐待防止研修	4名
1月16日	法令遵守/ハラスメント	5名
	看取り褥瘡	9名
	事故発生防止	6名
2月21日	基幹福祉避難所開設訓練	対象者
3月5日	リスク・介護機器活用	3名
	看取り褥瘡	5名
	不審者対策	5名
	安全衛生	8名
	心肺蘇生	5名
	法令遵守/ハラスメント	2名
毎月	コーチング研修	役職者
都度	医療的ケア 認定特定行為業務従事者（経管栄養）の手技確認・心肺蘇生訓練	対象者

③働きがい メンタルコーチと共にチームビルディングを実践

- ・ SNS の集客人数 UP
- ・ 積極的に実習生の受入れする
- ・ 導入した ICT（眠りスキャン等）を活用する
- ・ 大規模修繕計画、予算に基づいた、改修工事の実施

【令和5年度環境整備計画予定】

- 1) エレベーター改修工事
- 2) LED 改修工事
- 3) その他（設備関連工事等）



・ Instagram

→フォロワー数198人 投稿数41件 1件に関する最多再生回数14,514件

・ TikTok

→フォロワー数12人 投稿数9件 1件に関する最多再生回数1,438件

・ 生産性向上の観点から（眠りスキャン・ピュアット等）の機器を導入し、腰痛対策や労働環境の改善等に有効活用している。

【工事関連】令和5年度

・大慈弥勒園 大慈吉祥園 エレベーター改修工事（養護老人ホーム大規模修繕における補助事業 / 令和5年9月7日 契約 / 令和6年12月31日 完成予定）

総事業費 ¥97,900,000-（補助額 ¥16,425,000-）

・介護ロボット ピュアット購入(労働環境改善支援事業の補助事業) 令和6年2月26日 納品
 弥勒園3台 ショートステイ1台 計4台 ¥4,914,800- (補助額 ¥3,350,000-)

④地域貢献 介護予防と介護の魅力を伝える

- ・地域の行事に積極的に参加する。
- ・地蔵盆や施設開催の行事に地域の方も参加して頂き、交流の機会を増やす
- ・要援護者支援センターとして、あんしんすこやかセンターと連携。地域防災ネットワーク作りに貢献する。
- ・ケアマネジャーを対象とした、地域防災の研修会を開催し基幹福祉避難所を周知する
- ・災害発生時に地域の方をスムーズに受入が出来るよう、基幹福祉避難所開設訓練を年1回実施する
- ・レジェンド発表会を開催し介護について考える機会をつくる



- ・基幹福祉避難所開設訓練を実施しマニュアルの確認・備蓄の点検・対策上の疑問点や問題点を解決した。
- ・地域サポート施設として地域での福祉活動（生きがいデイサービス・健康教室・移動支援）を定期的な活動として実施できた。
- ・認知症サポーター養成講座も再開でき、地域のサポーター増加に寄与できた。
- ・地域や学生を対象にしたレジェンド（施設サービスの取り組み）発表会の開催は出来なかった。
- ・地域行事、農福連携事業、居場所づくり等、地域サポート施設として榎谷地域・井吹地域両方の地域と関わる時間を増やせた。

⑤新しいことにチャレンジ

- ・社食を導入する
- ・フロアを超えた交流の機会を増やす
 → サークル活動、ビンゴ大会等
- ・専門職（看護、栄養、機能訓練）が先生となり
 職員の為の保健室を開催する

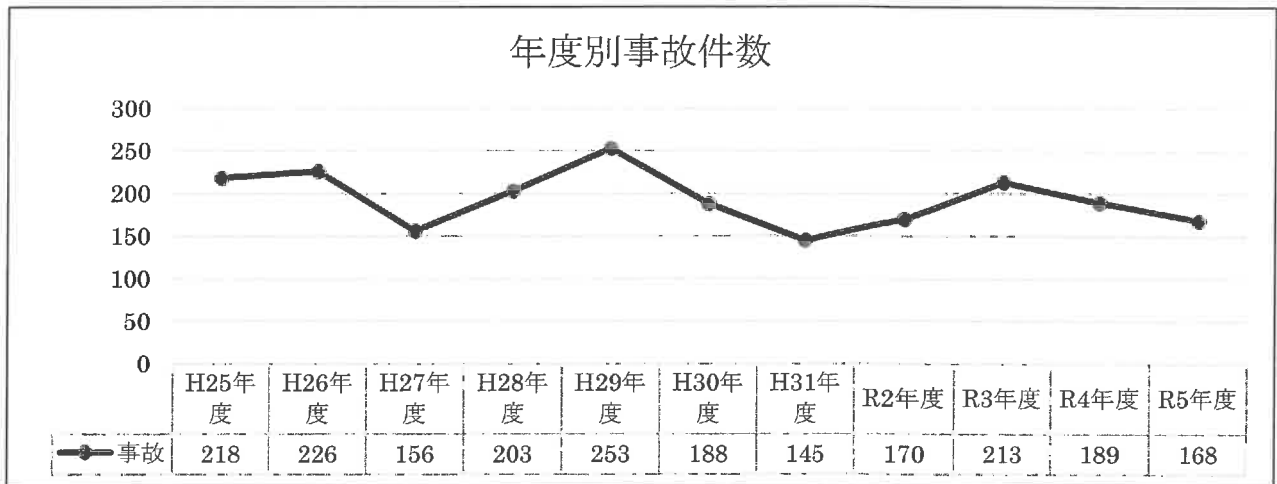


- ・youtube、ビューティーデイ、キッチンカー、断捨離、全員が楽しめる(社食)、職員の交流、ありがとうデイ、アンケート、発信の実施。
- ・ビューティーデイではおしゃれをして、ご家族と待ち合わせお出かけするなど、ご家族を巻き込んでの企画となり大変好評に終わりました。
- ・断捨離の実行も日頃、時間が取れない職員の代わりにチームで動き、手の付けられない倉庫を片付けることが出来た。
- ・社食の導入は、有名なパン屋さんに来ていただき販売を定期的に行うことで職員の満足にもつながった。
- ・コロナ禍で行うことが出来なかった社員旅行を9月から12月計4回に分けて93名が参加、日帰り旅行から1泊旅行を企画し実行できたことは職員の満足にも繋がりコミュニケーションの場を作ることが出来た。
- メンバーが産休や退職で減ったことで当初予定していた企画をすべて行うことは出来なかったが、残りのメンバーで出来ることを検討し実行していくことが出来た。

4. 《リスクマネジメント報告》

①報告件数

○年度別事故件数

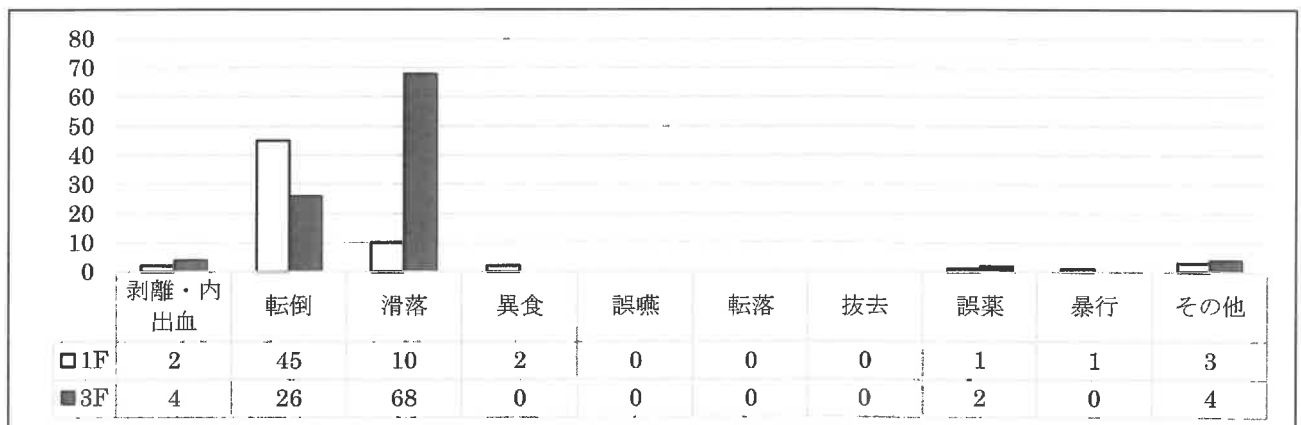


○フロア別内訳

令和4年度				令和5年度			
	合計件数	事故	ドキドキ		合計件数	事故	ドキドキ
1F	1,739件	61件	1,678件	1F	1,784件	64件	1,720件
3F	3,919件	128件	3,791件	3F	4,304件	104件	4,200件

③発生内容別件数(令和5年度)

○事故内容



③ リスクマネジメントまとめ

前年度と比較すると、事故件数が減少。ドキドキ件数については、1階・3階共に増えている。事故の傾向として、立ち上がりや、自身で動かれる方が増えており、対策を立案するが、間に合わず、転倒・滑落事故となった件が、増加傾向にあった。

又、事故件数は増加傾向にあったが、眠りスキャンを導入した事により、職員の事故に対する意識や、一日の眠りのパターンの分析等、これまでにない考え方を基に事故の発生防止策が考えられ、合わせて環境面の整備も行う事が出来た。今後の課題として、同じゲストの類似事故が増えており、部署内での情報共有と共に、専門職を含め協議する機会を増やした

いと考える。

5. <<苦情・相談結果報告>>

☆苦情の定義→サービス向上委員会にて、多職種の話し合いの結果決定する。

○報告件数

令和4年度				令和5年度			
	合計件数	苦情	相談		合計件数	苦情	相談
1F	0件	0件	0件	1F	4件	0件	4件
3F	0件	0件	0件	3F	6件	1件	5件

○苦情相談まとめ

ゲスト、ご家族が抱く、心情を理解できず、懇切丁寧な説明が不足した結果によるものと感じる。このことから、頂戴したお声を基に、サービス向上委員会を主体に検討・再発防止策を決定し、ゲスト満足を高めたい。

6. <<新型コロナウイルス感染症報告>>

○発生件数

令和5年度				
	陽性者 (職員)	陽性者 (ゲスト)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等(見込み含む)
特養	64件	23件	¥739,756	¥7,612,000

○新型コロナウイルスまとめ

・令和5年5月8日から、新型コロナウイルス感染症が「2類相当」から「5類」の位置づけになった際に、大きな困惑が生じ、集団感染になるリスクと5類になったことでの制限の緩和に大きな矛盾を感じた。

面会や外出等、制限することなく過ごして頂きたい反面、上記の発生件数にあるように、集団感染が発生し、重症化されるゲストも多数確認された。このことから、感染リスクと重症化による心身の影響を考えると、今後もコロナウイルスによる影響は高いと感じている。

【補助金・見舞金】

・介護事業者等サービス継続支援事業(神戸市)

7. <<総括>>

1年間を通し、新型コロナウイルスのクラスター発生等、緊急を要し困難が生じた場面はあったが、これまでの経験からコロナウイルス感染症との向き合い方も変わり、少しずつではあるが、以前のように外出の機会も増加した。又、チームプロジェクトを進め、地域貢献事業、広報活動、設備工事、職員満足やゲスト満足を高めるための取り組みを目標定め、実践してきた。

次年度においても「緊急ではない重要なこと」にフォーカスを置き、行動目標を決め、職員一人一人が目標に向かって行動し、各職員間のコミュニケーションの質を大切にす職員風土を大切に、その上、ご利用者満足を高めたい。

令和5年度 事業報告書

大慈ショートステイ

1. 《基本方針》

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立方針である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的・身体的な援助を行う。又、利用された皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。

2. 《令和5年度重点目標・行動計画》

『利用したいと感じるサービスを提供することでリピーターを増やす』

①参加したいと思える行事やレクリエーション活動を増やす

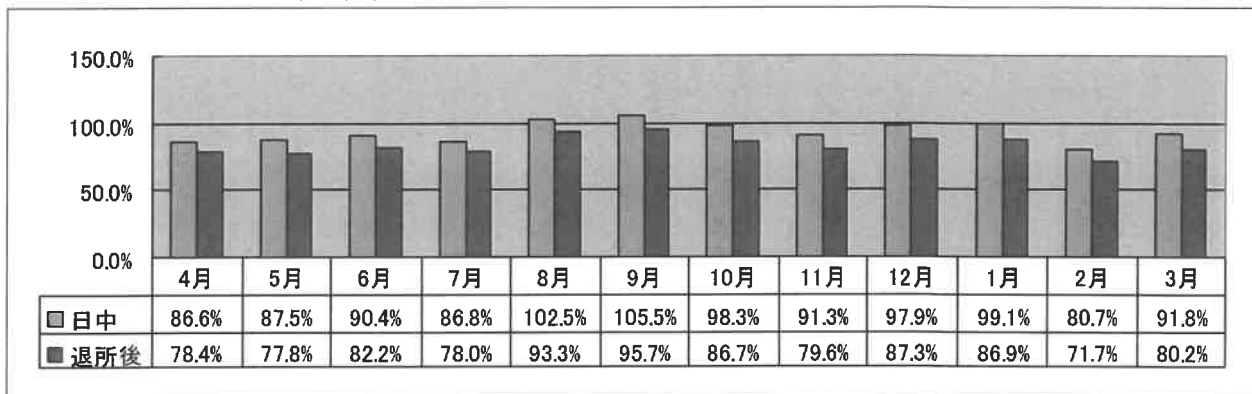
毎朝の全館放送のラジオ体操、機能訓練指導員による個別機能訓練や集団体操、看護職員による口腔体操は継続して実施した。ご利用者一人一人の趣向に合わせたレクリエーションが提供できるように努めたい。

② ショート会議を定期的に関き、利用したいと思えるサービスの向上を目指す

個別でのプチ会議は都度実施できた。全体での会議は定期的には実施できていないため今後はオンラインも活用し参加がしやすい環境を設計し定期的に会議を開催することによりサービスの向上に繋がるよう努めたい。

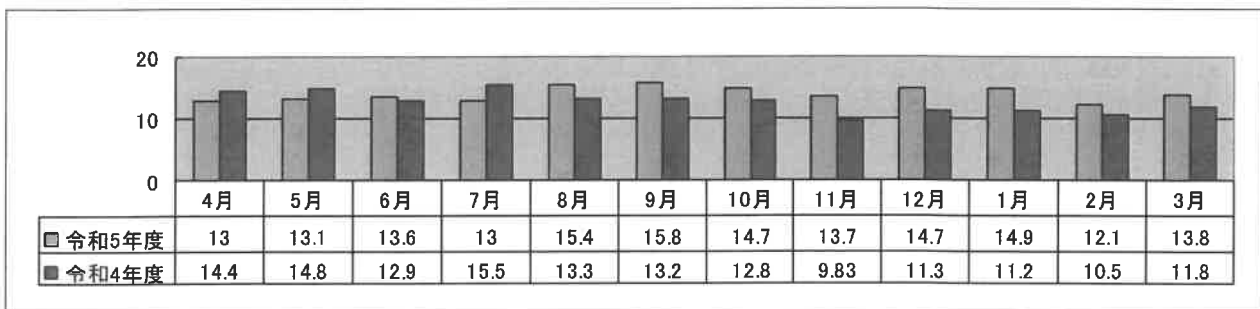
○充足率→日中93.2%、退所後83.2%

(前年平均 日中81.01%、退所後74.13%)



○利用定員：15名 平均人数→日中13.9人、退所後12.4人

(前年度平均 日中12.6人、退所後11.4人)



●介護度別年齢別等人数表（令和6年3月31日時点での実人数）

要介護度	令和4年度				令和5年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
支援1	1	1	0	85.4歳	1	0	1	85.25歳
支援2	4	1	3	88.3歳	4	0	4	84.77歳
1	19	5	14	85.8歳	66	10	56	89.72歳
2	72	30	42	81.0歳	123	40	83	89.72歳
3	140	47	93	90.7歳	125	27	98	85.67歳
4	88	28	60	87.4歳	80	30	50	80.17歳
5	48	28	20	87.4歳	43	33	10	80.78歳
合計	372	140	232		442	140	302	
平均介護度		3.5	3.0	3.2		3.1	2.6	2.8
平均年齢		80.02歳	85.24歳	83.42歳		82.82歳	88.51歳	85.66歳
最高年齢		96歳	101歳			97歳	101歳	
最小年齢		64歳	59歳			65歳	63歳	

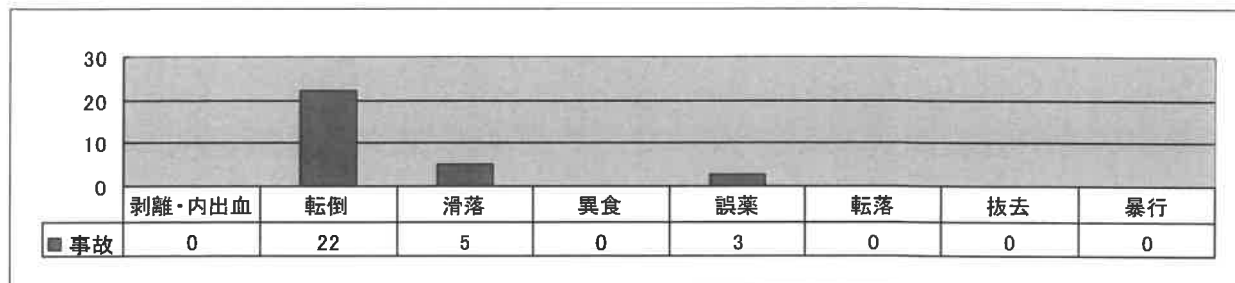
3. <<リスクマネジメント報告>>

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とする。

①報告件数

	令和4年度			令和5年度		
	合計件数	事故	ドキドキ	合計件数	事故	ドキドキ
ショートステイ	2,982件	34件	2,948件	2,933件	30件	2,903件

②発生内容別件数



③まとめ

事故件数は減少傾向にある。同利用者様の事故が多く見られ、1カ月の間に同様の事故内容が見られていることから、類似事故を防止するために、発生から対策の立案と実行までのスピードを速くする必要あると考える。また、事故が起こると思われるヒヤリハット部分に関して部署内で検討をする時間を確保し事故件数の減少に努めたい。

4. << 苦情・相談結果報告 >>

☆苦情の定義→サービス向上委員会にて、多職種の話し合いの結果決定する。

○報告件数

令和4年度				令和5年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	2件	0件	2件		4件	0件	4件

○まとめ

ゲスト・ご家族の立場で物事を考え行動できる力をさらに向上する必要がある。ゲスト・ご家族からのご要望に関して、どうすれば叶えることが出来るかをまず、優先にし、その上で必要な、サービス提供や解決策の決定を行いたい。また、この考えを持ち続ける為に、会議の中で、職員皆で思いを共有し続ける。

5. << 新型コロナウイルス感染症報告 >>

○発生件数（1F→プラム棟、3F→一般棟）

令和5年度				
	陽性者 (職員)	陽性者 (ゲスト)	感染拡大防止対策で要 した費用	感染拡大防止対策で得た 補助金・見舞金等（見込 み含む）
ショートステイ	0件	1件	¥29,419円	¥29,419円（申請中）

○新型コロナウイルスまとめ

令和6年2月6日ショートステイゲストにコロナウイルス感染者を確認。後、2月8日に状態悪化にて入院となる。同時に併設である特養ゲストにクラスター発生を確認。

コロナの感染症まん延防止策として、新規利用者の受け入れ停止を行い、施設内にて療養者の感染対応を行った。その間、他者との接触を軽減、居室内で過ごす時間の増加等の感染拡大防止対策を行った結果、ゲストのADL、生活の質低下に繋がった。このことから、感染による状態の悪化、まん延防止策の実施による生活の質への影響等が都度発生し、5類になった状況であるが、現在においてもコロナ感染症の影響は多大である。

【補助金・見舞金】

・介護事業者等サービス継続支援事業（神戸市） R6. 4. 30時点で交付未決定

6. << 総括 >>

令和5年度新規契約者は86件であり、昨年と比較して25件増加。充足率平均93.2%となっており昨年度より12.1%増加している。新規契約の増加が充足率増加につながったと思われる。コロナ感染があった月に関して稼働率は80%台であり、立て直しまでに時間がかかった為、稼働率の低下につながったと考える。

また、新たなご利用者の受け入れは前年度に比べると迅速に出来たと。来年度も新規契約者を積極的に受け入れる為、特養空床利用の情報等、各事業所に発信し、安定したサービスの提供と、ゲストの満足向上を目指す。

令和5年度 事業報告書

大慈デイサービスセンター

1. <基本方針>

法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」を基本方針として、要援護の高齢者がより自立的な生活を可能な限り自立して安らかに営むこと、社会的孤立感を解消すること、心身機能の維持、向上を図ることを目的として高齢者自身を援助することの他、介護する家族の身体的・精神的負担を軽減できるよう努力し、在宅での介護が中心となるデイサービスの利用者に対し、ケガ・事故のない様に細心の注意を払い、より良い環境でのサービスを提供していく。

2. <令和5年度重点目標>

『選ばれるデイサービスになる』

3. <部門別目標>

①多職種連携と介護技術の向上・発信

昨年度同様、福祉用具(フレックスボード等)の活用や機能訓練指導員によるOJTが増えた事で、利用者様及び職員の負担軽減や介護技術の向上にも繋がっている。

多職種との連携においてもラインワークスを活用していることで、情報共有の機会の増加と対応遅れ等の影響が軽減できたと感じる。

次年度についても、引き続き研修会の定期開催や多職種連携による知識・技術の向上に取り組んでいきたい。

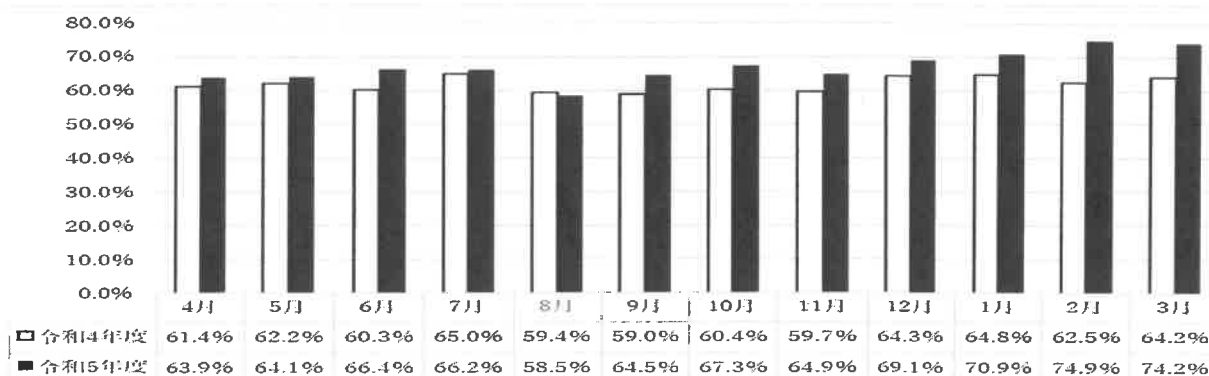
②広報・営業活動の推進

新規利用者数： 34名 体験利用者数： 51名

前年度と比較し、新規利用者数(25名)を9名上回り、充足率5.1%増加となった。これには毎月、デイサービスご利用中の笑顔の写真を基に、魅力ある営業用チラシを作成し、不定期であるが、居宅介護支援事業所に訪問し営業周りを行った。利用に至る、問い合わせ内容としてはショートステイの併設ということで大慈デイを利用したいという内容のお話が多かった。

又、併設の居宅支援事業所・あんしんすこやかセンター職員にデイ(強み・弱み・改善店)についてのアンケートを実施。その結果を基に、居宅内介助を必要とする介護度の高い利用者の送迎方法や送迎時間の変更、1日の過ごし方等の見直しを行った。今後、井吹台・櫛谷町・竹の台など既存利用者があるエリアで新規利用者を獲得し送迎業務負担軽減や利用者満足の向上を図りながら数字に繋げていく。

○充足率→年間平均67.08% (前年平均 60.6%)



●介護度別年齢別等人数表 令和6年3月31日時点での実人数

要介護度	令和4年度				令和5年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
支援1	5	2	3	85.4歳	3	1	2	91歳
支援2	2	1	1	88.3歳	1	1	0	93歳
1	7	4	3	85.8歳	16	3	13	87.6歳
2	9	2	7	81.0歳	15	4	11	88.1歳
3	6	2	4	90.7歳	2	0	2	94歳
4	5	3	2	87.4歳	11	3	8	86.7歳
5	10	5	5	87.4歳	5	2	3	86歳
合計	44	19	25		53	14	39	
平均介護度		3.8	3.4	3.5		2.7	2.4	2.5
平均年齢		82.1歳	89.8歳	87.3歳		81.6歳	88.5歳	85歳
最高年齢		93歳	98歳			93歳	101歳	
最小年齢		63歳	59歳			60歳	78歳	

4. <<リスクマネジメント報告>>

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①報告件数

○年度別報告件数

	令和4年度	令和5年度
事故件数	5件	5件

②発生内容別

剥離・内出血	転倒	滑落	その他の事故
1	2	0	2

○リスクマネジメントまとめ

事故件数は前年度同様に5件。表皮剥離については、皮膚の弱い方に対するサポート方法の研修などを実施する必要がある。その他の事故はご利用者が乗車している状態での車両事故であった。運転の際には細心の注意が必要であるが、同時に事故後の対応についてもスムーズに実施出来るよう職員間での周知が重要である。自身の運転での事故だけでなく、後方から追突された事故もあった。これらのことから、事故の発生しやすいルートなどは避けて、安全に送迎業務が実施できるよう、リスクの軽減のための検討の機会を増加する。又、現在、送迎業務を行う担当者及び、通勤に車を使用する、70才以上の職員が年に1度受講している、NASVA（運転者適性診断）を今後も、積極的に活用していく。

5. <<苦情・相談結果報告>>

☆苦情の定義→サービス向上委員会にて、多職種の話し合いの結果決定する。

○報告件数

令和4年度				令和5年度			
報告 件数	合計件数	苦情	相談	報告 件数	合計件数	苦情	相談
	3件	0件	3件		2件	1件	1件

○苦情相談まとめ

件数としては2件であった。その他、日々の中でご利用者やご家族との関わりの中で相談やご指摘はあったように感じる。今後、このようなお話を受けた時点で記録し、報告書として閲覧し、スタッフ間での情報共有することで、再発防止策の徹底に役立てられ、サービス向上に繋がると感じる。これらの状況を考え、次年度は情報共有に重きを置いて取り組む。

6. 《新型コロナウイルス感染症報告》

○発生件数

令和5年度				
	陽性者 (職員)	陽性者 (ゲスト)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等(見込み含む)
デイサービス	2件	3件	¥ 0円	¥ 0円

○感染まとめ

デイサービスでは、ご利用者にマスクの着用をお願いすることが出来るため、感染が拡大するリスクは低いと感じるが、実際にコロナ感染となったゲスト2名は、入院治療が必要となりデイサービスご利用も終了となってしまった。
ご自宅での生活が中心であり、デイサービスの対策だけでは完全に感染リスクを低くすることは出来ないが、感染の標準予防策や発熱後24時間のご利用を控えて頂くことや、経過の確認などの感染対策を継続し、感染拡大することのないようにサービスを提供したい。

7. 《総括》

デイサービスの新規利用は増え、ご利用して下さっている皆様から「楽しい」との声も頂いている。今後は活動をご自身で選択していただく機会をつくり、事業所の強みをアピールしていきたい。
充足率に関しては目標達成に至っていないが、要介護者へのサービス提供時間区分を増やしたことで、ご利用者の状態にあったサービス提供が実施できている。又、利用時間を少しずつ伸ばすなどの対応ができたことも、ご利用者増加に繋がった理由と考える。営業活動についても活動記録を持参し事業所訪問を増やすことができた。次年度においても強みの追求やSNS発信を増やすこと、そして営業訪問機械の増加、利用者満足度向上を図り、行事の企画や余暇活動を充実させたい。

令和5年度 事業報告書

養護老人ホーム 大慈吉祥園

1. 《基本方針》

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的・肉体的な援助を行う。又、ゲストの皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。

2. 《令和5年度重点目標・行動計画》

『コミュニケーションをとっていく中でお互いの楽しみを見つける』

① ゲストの楽しみを引き出し笑顔にする

今年度は新型コロナウイルス感染症の分類が2類から5類へ移行されたことで、色々な行事の再開や面会の制限が緩まり以前のような活気が戻る。ゲストとコミュニケーションをとっていき中で楽しみを見つけ会議で提案し企画、実行出来た。誕生者食事会は大半のゲストがお好きなお寿司を食べに行くことが出来、日頃、食事に制限がある方もその日だけは制限が緩くなり、たくさん召し上がることで、普段食べられない刺身を口にする機会となり満面の笑みが見られた。また個々に希望を聞き出し姫路城へ出かけるなど個別ケアにも力を入れることが出来た。最後をここで迎える方も多いため、日頃よりコミュニケーションを多くとり希望をかなえていくことを次年度も継続していく。

② 職員も楽しめる行事を企画する。

令和2年よりコロナ対応が始まり、制限のある中、行事らしい行事もなく、人との距離に一定の間隔をとり職員のコミュニケーションの機会も減っていたが、今年度からは、吉祥祭の出し物で大正琴をゲストと演奏やコーラス隊の結成、花火大会などの行事を行い、慰問での太鼓演奏やバンド演奏、保育園のこどもの慰問など昨年より行事も多く、一緒に参加し一緒に楽しむことが出来た。

3. 令和5年度充足率表

○充足率推移 (%) 定員 70名



去年に引き続き、待機者がいないまま年度が始まり8月に満床となるが、翌月には退居や死亡などもあり、充足率は97.1%、平均の入所者数は、68名という結果になる。都度、役所への連絡を行うが、待機者はいないという返答が多く、スムーズな入所には繋がっていない。また見学や問い合わせから相談も10件ほどあり役所へ繋げるが、入所には至っていない。病院等や地域包括など定期的なお知らせは今後も必要と思われるので継続して実施していく。養護老人ホ

ームのため、自立されている方もいるが、特定施設の指定を受けているので介護度をお持ちで状態が不安定な方が多くなってきている。また独歩で歩行不安定な方が転倒後、骨折入院するケースもあり、月初めに在籍していないという月もあった。

○入退所等内訳表 (人)

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
① 令和5年度	9	11	17	14	5	2

○介護度別年齢別等人数表

令和6年3月31日時点での在籍数

介護度	令和4年度				令和5年度			
	合計 人数	男	女	平均	合計 人数	男	女	平均
非該当	5	2	3	85歳	5	2	3	86歳
要支援1	8	2	6	83歳	6	2	4	85歳
要支援2	3	0	3	91歳	2	0	2	91歳
要介護1	18	6	12	84歳	23	7	16	83歳
2	13	4	9	85歳	10	1	9	79歳
3	10	2	8	86歳	9	2	7	89歳
4	5	1	4	87歳	6	3	3	87歳
5	5	1	4	89歳	4	1	3	94歳
合計	67	18	49		65	18	47	
平均 介護度		1.8	2	1.9		1.8	1.8	1.8
平均年齢		83歳	86歳	85歳		82歳	88歳	85歳
最高年齢		93歳	99歳			93歳	100歳	
最小年齢		72歳	74歳			73歳	75歳	

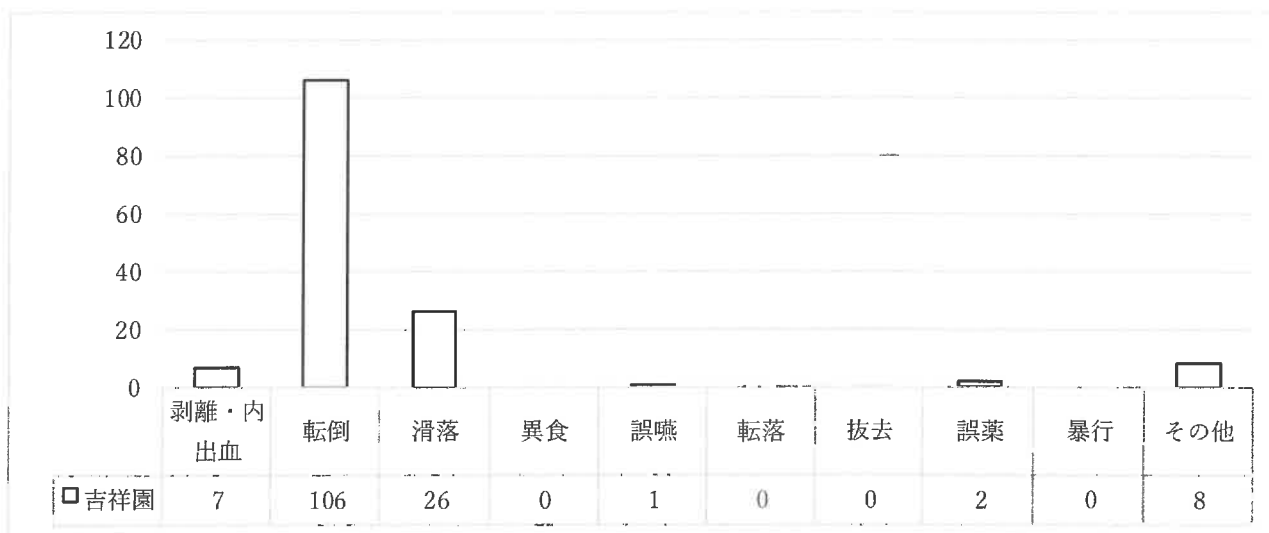
4. <<リスクマネジメント報告>>

① 報告件数

	令和4年度	令和5年度
事故件数	181件	150件
ドキドキ件数	163件	153件

②発生内容別件数

○事故内容



② リスクマネジメントまとめ

前年度より、事故件数は減っているが、転倒事故の件数はほぼ同じ件数起きている。コロナが5類になったとはいえ、今年度も2度にわたりコロナ対応を行った、感染者が出ると居室対応で活動量の低下、ADLの低下が顕著にみられた。職員の異動や退職による人数不足となり、派遣職員や新人職員等を配置するが、指導不足や引継ぎ不足により転倒を防ぐことが出来なかった。また転倒内容も打撲だけにおさまらず骨折入院が増加となった。次年度は、環境を整え、日常的なリハビリを行うとともに下肢筋力の維持できるよう日頃の過ごし方から観察し転倒に至らない環境を考えていく。

4. <<苦情・相談結果報告>>

報告件数

報告件数	令和4年度			令和5年度			
	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	15件	5件	10件		18件	2件	16件

まとめ

同じ方からの相談も多く利用者同士のトラブルで間に入って調整することが多かった。苦情として取り上げた件数は2件でご家族への説明不足と本人とご家族の思い違いによる外出トラブルがあった。関係作りができれば、苦情にもつながらないため、次年度も相談のうちから傾聴することで日常のコミュニケーションを大切にしていこう。

5. 《新型コロナウイルス感染症報告》

○発生件数

陽性者 (職員)	陽性者 (ゲスト)	感染拡大防止対策で要し た費用	感染拡大防止対策で得た 補助金・見舞金等(見込 み含む)
3人	7人	¥76,350	¥1,273,000

○新型コロナウイルス感染症まとめ

- ・令和5年5月8日より新型コロナウイルス感染症が2類感染症から5類感染症へと移行され、インフルエンザと同様の扱いとなり、ご家族の面会を再開する。5月15日にゲスト1名発熱しコロナ陽性を確認後、5月22日まで感染対応を行う。6名のゲスト、1名の職員が陽性となった。
- ・2回目は令和5年8月13日にゲスト1名発熱、職員2名が陽性となるが、8月22日に拡大することなく感染対応を終えることが出来た。
- ・何度となく新型コロナウイルス感染症を対応していくことで、職員の感染対応能力も上がり、落ち着いて行動し対応にあたることが出来た。
- ・その後も新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ、感染性胃腸炎に不安を抱えながらも以前のような日常に戻していくことが出来た。

《総括》

今年度は、新型コロナウイルス感染症の分類が5類へと移行し、陽性者の療養を施設で行うことでも対応が変化したことで様々な負担が軽減され、職員の対応能力もあがった年となった。また、いろんなことが再開となり利用者、職員ともに元気に過ごせた一年でもあった。充足率については、他施設への退居や死亡退所などの空きをスムーズに埋めることが出来ず、97.1%という結果となる。養護老人ホームの特色や窓口を病院などに知らせて回り区役所の窓口にも連絡を入れるが空床を埋めることは出来なかった。引き続き、定期的に挨拶回りをを行い、スムーズな入居につながるよう、連携強化に努力する。

コミュニケーションの時間を取ることで何を望んでいるのかを聞き出し楽しみにつなげることを重視してきたが、一部の方にしか実施できなかったため、次年度も実施し、毎日のケアの中から楽しみが見つけられるように職員が余裕を持てる環境を整えていく

令和5年度 事業報告書

指定特定施設入所者生活介護事業所 大慈吉祥園

1. <基本方針>

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的・肉体的な援助を行う。又、ゲストの皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。

2. <令和5年度重点目標・行動計画>

『コミュニケーションをとっていく中でお互いの楽しみを見つける』

※大慈吉祥園に準ずる

3. <職員体制>

管理者 1名	介護支援専門員 1名（吉祥園の相談員兼務）	介護職員 5名以上
	相談員 1名（吉祥園主任相談員兼務）	

令和5年度 事業報告書

ヘルパーステーション大慈

1. <基本方針>

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的・肉体的な援助を行う。又、ゲストの皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。

2. <令和5年度重点目標 行動計画>

『コミュニケーションをとっていく中でお互いの楽しみを見つける』

※大慈吉祥園に準ずる

3. <職員体制>

管理者1名	サービス提供責任者2名以上 (訪問介護職員兼任)	訪問介護職員3名以上
-------	-----------------------------	------------

1. <<基本方針>>

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、入居者一人一人の意思及び人格を尊重し、入居者の居宅における生活への復帰を念頭に置いて、入居前の居宅における生活と入居後の生活が継続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいて入居者が相互に社会関係を築き、自律的な日常生活を営むことができるサービスを提供する

2. <<最終目標>>

心・和み・笑顔 ～私達が将来入居したい施設を目指します～

「いつでも前向き」「私はあなたで、あなたは私」「共に楽しみ、共に笑う」

- ・全ての人々の心を大切にします
- ・全ての人々の和を大切にします
- ・全ての人々が笑顔になれる場所にします

3. <<令和5年度 施設の目標>>

①人財育成（チームコーチングにより、人間力を向上させます。）

令和4年の1月より開始したチームコーチングを1年間継続して実施した。チームを作り上げ人間力向上させる為には、信頼関係作りが大切であると再認識した。その為に職場のコミュニケーションの場をもっと意義ある物に作り上げる必要があると考え、会議と報連相について着目し、コーチングを受けるメンバー全員で意味と手段を考えた。その手段を実施する事で、以前に比べて格段に職員1人1人が、自分の役割に責任を持つ姿勢が見られる様になった。以前に比べ、職員1人1人が持つ責任の量が増えた事で、役職者の業務量が減少する傾向は見られて来ている。

②シフトシステム改革（無理なく、協力しあえるシフトシステム構築をします。）

リーダー会議で、各フロアで作成し持ち寄った勤務表を見ながら、他フロアの応援を出来る様にし、時間外を減らすシステムを構築した。突然の欠勤をカバーできる体制は出来ていないが、勤務表作成時に分かっている欠員フロアを応援できる体制は出来た。夜の緊急出勤への負担を無くす為、各フロアに1人ではなく、智音園全体で1人の夜間当番を導入した。当番制を導入した事で、各リーダーの負担は減少した。

③業務改善（職員から発信される無理と無駄をリサーチし、現場業務の見直しを行います。）

ほのぼのケアパレット（iPad）にて、食事量、水分量を打ち込める様に変更した。紙に記入した物をパソコンに入力しなおすと言う業務を減らした。

使い捨ておしぼりを導入した。排泄タオルを濡らして絞る。使用後のタオルを集めて分別する。2個の作業の削減が出来た。又、使用後のタオルが減少した事で衛生面でも効果が得られている。費用の面でも、コスト削減につながった。

ピュアット（入浴介助器具）を導入した。入浴については、ゲスト1人10分程度の短縮になっている。ただ、まだ、慣れずに短縮出来ていない職員も居るので、職員全員が上手く使える事が出来る様に浸透させていく課題は残っている。令和6年の1月から導入したばかりなので、今後、水道光熱費の削減についての評価も必要と考える。

Hug（移乗介助器具）を導入した。導入したばかりで職員が上手く使えていない。職員全員が上手く使える事が出来る様に浸透させていく課題が残っている。

④福利厚生（職員を大切にしている施設であることを、職員がさらに感じられる施設になります。）

ゲストの家族からの喜びの声を職員全員に伝える仕組みを作った。称賛の音が得られる事で、仕事へのやりがいや誇りに繋げている。

職員アンケートから社員旅行を実施した。日帰りと1泊旅行を実施し、職員からは、また行きたいと喜びの声が多く上がった。

職員アンケートから、忙しい職員の為に、パンの移動販売を施設に呼んだ。多くの職員がパンを購入している姿が見られており、毎月1回呼ぶ事となった。

⑤サービスの充実（ゲストと家族に満足頂けるサービスを提供します。）

ゲストの願いを聞きとり、個別に1個ずつ叶えて行ける様に実施していった。個別の願いを叶えられる事で、ゲストや家族に大きな喜びを感じて頂けた。

ゲストからの「綺麗なお花が見たい」の願いを叶える為、補助金を利用し、小さな園庭を作った。ゲストの写真スポットになっている。

ご家族に対して、行事のご案内や、施設の感染状況をLINEと言うアプリを利用して随時お伝えする事が出来る様に、ヒトメコネクトを導入した。行事の参加の連絡が容易になった事で、多くの行事にご家族をお誘いする事が出来る様になった。感染状況についても細かく連絡出来る様になった。登録されておられないご家族もおられるが、登録するかどうかは選んで頂いているので、苦情はみられていない。

ご家族を招待した施設行事を多く実施した。

ゲストのご様子をお伝えする写真とコメントは、毎月継続して作成し、ご家族に送付した。

⑥部署を超えた繋がり（共創する関係を作ります。）

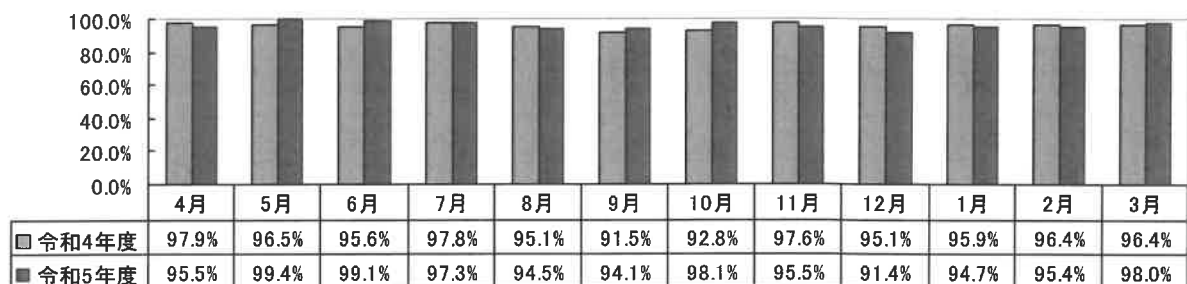
部署を超えた職員同士のつながりを持てる様にお昼休憩時にご飯を食べながら交流するランチ会を実施した。他フロアとの職員の繋がりを持てる一歩となった。

4. <<経営部門>>（定員70名）目標：充足率98%

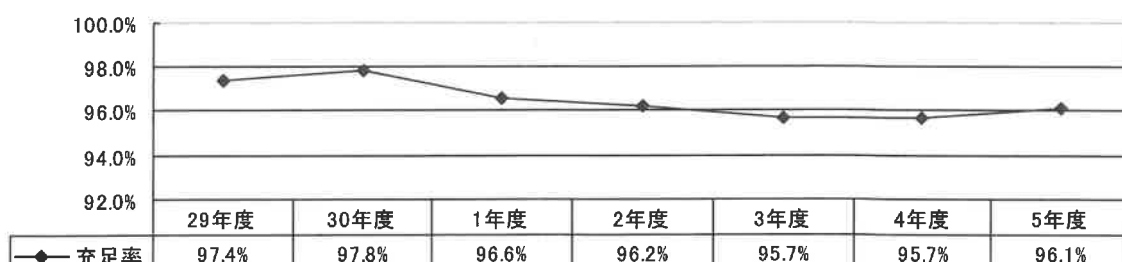
目標は98%であったが、96.1%となった。

5月6月と好調であったが、ゲストの体調不良にて入院者が多くなると、充足率に響いた。ただ、今年度は、入居とショートステイを一体的に、入居のお部屋が空いている際には、ショートステイで利用する事が出来た為、ショートも含めた施設全体としての報酬は上げる事が出来た。

○令和4・5年度月別充足率表



○※1 年度別充足率推移



○※2 入退所等内訳表 (人) (延)

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
① 令和4年度	24	13	35	20	10	0
② 令和5年度	23	11	35	27	11	0
増減②-①	-1	-2	0	7	1	0

○介護度別年齢別等人数表

令和6年3月31日時点での在籍数

平均滞在期間35ヶ月 (男性30ヶ月、女性37ヶ月)

最高滞在期間107ヶ月

要介護度	令和4年度				令和5年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
1	0	0	0		0	0	0	
2	1	0	1	93	0	0	0	
3	29	10	18	87.8	23	7	16	87.6
4	23	4	19	87.6	26	5	21	89.3
5	17	5	12	85.1	22	3	19	87.3
合計	70	19	51	87.1	71	15	56	88.2
平均介護度		3.7	3.8	3.8		3.8	4.0	3.9
平均年齢		83.7	88.6	87.1		84.4	89.3	88.2
最高年齢		98	101			99	101	
最小年齢		65	71			66	73	

5. 《OFF-JT》

日付	研修内容	参加人数
4月25日	BCPについて 人事考課について	6名
6月26日	実践的に行う服薬サポートについて	11名
6月27日	ESBL産生菌について 標準予防策について	5名
7月26日 8月30日 10月4日	コンプライアンス・高齢者虐待防止研修 身体拘束の適正化に関する研修	63名
8月28日	実践的に行う服薬サポートについて	6名
10月6日	実践的に行う服薬サポートについて	5名
11月29日	レジオネラ菌・嘔吐処理・ガウンテクニック	9名
12月28日	リフト浴研修	13名
1月31日	緊急時対応	9名
2月19日	ノーリフト 看取りオンコールの取り決め・プライバシー配慮	12名
3月28日	労働衛生 身体拘束 次年度の事業計画について	6名

6. 《年間実施行事》

月	年間行事	
	施設内行事	
① 4月3日 ② 4月5日 ③ 4月6日	① お花見お散歩（伊川谷沿い） ② 花見弁当 ③ 4階 揚げたて天ぷら	① 伊川谷沿いにお花見に行き大変楽しめました。 ② 巻き寿司と揚げ物が両方あって、豪華で嬉しいと声が聞こえた。甘酒はゲストに人気で、提供すると「美味しい。」と喜ばれていた。・いわしの天ぷらが食べたいという意見があった。 ③ 天ぷらを目の前で選んでいただき、「どれにしようかな。こんなに食べていいの。」など喜ばれていた。具材を伝えると「いらないと言われていたゲストも、目の前で揚げたての天ぷらを見ると1個食べてみようかなと召し上がられていた。
① 無し ② 5月12日 ③ 5月11日	① こいのぼりを見る会 ② 母の日（おやつ） ③ 3階 揚げたて天ぷら	① こいのぼりを見る会は今年度実施せず。 ② おいしいと喜んでおられた。とても好評で、おかわりされる方もいた。初めはホットケーキの大きさに驚かれていた方もいたが、すべて完食されていた。 ③ 揚げたてはおいしいと、喜んでいただけた。いつもよりたくさん召し上がられていた。ミキサーペースト食のゲストも、小さくカットして天つゆにつけて提供できた。美味しいと言われ、喜んでいただけた。11時30分にフロアに上がったが、準備や提供に時間がかかりBユニットでの提供が遅くなってしまった。
① 6月16日 ② 6月2日	① 父の日（おやつ） ② 2階 揚げたて天ぷら	① 事前にアンケートを行い、予算の中で嗜好品を提供することが出来てよかった。普段口にする機会が少ない物を召し上がっていただくと、口数や笑顔が増え大変喜んで召し上がっているのが印象的であった。普段自力摂取で召し上がる事が少ない方が「美味しい」といい、自力摂取で全量召し上がっている姿をみて、職員もうれしくなった。 ② 自分で好きなものを選べる形が良かった。おかわりされる方もいてとても好評だった。準備、油の再加熱などでSSでの提供が遅くなってしまった。目の前で揚げる工程を見るなど、普段ない機会に喜ばれていた。
① 7月7日 ② 7月6日	① 七夕（ちらし寿司） ② 5階 揚げたて天ぷら	① ちらし寿司から巻き寿司に変更した。巻き寿司は華やかではあるが、

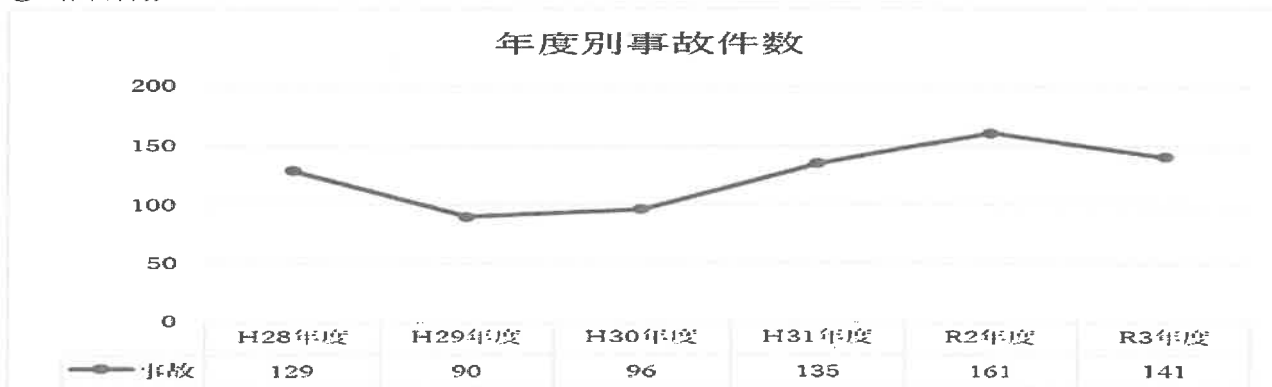
		<p>崩れやすく食べにくかったとの意見が多数あり、ちらし寿司の方が良かったので来年につなげる。</p> <p>② 天ぷら好評で沢山召し上がられた。揚げている所が見えにくいとの意見もあった。</p>
<p>① 8月22日 23日</p> <p>② 8月8日9日</p> <p>③ 8月3日</p>	<p>① 夏のそうめん</p> <p>② ちいさい花火大会</p> <p>③ 4階 焼きたて焼き鳥</p>	<p>① 何回も食べたようなゲストもあおり、ゲスト全員よく食べてもらえた。流しそうめんを楽しいと喜んでもらえた。</p> <p>② ご家族と一緒に楽しんでもらえた。手持ち花火も楽しんでもらえた。打ち上げ花火は家族から好評であった。</p> <p>③ Aユニットからスタート。Aユニットのゲストはお腹を空かしており、選ぶ楽しみもあり大反響であった。Bユニットは反応が薄く、他の食事を召し上がっておられる際中であった為、満腹になられているゲストもいた。あるゲストからは、焼き鳥の時はビールが欲しいとの声も聞かれた。</p>
<p>① 9月19日</p> <p>② 無し</p> <p>③ 9月7日</p>	<p>① 敬老の日 (巻き寿司)</p> <p>② お月見会</p> <p>③ 3階 焼きたて焼き鳥</p>	<p>① 巻き寿司からおはぎ作りに変更した。男女ともに大変喜んでいただいた。丁寧に作られ楽しめる姿みられた。</p> <p>② お月見会は今年度実施せず。</p> <p>③ 人員配置が少なかった。普段食べないゲストも食べておられ好評だった。</p>
<p>① 10月18日</p> <p>② 10月5日</p>	<p>① 秋の味覚行事 (土鍋ご飯)</p> <p>② 2階 焼きたて焼き鳥</p>	<p>① 土鍋をコンロに置いてご飯を炊いている様子にゲストも目をやっていた。土鍋ご飯のいい匂いがしているにも関わらず、ゲストにはあまり伝わらなかった。</p> <p>② 普段食べれない焼き鳥を熱々で提供し大変喜んでいただいた。</p>
<p>① 11月14日</p> <p>② 11月2日</p>	<p>① 冬の土鍋雑炊</p> <p>② 5階 焼きたて焼き鳥</p>	<p>① 開始時間が遅くなり、ゲストに提供する時間が遅くなってしまった。提供する際も熱過ぎる状態で有ったのが、反省される。雑炊を提供した後はゲストも喜ばれる様子が見られ、おかわりをされるゲストが多数いた。</p> <p>② よく召し上がっており好評だった。はんぺんが全員分無かった。種類が多く、選べる楽しさがあった。</p>
<p>① 12月22日</p>	<p>① クリスマス会</p>	<p>① マフィン好評だった。2階は職員が</p>

② 12月31日 ③ 12月8日	クリスマスランチ ムースデコレーション ② 年越しそば ③ 4階 揚げたて串カツ	ハンドベルを演奏し、楽しんで頂けた。4階入浴剤等のプレゼントやチキンナゲットやフルーツポンチをして好評、普段食べない人も食べていた。印刷したランチョンマットも行事毎にしたい。 ② 毎年恒例の年越しそばを提供し美味しく召し上がっていた。 ③ エビなど食べ易く好評だった。バナナは賛否両論あり。量が多かった。
① 1月1日 ② 1月7日 ③ 1月12日 ④ 1月8日	① おせち ② 七草粥 ③ 鏡開き (ぜんざい) ④ 3階 揚げたて串カツ	① おせちを見た目から楽しんでいただけた。お正月の雰囲気を楽しんでいただけた。 ② 七草がゆ大きな問題なく召し上がられた。 ③ ぜんざいを提供し大変喜んでいただき、美味しいと好評だった。 ④ 串カツ好評でよく召し上がっていただけた。
① 2月2日 ② 2月14日 ③ 2月1日	① 節分 (巻き寿司) ② バレンタインデー (チョコレートケーキ) ③ 2階 揚げたて串カツ	① 各階思考をこらしたレクリエーションが出来て盛り上がっていた。巻き寿司は好評だった。 ② ケーキからチョコフォンデュに変更した。珍しい物で大変喜んでいただけた。 ③ 串カツの種類が多く、大変喜んでいただけた。
① 3月4日 ② 3月7日	① ひな祭り (ちらし寿司) ② 5階 揚げたて串カツ	① 多くのゲストに大変喜んでいただけた。いなり寿司も提供し美味しいと好評だった。 ② 串カツの種類が多く、大変喜んでいただけた。

7. <<リスクマネジメント報告>>

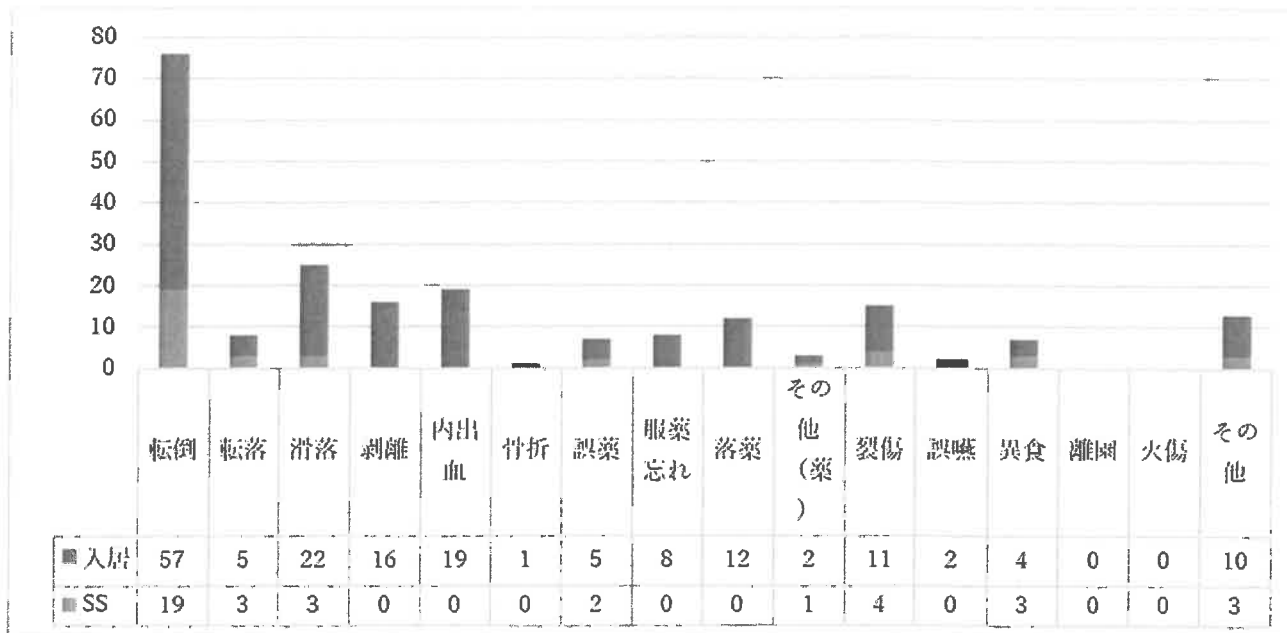
☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

① 報告件数



	令和4年度	令和5年度
事故件数	158件	174件

② 発生内容別件数



③ リスクマネジメントまとめ

前年度より事故総数が増加した。薬関係の事故は年度から主任が各フロアの会議に参加し研修を年3回実施したことで減少していたが、年度途中からは意識が薄れてくることで薬関係の事故が増加することとなった。その為、年間通しての研修、意識づけが必要だと考える。来年度に向けては類似事故防止を目標に会議コーチングの活用をリスク委員会で取り組み、事故防止に努める。

8. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→智音会議にて、多種職での話し合いの結果決定する。

○報告件数

報告件数	令和4年度			令和5年度		
	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情
	50件	7件	43件	58件	6件	52件

○まとめ

コロナウイルスが第5類になった事で、ご家族や外部とのかかわりが増えた。その事で、外部リハビリや外部受診や行事や直接面会等、ここ3年程（コロナが第2類感染症であった期間中）に無かった事への相談が特に多かった。

令和5年度の始まりは、対処・指示内容を管理者が多く記入し、指示する事が多かったが、施設全体で解決する力の向上が感じられ、相談事に対しても12月以降は、初期対応にて解決出来ている事が多くなった。

9. 《新型コロナウイルス感染症報告》

令和5年度				
	陽性者 (職員)	陽性者 (ゲスト)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金

ショート	17人	1人	かかりまし人件費 (1,094,941円)	補助金 受領済 (1,461,000円)
特養		10人	対策必要物品費用 (913,146円)	申請中 (894,000円)

10. 《総括》

今年度の充足率の目標を達成することが出来なかった。

ただ、入居とショートステイを一体的に、入居の部屋が空いている際には、ショートステイで利用する事が出来た為、ショートも含めた施設全体としての報酬は上げる事が出来た。

チームコーチングにより、人材育成に力を注いだ。以前に比べ格段に職員1人1人が自分の役割に責任を持つ姿勢が見られる様になり、役職者の業務量が減少する傾向が見られて来ている。

また、チーム力が向上した事で、苦情・相談に対する解決力の向上を感じる事も出来た。

1人1人の意識を改革する事に取り組んだ事で、着実に成長に繋がっていると感じる事が出来た1年であった。

令和5年度 事業報告書

大慈智音園ショートステイ

1. <基本方針>

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的、身体的な援助を行う。又、居宅における生活と利用時の生活が継続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいてゲストが相互に社会関係を築き、自律的な日常生活を営むことができるサービスを提供する

2. <最終目標>

心・和み・笑顔 ～私達が将来入居したい施設を目指します～

「いつでも前向き」「私はあなたで、あなたは私」「共に楽しみ、共に笑う」

- ・全ての人々の心を大切にします
- ・全ての人々の和を大切にします
- ・全ての人々が笑顔になれる場所にします

3. <令和5年度 施設の目標>

①人材育成（チームコーチングにより、人間力を向上させます。）

大慈智音園同様

②シフトシステム改革（無理なく、協力しあえるシフトシステム構築をします。）

大慈智音園同様

③業務改善（職員から発信される無理と無駄をリサーチし、現場業務の見直しを行います。）

大慈智音園同様

④福利厚生（職員を大切に作る施設である事を、職員がさらに感じられる施設になります。）

大慈智音園同様

⑤サービスの充実（ゲストと家族に満足頂けるサービスを提供します。）

大慈智音園同様

⑥部署を超えた繋がり（共創する関係を作ります。）

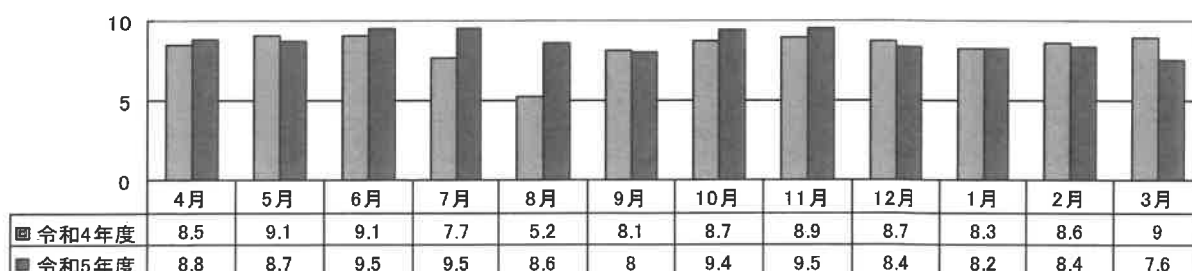
大慈智音園同様

4. <経営部門>（定員10名）目標：充足率 日中100%

日中97.2%という結果となり、前年よりも5%程度アップした。

入居と施設全体で考えてご利用いただいた。

●平均人数→夜間8.7人（前年度 夜間8.3人）



●介護度別年齢別等人数表（令和6年3月31日時点での実人数）

要介護度	令和4年度				令和5年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
支援1	0	0	0		0	0	0	
支援2	14	6	8	84	0	0	0	
1	20	3	17	93.9	12	7	5	94.5
2	73	13	60	92.8	58	16	42	86.2
3	64	29	35	90	42	32	10	86.5
4	62	10	52	88.3	59	6	53	90.1
5	40	23	17	87.8	85	46	39	87.2
合計	273	84	189	90.1	256	107	149	88.1
平均介護度		3.5	2.8	3		3.2	3.1	3.1
平均年齢		86.9	91.6	90.1		83	92.5	88.1
最高年齢		94	97			93	103	
最低年齢		75	71			67	82	

5. 《OFF-JT》
 6. 《年間実施行事》 } 大慈智音園同様

7. 《リスクマネジメント報告》
 事故の定義→膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

① 報告件数

	令和4年度	令和5年度
事故件数	30件	38件

② 発生内容別件数



③ まとめ

前年度より事故総数は増加した。同じゲストが同じ事故を繰り返されたりする類似事故の対策が上手く機能していなかった。令和5年度からは周知徹底するためにリスク委員会では会議コーチングを活用、情報共有として介護ソフトの活用を行った。令和6年度は対策の周知徹底を行い、類似事故防止に努める。

8. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→智音会議にて、多種職での話し合いの結果決定する。

○報告件数

令和4年度				令和5年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
		3件	0件		3件		16件

○まとめ

苦情相談件数としては、16件であった。苦情は0件を目標としていたが、苦情も1件発生した。ゲスト同士のトラブルと、洗濯物のトラブルが多い。
 ゲスト同士のトラブルについては、認知症の方も多いため、0件にする事は難しいが、相談を受ける事とゲスト同士の関係性を職員が把握する事で、事前に対処できる様に努めたい。
 また、洗濯物のトラブルについては、来年度は0件に出来る様に努めていきたい。

9. 《総括》

相談員が、施設の入居とショートステイのどちらも調整した事で、入居の方が入院した時に、ショートステイの部屋として活用する事が出来た。
 ショートステイとして単独で、去年度よりもかなりの介護報酬アップが出来た。
 ただ、年度末に多くの方が入院されたり亡くなったりした事で、お部屋の空きが多く出た。ショートステイであっても、長期で利用する事をご希望される方の方が多く、ご入居よりも、ショートステイとして本来の利用方法でご利用される方の方の数が少なくなっておられる様に感じられる。ご利用になられる方々のニーズの変化に合ったサービスを提供し満足頂きながら、施設の充足率も上げる事が出来るwin-winの関係性が築ける様に検討していきたい。

令和5年度 事業報告書

ケアハウス大慈

1. <基本方針>

法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき、ゲストの人権を尊重し、自分らしく心豊かに生活を送っていただけることを目指し努力する。いつでも笑顔を絶やさず、思いやり・真心をこめて接することでゲストとの心のつながりを大切にする。ゲストが安全で健康的な暮らしができるようサポートする。

2. <最終目標>

いきいきのびのびスマイリー運動

みんなが生き生き・みんなが伸び伸び・みんなが笑顔

(みんなとは、ゲスト・ご家族・職員を指します)

- ・生きがい・やりがいを大切にします
- ・自分らしさを大切にします
- ・自然と笑顔溢れる温かい雰囲気大切にします
- ・みんながしあわせになることを目指します

3. <中期目標>

- ① 地域から、選ばれる施設にする
- ② 周囲から、この施設で働きたいと思われる事業所にする
- ③ まんだらシートに掲げた目標を達成させる

4. <令和5年度重点目標>

<ケア部門>

- ① コーチング研修で学んだコーチングスキルをしっかりと習得する（1年目）
 - A) 組織体制の見直しと確認を確実に行う
 - ・部署、管理者、各専門職の役割分担の見直しと定着を図る
 - B) 自慢のチームにする
 - ・各職種が自分の専門性に誇りを持つ
 - ・主体性を持ち、すべきことをする
 - ・風通しが良い
- ② 24時間シートを活用し、個別ケア（ゲストが望む生活）を充実させる
 - A) スタッフ間でケアのレベルを統一する
 - B) スタッフ間で情報の共有ができる
 - C) 予防（気付き）を含め、ケガや事故のリスクを軽減させる

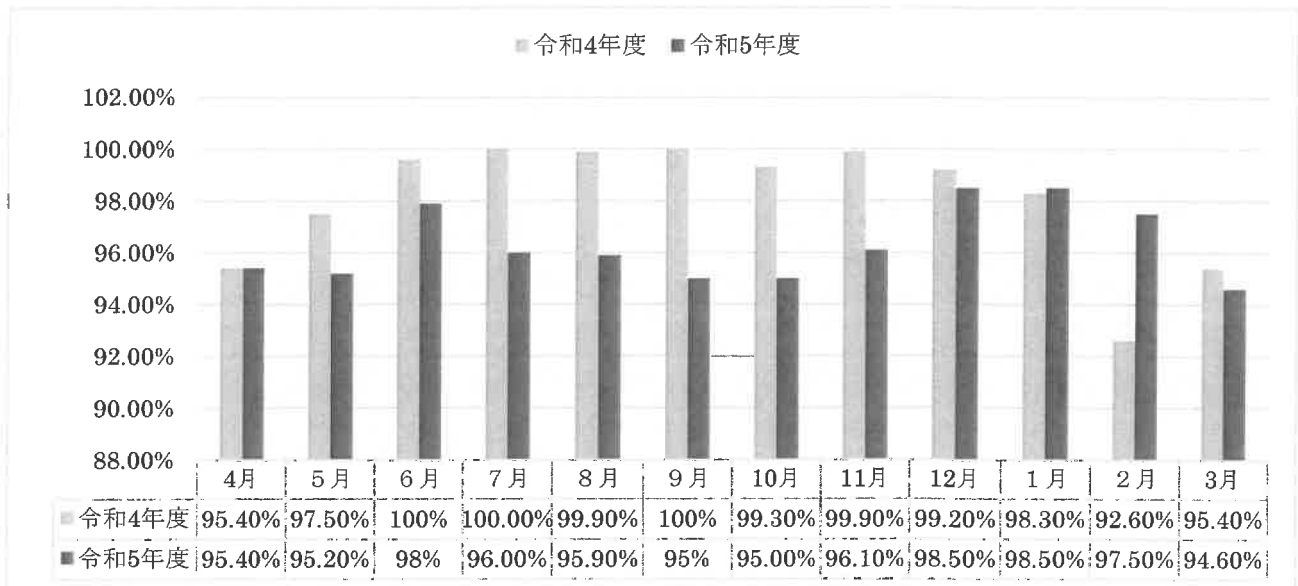
○まとめ

1回/月のコーチング研修を1年通して実施した。各フロアから2名、各部署・専門職などで計22名が参加している。施設のビジョンや中期目標に対し、4つのチームで構成、コーチング研修で学びながら個人の目標と目的、組織の目標と理念達成に向けて等、話し合い、各チームが其々行動し始めた。コーチング研修は2年目に入ろうとしているが、参加している職員もまだやらされている感があるように思われ、参加していない職員に関しては尚更のように感じる。次年度は、全職員に対して研修や面談を行うことで目的や役割を明確にし、

職員が自立的・自発的に考え、目標の成功例を重ねることでモチベーションアップ、やりがいに繋がるようにしていきたい。24時間シートに関しては、ゲスト毎に作成中であるが、進捗状況はフロアによって差がある。仕上がっていたとしても日常業務で使用できていない・更新もできていない現状がある。ケアの統一、情報共有に関して、24時間シートを使用し、どう進めていくか大きな課題が残った。また、代替え等も含め早急に話し合っていきたい。

<経営部門>

- ① 在籍率97%以上、在園率95%を維持する
 - A) 確実な待機者数5名以上確保しておく
 - ・定期的な連絡を実施する
 - ・定期的な営業活動を実施する



○入退所等内訳表

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
4年度	18	21	35	29	14	11
5年度	34	37	57	42	18	12
増減	+16	+16	+22	+13	+4	+1

<充足率> (90名定員)

充足率 令和4年度 98.12%
令和5年度 96.3%

○まとめ

今年度の充足率は96.3%となり、昨年度より下回った。昨年度は10名の看取りをさせていただいたが、今年度は施設で13名のゲストの看取りがあった。病院で亡くなられたゲストが13名、その他、医療的ケアが必要となり施設に戻って来れず他施設・病院へ移動されたゲストも10名あり、今年度36件の退所があった。この2年の間に半数以上のゲストが入れ替わったことになり、待機者数が大きく減少した。また、入院も平均3.6名となっており、在園率も下げる結果になった。しかし、地域に根付いている施設でもあり、見学者も毎月コンスタントにあること、ゲストご家族からのお知り合いにご紹介いただくケース等も増えてきている。次年度は、営業活動にも力を入れると同時に、待機者人数を増やし待機者管理、また、迅速に入居に繋がられるよう退居を見越した調整ができるようにしていきたい。

○介護度別年齢別等人数表 (定員90名)

要介護度	令和4年度				令和5年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
非該当	4	1	3	90.69歳	4	1	3	89.93歳
支援1	12	3	9	92.08歳	16	2	14	92.39歳
支援2	10	4	6	90.56歳	7	2	5	92.25歳
1	14	3	11	89.83歳	16	0	16	87.72歳
2	16	3	13	92.99歳	12	3	9	91.63歳
3	9	1	8	88.94歳	8	3	5	87.81歳
4	15	5	10	89.15歳	14	4	10	91.86歳
5	11	1	10	93.84歳	10	1	9	94.94歳
合計	86	21	65		87	16	71	
平均介護度		2.7	3.1	2.9		2.9	2.8	2.8
平均年齢		89.1歳	90.51歳	90.13歳		82.78歳	92.02歳	90.35歳
最高年齢		98歳	98歳			98歳	100歳	
最小年齢		68歳	81歳			69歳	71歳	

5. <<環境整備計画>>

大規模修繕計画を作成し、経年劣化による修繕と業務効率を意識した整備を実施する

- ① 屋上防水改修工事
- ② 深井戸浚渫 (井戸孔内洗浄)
- ③ ベッド購入・Wi-Fiネットワーク (令和5年度の労働環境改善支援事業継続が条件)

<工事関連>

- ① 工事完了日 R6年1月14日
一般競争入札日 R5年2月27日
事業金額 19,500,000円 (消費税別)
- ② 工事完了日 R6年3月8日
事業金額 1,769,000円 (消費税別)
- ③ 介護業務における労働環境改善事業 (ケアハウス・さくら)
入れ替え完了日 令和6年3月7日完了
対象物品
・電動ベッド購入 (ケアハウス90台、ショートさくら10台)
一般競争入札日 令和6年2月27日
ベッド事業金額 36,485,000円 (消費税別)
(内、補助金額27,363,000円 施設負担額9,122,000円)
・Wi-Fi整備事業金額 2,720,000円 (消費税別)
(内、補助金額2,040,000円 施設負担額680,000円)

6. <<地域貢献事業>>

- ① 社会貢献委員会が主催する行事
 - ② ほっとかへんネットKOBÉ・西との連携
- まとめ

大慈弥勒園に準ずる

7. <<コロナ感染症補助金>>

○発生件数

職員陽性者	ゲスト陽性者	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞等（見込み含む）
25名	19名	2,297,932円（計5回分）

○まとめ

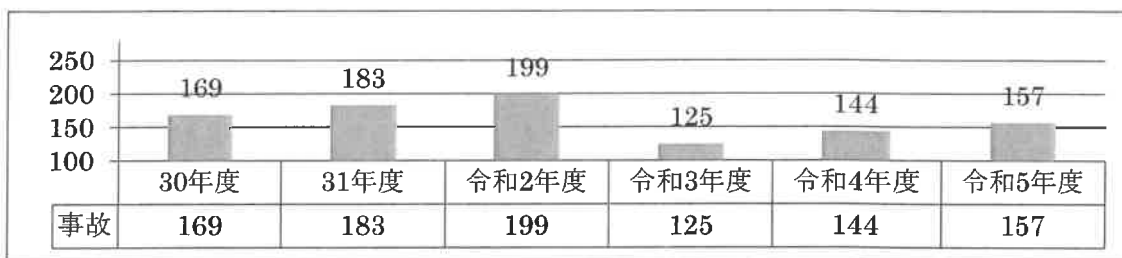
令和5年5月、新型コロナウイルス感染症が「5類」の位置づけになり、施設でも面会・外出等の制限を大幅に緩和してきた。しかしコロナウイルス感染症が施設内に入ると集団感染のリスクが高くなる。ゲストへの感染は重症化や死に至ることもあり、感染対策と対応は「2類相当」の時と変わらず慎重しっかり進めていく必要があると考える。

○R5年補助金

補助金・助成金	申請先	部署	金額	申請日	入金日
物価高騰対策福祉等緊急支援事業	神戸市高齢福祉課	ケア	2,854,440	R5.8.26	R5.9.28
	神戸市高齢福祉課	ケア	951,480	R5.11.28	R5.12.27
	神戸市高齢福祉課	さくら	325,080	R5.8.26	R5.9.28
	神戸市高齢福祉課	さくら	108,360	R5.11.28	R5.12.27
結核予防費補助金	神戸市保健所保健課	ケア	88,350	R5.9.22	R6.1.12
神戸市新規採用介護職員に関する住宅手当等補助事業	神戸市介護保険課	ケア	432,750	R5.12.11	R6.4.24
介護職種外国人技能実習生等日本語学習支援等事業	神戸市介護保険課	ケア	8,800	R5.11.29	R6.3.19
サービス継続支援事業	神戸市監査指導部	ケア	252,000	R5.7.31	R5.8.23
	神戸市監査指導部	ケア	658,000	R5.9.19	R5.8.23
	神戸市監査指導部	ケア	337,000	R5.11.28	R6.1.9
	神戸市監査指導部	ケア	798,000	R6.2.20	R6.3.4
	神戸市監査指導部	ケア	229,000	R5.3.31	未入
介護人材確保・定着支援事業	兵庫県シルバーサービス事業部	ケア	93,725	R5.7.4	R6.3.28
人材開発支援事業	兵庫労働局	ケア	319,900	R5.11.19	R6.2.16
介護業務における労働環境改善支援事業補助金（介護ロボット補助金）	兵庫県高齢政策課	ケア	24,627,000	R5.9.20	未入
	兵庫県高齢政策課	ケア	2,040,000	R5.9.20	未入
	兵庫県高齢政策課	さくら	2,736,000	R5.9.20	未入
外国人介護人材受入施設環境整備事業	兵庫県高齢政策課	ケア	107,000	R5.8.22	未入
			計 36,966,882		
		未入金額	計 29,632,000		

8. 《リスクマネジメント報告》 ☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①報告件数



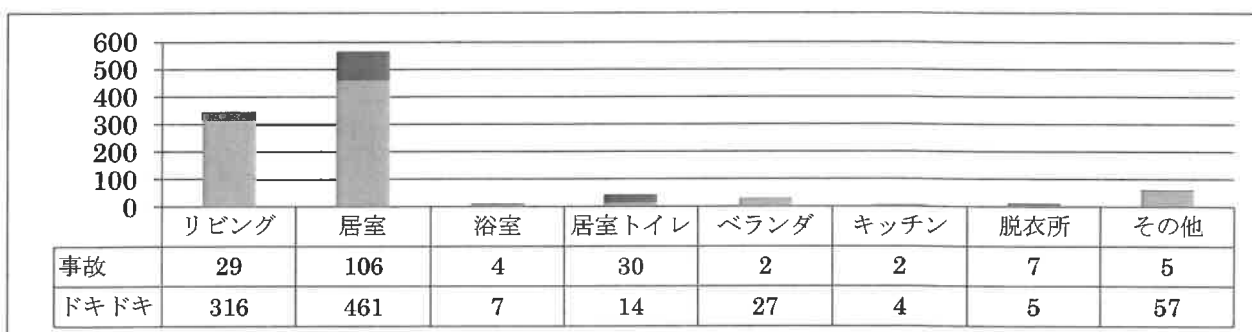
②事故・等内訳表

報告件数	平成4年度			令和5年度			
	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
	935件	141件	791件	1041件	1041件	157件	884件

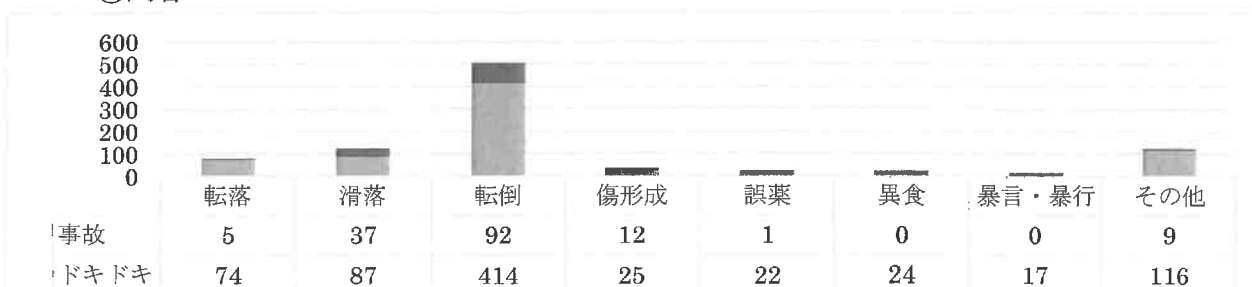
③フロア別内訳

報告件数	令和4年度			令和5年度			
	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
2F	86件	18件	68件	2F	99件	20件	79件
3F	196件	40件	156件	3F	157件	28件	129件
4F	228件	39件	189件	4F	76件	24件	52件
5F	207件	20件	187件	5F	458件	45件	413件
6F	218件	27件	191件	6F	251件	40件	211件
合計	935件	144件	791件	合計	1041件	157件	884件

④ 発生場所別件数



⑤内容



○まとめ

今年度は、転倒事故件数が増えた。リビングや居室（トイレ含む）での事故・ドキドキ件数が多く、その要因として、目が行き届きにくく見守り困難が上げられた。また、自立・要支援のゲストの転倒・骨折が毎月のようにあった。高齢に伴い下肢筋力の低下や認知症状による理解力の低下も上げられる。フロア別に見ると5階から6階の事故が増えている。ゲストの入れ替わりが多かったが、昨年対比、定員に達していないにもかかわらず事故は増えている現状があった。次年度は、事故後の現場検証と対策を確実にを行い、同じゲストの転倒事故を繰り返さない対策を立てていくと同時に、観察・記録などしっかりとやっていきたい。また、予防できる可能性のある事故に関しては、機能訓練指導員や看護師・介護士との連携、施設全体で分析・対策が必須であると考えます。

9. 《苦情・相談報告》

☆苦情提議・・・サービス向上委員会にて話し合い、苦情か相談かを決定する。

<報告件数>

報告件数	令和4年度			報告件数	令和5年度		
	合計件数	苦情	相談		合計件数	苦情	相談
	17	0	17		43	7	36

○まとめ

昨年度に比べ、今年度は苦情・相談件数が大きく増えた。主だった苦情・相談事項の内容は、初動対応のまずさで苦情が大きくなったこと、情報共有、他部署との連携の不足、ゲストやご家族への気遣いや配慮、説明不足など、どの項目に関しても多くの課題が残った。特に今年度はご家族から、連携の仕方や情報共有、施設の体制等をご家族から問われることもあった。その都度専門職等と話し合い対策を講じてきたが、次年度は課題を踏まえ、サービス向上委員会を主体、フロア会議などを通してしっかりと話し合い、確実に改善に繋げていきたいと考える。

10. 《職員会議等》

頻度	会議名			
月1回	法人運営会議	経営会議	会計会議	だいじな会議
	部門会議	営業会議	リーダー会議	事務部会
随時	ケアカンファレンス			

<委員会活動>

委員会名		
労働衛生委員会	チェリッシュ委員会	行事委員会
災害・設備委員会	感染防止対策委員会	リスクマネジメント委員会
サービス向上委員会	褥瘡検討委員会	身体拘束廃止委員会
事業戦略推進会議	予算管理委員会	

11. 《月行事・行事食・年間行事》

<食事>

行事食（赤飯）	毎月1日
お食事会	フロア別に毎月1回

月	行事		健康・予防接種	年間計画	防災計画
	施設年間行事 外出行事	栄養科	項目	内容	項目・内容
4月	お花見	お花見 ティータイム	ゲスト定期健診	採血 胸部X線	新人向け研修・ 消火訓練
5月	母の日 こどもの日	母の日 こどもの日	全職員定期健診	採血 胸部X線 検尿・検便 心電図	
6月	父の日	父の日			
7月	七夕	七夕 13周年記念 バイキング			
8月	地藏盆 かき氷	児童館交流会			避難訓練 (日中想定)
9月	敬老会	敬老会			OFF-JT (不審者・火災 想定) 図上訓練
10月	感謝祭	感謝祭	予防接種 (全職員)		
11月	お茶会 ハロウィン		インフルエンザ 予防接種 (ゲスト) 介護職員定期健診	採血 採尿	避難訓練 (夜間想定)
12月	クリスマス会	クリスマス会 餅つき大会			
1月	新年会 初詣 餅つき大会	おせち 7草粥 餅つき大会			神戸市 シェイクアウト 訓練
2月	節分	節分 バレンタイン デイ			避難訓練 (夜間想定)
3月	ひな祭り	ひな祭り 握り寿司 ホワイトデイ			OFF-JT (災害・ 地震想定図上 訓練)

1.2. <職員構成>

施設長	副施設長	生活相談員	看護職員 (パート)	管理栄養士
-----	------	-------	---------------	-------

1名	1名	1名	3 (1) 名	2名
事務員	介護職員 (1フロア)	介護職員 (パート) (1フロア)	機能回復訓練士	運転手
2名	7名	3名	1名	2名

1.3. 《総括》

一年を通して、コロナ感染症、苦情・相談、転倒事故、入院が多かったという印象がある。新型コロナウイルス感染症が「5類相当」になったものの、施設内で感染流行すると職員やゲストへの負担が大きかった。個々の体調管理と報告をしっかりとやっていきたい。苦情・相談に関しては、初動対応が適切でなかったため、トラブルを最小限に抑えることが出来なかったことが反省点に上がる。また、情報共有、連携等についても苦情・相談になったケースがあり次年度の課題として残った。チーム全体がスムーズに連携するためには、正確かつ迅速に情報共有が不可欠である。効果的な情報共有の方法・仕組みを早急にチームで考えていきたい。リスクマネジメントについては、転倒リスクの高いゲストが多くおられることを前提に、ヒヤリハットの段階で委員会を主体にし、もっと緊迫感をもって対策を講じていかなければならないと考える。コーチング研修を通じて、それらの課題が解決に繋がられるようチーム一丸となってやっていきたい。

令和5年度 事業報告書

ショートステイさくら

1. 《基本方針》

法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき、ゲストの人権を尊重し、自分らしく心豊かに生活を送っていただけることを目指し努力する。いつでも笑顔を絶やさず、思いやり・真心をこめて接することでゲストとの心のつながりを大切にする。ゲストが安全で健康的な暮らしができるようサポートする。

2. 《最終目標》

いきいきのびのびスマイリー運動

みんなが生き生き・みんなが伸び伸び・みんなが笑顔

(みんなとは、ゲスト・ご家族・職員を指します)

- ・生きがい・やりがいを大切にします
- ・自分らしさを大切にします
- ・自然と笑顔溢れる温かい雰囲気を大切にします
- ・みんながしあわせになることを目指します

3. 《中期目標》

- ① 地域から、選ばれる施設にする
- ② 周囲から、この施設で働きたいと思われる事業所にする

4. 《令和5年度重点目標》

<ケア部門>

① コーチング研修で学んだコーチングスキルをしっかりと習得する（1年目）

A) 組織体制の見直しと確認を確実に行う

- ・部署、管理者、各専門職の役割分担の見直しと定着を図る

B) 自慢のチームにする

- ・各職種が自分の専門性に誇りを持つ
- ・主体性を持ち、すべきことをする
- ・風通しが良い

② 個別ケアサービス計画の充実を図る

A) カラオケ・リズム体操などの集団レクリエーション、個別のニーズや要望に応じた楽しみを提供する

B) 居宅サービス計画書を基にショートステイでもサービス計画書作成し、目標を達成できるように努める

- ・お好きな事柄を入れ、個別性を高める

○まとめ

1回/月のコーチング研修を1年通して実施した。各フロアから2名、各部署・専門職などで計22名が参加している。施設のビジョンや中期目標に対し、4つのチームで構成、コーチング研修で学びながら個人の目標と目的、組織の目標と理念達成に向けて等、話し合い、各チームが其々行動し始めた。コーチング研修は2年目に入ろうとしているが、参加している職員もまだやらされている感があるように思われ、参加していない職員に関しては尚更のように感じる。次年度は、全職員に対して研修や面談を行うことで目的や役割を明確にし、職員が自立的・

自発的に考え、目標の成功例を重ねることでモチベーションアップ、やりがいに繋がるようにしていきたい。ショートに関しては、カラオケやリズム体操、集団レクリエーションを実施し、ゲストからも好評であった。参加時にご様子を写真に撮りご家族へお渡ししており、ご家族との信頼関係構築やリピーターにも繋がっている。また、習字や売店でも買い物等個別のニーズやご要望にも応じることができた。居宅サービス計画書に関してもお好きな事柄を入れて個性を高めた個別サービス計画書を作成できている。

<経営部門>

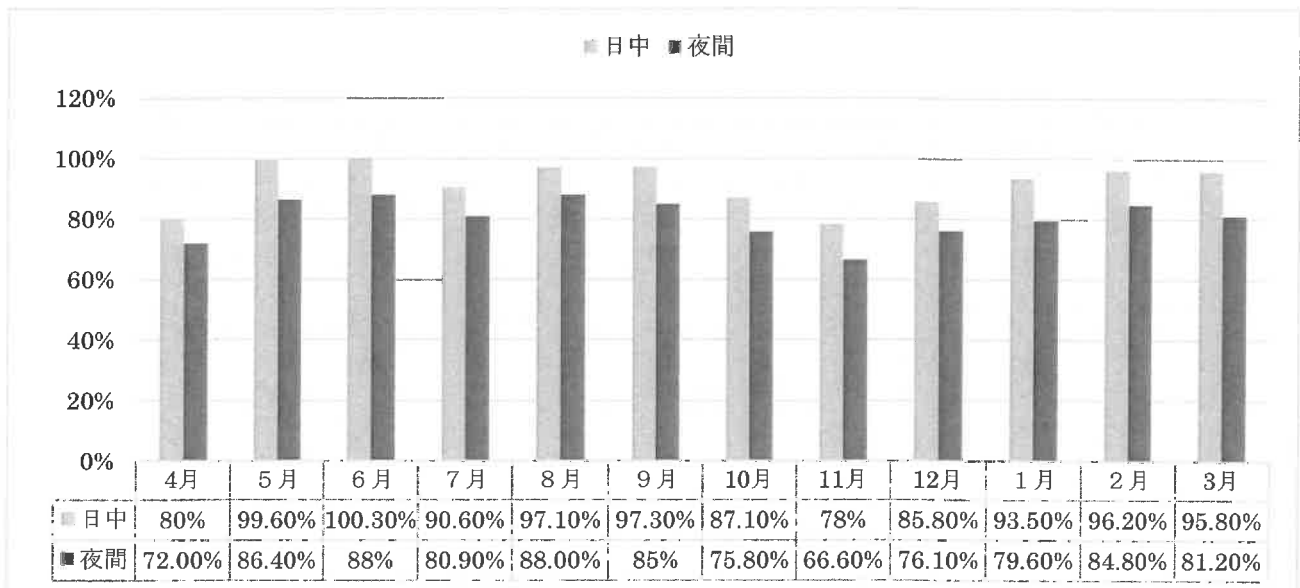
① 充足率の向上（目標95%以上）

- ・空きベッドの公開、外部への連絡調整を行う
- ・ケアカンファレンスへ参加し、ケアマネジャーとの情報交換に努める

② 定期的な営業活動の実施

- ・あんしんすこやかセンター、病院関係等への訪問

<充足率>（10名定員） 日中充足率91.8% 夜間充足率80.3%



○入退所等内訳表

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
4年度	287	287	0	0	0	0
5年度	294	294	0	0	0	0
増減	+7	+7	0	0	0	0

○介護度別年齢別等人数表

要介護度	令和3年度				令和5年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
1	83	27	56	87.53歳	92	23	69	88.45歳
2	68	15	53	90.16歳	70	16	54	86.52歳
3	44	7	37	87.79歳	81	18	63	88.77歳
4	54	10	44	86.6歳	38	4	34	92.92歳
5	38	11	27	85.07歳	13	9	4	89.29歳

合計	287	70	217	87.43 歳	294	70	224	89.19 歳
平均介護度	2.6	2.4	2.9	2.65	2.5	2.4	2.6	2.5
平均年齢		86.96 歳	88.82 歳	87.89 歳		81.56 歳	90.94 歳	88.92 歳
最高年齢		97 歳	98 歳			95 歳	103 歳	
最小年齢		67 歳	76 歳			57 歳		

○まとめ

充足率は昨年対比で日中5%、夜間で10%ほど上がったが、入院、特養への入所、ケアハウスへの入所などにより、目標の95%には届かなかった。ショートステイさくらの知名度は上がってきており高評価をいただいている。新規獲得も順調にできておりケアマネジャーからの信頼度も高い。しかし、キャンセルが出た場合の調整や補充の対応が課題として依然と残っている。またコロナ渦ではあったが、できる限り担当者会議などにも積極的に参加した。次年度は営業の実施回数を増やしていきたい。

- 5. 《環境整備計画》
 - 6. 《地域貢献事業》
 - 7. 《職員会議等》
 - 8. 《月行事・行事食・年間行事》
 - 9. 《職員構成》
 - 10.《苦情・相談》
- } ケアハウス大慈に準ずる

11. 《リスクマネジメント報告》

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

- ①報告件数
- 年度別事故件数



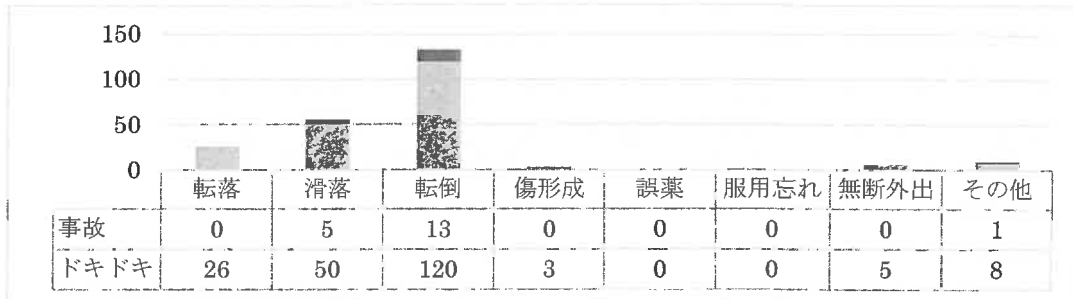
報告件数	令和4年度			令和5年度			
	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
	67 件	28 件	39 件	230 件	18 件	212 件	

神戸市事故報告書案件：1件（11月18日）

○発生場所別件数



○内容



○まとめ

前年度にくらべると、ドキドキ件数が増え事故件数は減少した。事故・ドキドキの内容については、居室での転倒事故が多く、転倒件数が多い。委員会の取り組みとして当フロア職員以外の介護職員、専門職と要因を深掘し考えたことで裏付けが取れ、根拠を持った対策に繋げることができた。介護現場で事故発生をゼロにすることは困難ではあるが、関わる全ての人と情報を共有し、安全・安心な環境を整えていけるよう取り組んでいきたい。

1.2.《総括》

充足率に関しては、目標の95%に届かなかったが、毎年増えてきており順調であると考ええる。ショートステイさくらの知名度や信頼度も上がってきており、レクリエーション等の取り組みなど顧客満足度も上がっており、リピートに繋がっている。しかし、キャンセル等があった場合の穴埋めが今年も課題として残った。各事業所のケアマネジャーからの問い合わせなど、日を置かずに迅速に対応できる職員を増やしていくことが必須と考える。また、次年度は定期で継続的な営業活動をやっていきたい。

令和5年度 事業報告書

西神南あんしんすこやかセンター

1. <基本方針>

- ①介護保険制度をはじめとする市町村の介護・福祉行政の一翼を担う機関であることを認識し、公正中立な事業運営を行う。また、地域の特性や実情を常に把握し何事に対しても柔軟に対応をしていく
- ②職員相互で常に情報を共有し、互いの業務の理念・基本的な骨格といったものを理解した上で、連携・協働の体制を整え、地域包括支援センター業務全体をチームとして支えていく
- ③圏域の居宅介護支援事業所・介護サービス事業所・地域と密に連携をとり、地域包括ケアの充実を図る

2. <実績>

○介護予防ケアプラン数

請求合計4,423件 前年比250件増
(直営担当数:2,321件 前年比76件減、委託数2,102件 前年比306件増)
月平均は368件(前年347件)。

新規ケース数は年間137件(前年比27件減)。月平均11件。

コロナ禍も落ち着いてきたことにより、この数年でフレイルの進行や認知症状が悪化した方等、新規相談が非常に多くなっているのが現状である。介護になるケースも多いが、要支援でサービスの利用を開始する方が多く、新規件数も請求件数も大幅に増加している。

また圏域内高齢者数は年々増加しており(令和6年3月末7,676人、令和5年3月末7,323人)、今後相談件数や新規件数は増加していくことが見込まれる。

○令和5年度月別請求件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
直営件数	164	161	182	198	208	204	214	206	203	198	196	187	2321
委託件数	199	192	175	170	157	163	167	174	179	179	178	169	2102

○令和5年度月別新規件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
直営件数	2	4	3	6	8	5	7	5	2	2	3	4	51
委託件数	11	9	5	7	5	5	9	13	7	5	6	4	86
新規合計	13	13	8	13	13	10	16	18	9	7	9	8	137

3. <目標に対しての報告>

①相談対応の充実

○介護者支援の充実

在宅介護をされている方を対象に、介護リフレッシュ教室を年間6回(偶数月)開催。参加者同士が、ご自身の介護体験や悩みを話せる自助グループとしての役割を担っている。窓口相談に来られた認知症ケースのご家族や、近隣住宅への開催案内を行ない、新規の

利用者も多い。

(内容)

4月20日：介護体験談、日々の介護の情報交換（講師：認知症家族の会）

6月17日：認知症介護のしかたについて

（講師：デイサービスあさんて管理者 加藤長年氏）

8月29日：納涼・安らぎの音楽

10月31日：笑いヨガ（講師：水島寿子氏）

12月22日：クリスマス会

2月20日：介護体験談、日々の介護の情報交換（講師：認知症家族の会）

今年度は年6回全て開催する事ができた。毎回、10名前後の参加者があり、日々の介護に関する悩みの相談や情報交換を行った。

○地域力の向上

9月29日に地域ネットワーク会議を開催。コロナ禍で、地域行事が無くなった地域を対象に、まずは地域の課題の共有を行った。コープ西神南、民生委員児童委員協議会、西区役所、西区社会福祉協議会、居宅介護支援事業所、介護保険サービス事業所等、地域でボランティアを行う住民等、合計46名の参加をいただいた。その後、11月17日に2回目の地域ネットワーク会議を開催。対象地域で子供から高齢者まで参加できる、「つどい場」の12月開催に向けての検討を行った。それにより、12月につどい場「みんなのたまり場」のプレ開催を行う事ができ、2月からは偶数月に住民主体で定期開催を行う形にする事ができた。

○地域の関係者との連携

圏域内の高齢者を対象とした行事に参加し、参加者の状況や地域の声の収集等行っていた。

(参加行事) 井吹台住宅集会所：やさしい体操、フレイル支援予防事業

西神南住宅集会所：いきいき百歳体操（6月新規立ち上げ）

井吹東地域福祉センター：ふれあい給食会

井吹西地域福祉センター：いきいき百歳体操、ふれあい給食会

井吹北地域福祉センター：北町カフェ、シニアクラブ（権利擁護講座）

樫谷地域福祉センター：おもと会

ルゼフィール井吹台集会所：フレイル予防体操、練功十八法、

カフェいばしょ、

グランコリーナ集会所：カフェぐらん 等

○相談窓口の周知徹底

センター広報誌、「すこやか便り」を7月11月に発行。民生委員の会議や地域行事にて配布を行った。また、広報誌を通じて、地域ネットワーク会議の報告を行い、センターの活動を広く住民に知っていただく機会とした。

○認知症事業の啓発

今年度は井吹西シニアクラブを対象に、認知症サポーター養成講座と認知症高齢者声掛け訓練を行った。認知症勉強会では、認知症介護を長年されていたキャラバンメイトの方に来ていただき、介護者の思いにも寄り添った内容となった。

また、認知症に関する相談も年々増加している状況。必要時相談者へ認知症神戸モデルやあんしん登録事業の提案を行った。困難ケースの対応にはオレンジチーム（認知症初期

集中支援チーム)との連携を図りながら支援を行い、必要なサービスへ繋いでいく事ができた。

②介護予防の充実

○介護予防ケアマネジメントの充実

神戸市主催の研修にも参加し、適正なケアマネジメントを行う事が出来ている。月に1回、神戸市介護保険課より巡回訪問あり、指摘事項に関して迅速に改善を行っている。

また、月1回の事例検討会をセンター内で開催し、職員のケアマネジメントスキルの向上、事例検討能力の向上を図った。

○介護予防事業への推奨

日々の相談ケースに関し、必要時介護保険認定申請を行い、必要な介護予防サービスへつないでいる。既存のサービスだけでなく、地域でのインフォーマルサービスなどにも繋いでいる。

③地域見守りの強化

○地域団体との連携、コミュニティづくりの充実

今年度も参加できる行事や会議などには感染対策に留意しながら参加した。前年度より、課題共有を行ってきた地域(市営西神南住宅、井吹台住宅)に対し、地域ネットワーク会議の開催を重ね、つどい場の立ち上げ支援を行った。同地域にて2つの新たなつどい場の立ち上げ支援を行う事ができた。

また、農村地域(櫛谷町)において、グランドゴルフに参加されている高齢者を対象にあんしんすこやかセンターの啓発を行った。櫛谷町でのフレイル予防を目的とした地域ネットワーク会議の開催を目指したが、地域の関係機関への周知や、理解の共有に、農村地区独特の難易度もあり、時間を要している状況。同地区でのネットワーク会議の開催は次年度以降への持ち越しとなる。

4. 《会議》

	頻度	会議名
開催	月1回	あんすこ・居宅内部会議(事業所内)
		ネットワークミーティング
	月2回	伝達会議
	随時	地域ケア個別会議
地域ネットワーク会議		
参加	月1回	西区あんしんすこやかセンター連絡会
	年2回	神戸市あんしんすこやかセンター区代表者会
		各民生委員児童委員協議会定例会(井吹東、井吹西、櫛谷、伊川谷)
	年1回	西区実務者会
		西区地域ケア会議
		西区虐待防止検討委員会
	随時	職種別連絡会(主任ケアマネジャー・保健師・社会福祉士・地域支えあい推進員)
		西区地域ケア会議ワーキング
西区認知症ワーキング		

	認知症初期集中支援チーム員会議
	神戸包括西区ブロック会議
	虐待コア会議

5. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→センター長が直接対応した件を苦情とする。

○令和5年度報告件数

令和4年度				令和5年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	2件	2件	0件		1件	1件	0件

外国籍の方で日本語が不十分の為、日本語のできる娘氏との会話がメインになってしまったことにより、ご本人との意思疎通が不十分になってしまっていたケース。意思疎通が難しい場合でも、できうる限りご本人の思いをくみ取り支援を行っていただけるよう、職員間でも振り返りを行った。

また相談援助力の向上のためにも、コミュニケーション力を上げる外部研修へ職員が順に参加していただけるようにし、今年度は2名の参加を行った。

6. 《新型コロナ感染症報告》

○感染者数（職員）：1名

陽性者（職員）	感染拡大で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等
1名	23,188円 内訳：感染対策備品（マスク、消毒用アルコール）	なし

日々の感染対策として、マスク着用の徹底、2時間おきの換気と消毒などを継続。1名の感染者は出たが、部署内での感染拡大はなかった。訪問先利用者様でコロナ陽性の方は数名いたが、訪問時の感染対策の徹底により、職員への感染拡大もなかった。また、国の方針に従い、週1回出勤前に抗原検査を年度末まで実施した。

7. 《総括》

圏域内の高齢者数は年々増加しており、農村地域以外のニュータウン地域でも高齢化率が40%を超える地域も出てきている。そういった地域は、50台後半から60台の人口も多く、今後更に高齢化率の上昇は継続すると思われる。

高齢化の進行に伴い、認知症の相談も多く、更にはコロナ禍でフレイルの進行や認知機能が低下したことによる相談は変わらず多い。介護保険の申請を行い、サービス利用を開始するケースが多くなり、プラン総数は前年比250件増となっている。しかしながら、今年度は職員の体調不良による欠員等もあり、担当ケースの割り振りに非常に苦慮した一年であった。また近年は居宅介護支援事業で予防ケースの担当を断られる事も多くなっており（全市的に問題となっている）、センター職員の担当ケースも上限いっぱいとなっている状況。今後もプラン数の増加は十分考えられ、地域包括支援センター業務への支障もあり、予防プランナーの増員は必須となっている。

そんな中ではあるが、今年度は前年度より「コロナ禍による集いの場の減少」という課

題の明確化を行った市営住宅エリアで、地域ネットワーク会議を開催し、新たなつどい場の立ち上げ支援を行う事ができた。次年度も引き続き、バックアップを行っていきたい。

コロナ感染に関しては、事業所内では感染対策を徹底し、マスクの着用や手指消毒、消毒や換気の徹底など、各職員が意識を持って取り組む事ができた。今後も社会の情勢を見ながら、引き続き職員の健康管理や感染対策に努めていきたい。

令和5年度 事業報告書

居宅介護支援事業所 大慈園

1. <基本方針>

- ①可能な限り住み慣れた地域において、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営む事ができるよう支援する
- ②公正中立な立場で、自己決定ができるように援助する
- ③質の高いケアマネジメントの推進
- ④医療と介護の連携強化

2. <最終目標>

「豊かで安心できる在宅生活の実現」

- ・介護が必要な状態になっても住み慣れた自宅で最期まで過ごせるよう、様々な社会資源を活用し生活をサポートしていく。

3. <目標>

①介護支援専門員としての資質の向上

- A) 事例検討会を年5回行う
- B) ケアマネジメントに関する勉強会を年5回行う
- C) 職務基準書（兼業務マニュアル）の見直しにより業務手順の再確認を行う。
- D) あんしんすこやかセンター主催の事例検討会に参加する

○事業所内勉強会及び研修参加状況

月	事業所内勉強会	外部研修	他
4月	4/7 事例検討会①	4/20 精神疾患疑いケースの対応	安原研修
5月			職務手順書①
6月	6/2 事例検討会②	6/15 地域で生きるために 6/15 介護職員の為の為のリスク マネジメント 6/19BCP 知ってますか?	安原研修
7月	7/24 事例検討会③	7/10 薬の勉強会 7/27・28 近畿老協神戸大会 7/30 気づきの事例検討会① 7/24 管理者の実践ガイドブック 7/27 多問題を抱える利用者ケア	安原研修
8月	8/11 事例検討会④	8/10 管理者の実践ガイドブック 8/27 気づきの事例検討会② 8/30 パーキンソン病について	
9月	9/6 事例検討会⑤	9/20 認定調査員現任者研修 9/28 入退院支援と在宅療養支援 の現状について 9/30 介護現場の医学知識①	9/29 地域ケア会議 安原研修
10月	10/31 輸血について	10/2 気づきの事例検討会③ 10/5 これからの人生会議	安原研修

		10/20 アセスメントの基本 10/28 雇用管理責任者講習① 10/28 介護現場の医療知識②	
11月		11/2 主任介護支援専門員の仕事術 11/13 高齢者虐待防止研修 11/23 介護現場の医療知識③ 11/24 雇用管理責任者講習② 11/30 食べる力の高める為に	虐待、身体拘束（法人） 職務基準書② 安原研修
12月	12/11 地域包括ケアセンターとの連携について	12/1 雇用管理責任者講習③ 12/6 引きこもり家族教室 12/7 若年性認知症と共に生きる人の支援 12/11 雇用管理責任者講習④	虐待、身体拘束（法人） 安原研修
1月	1/25 癌の治療について		安原研修
2月	2/2 倫理研修（復講）	2/17 ケアマネ必見（倫理）	2/13 地域ケア会議→中止 安原研修
3月	3/12 高齢者の薬 3/12 多系統萎縮症 西神南地区社会資源（4月開催）		

○資質の向上に関するまとめ

事例検討会を上半期、事業所内研修を下半期に実施した。開催時期が遅くなった研修もあったが1年を通じて予定通りで実施できた。事例検討会では、実際の帳票類（アセスメントシートや課題分析表）を用いたことで事例の検討のみならず、収集すべき情報や記録の方法など実務に直結する学びの機会となった。今年度の検討会の実績を活かして次年度は再アセスメントにつながる学びを持つことを目標に各自1事例提供し検討会を継続する予定である。外部研修は30を超える研修に参加、学んだ内容を居宅会議にて報告することで事業所全体の学びの共有につながった。

職務基準書兼マニュアル見直しは、減免制度や介護保険サービス、認定調査等、8項目完了したが、未検討項目が残っている為、次年度に引き継ぐ事となった。伝達会議は規定通り週1回開催した。利用者の情報や支援内容の共有、支援困難ケースや苦情の検討を通じて事業所全体で利用者支援を行う意識づくりにつながった。

②収益の維持

- A) 月平均150～160件請求する
- B) 入退院加算、通院加算等、可能な限り取得する
- C) 業務効率化に向けての取り組みを行う。

請求実績 1588件（昨年度より81件減）

月平均 132件（昨年度より4.8%減）

○月別・介護度別請求内訳

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護	95	95	93	89	86	83	80	85	83	88	89	91	1057

1・2													
要介護 3・4・5	38	42	42	40	45	44	48	52	43	47	47	43	531
合計	133	137	135	129	131	127	128	137	126	135	136	134	1588

○入退院加算算定状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院	2	2	4	5	2	4	2	2	1	5	2	6	37
退院	2	2	2	1	1	0	2	1	0	1	0	2	14
合計	4	4	6	6	3	4	4	3	1	6	2	8	51

○収益の維持に関するまとめ

請求件数の伸び悩みを認めた為、営業チラシを作成し病院地域連携担当者への営業活動を行った。下半期は月平均7.3件、年度を通じて81件と昨年度の68件を13件上回って新規受け入れができた。しかし、終了件数が95件と昨年より13件多く請求総数としては、昨年度より81件減少し1588件であった。目標の88%の達成であった。

終了の理由として最も多かったのは、入所の33件であった。うち19件は自法人施設への入所であった為、法人への貢献にはつながったと評価するが請求総数回復に向けて次年度はさらに努力が必要と考える。対策として要支援と要介護を行き来しているケースや夫婦いずれかが要介護と要支援等のケースにおいて、予防プランの委託を受けることで、利用者の減少を歯止め策を計画している。終了理由で、施設入所に次いで多かったのは入院であった為、入院加算は37件、退院加算は14件といずれも昨年度より算定増となった。

業務効率化に向け毎月意見交換を行った。今年度の成果としては、ほのぼのソフトや業務携帯の新たな機能の活用、ラインワークスを活用した利用者情報の共有、共有フォルダを利用した事業所情報の共有など新たな取り組みを行い業務効率化につながった。次年度も、意見交換を継続し業務内容を見直す、意識改革につなげていきたい。

③連携の強化

- A) 医療と介護の連携（在宅医・病院地域連携との情報共有）
- B) 西神南あんしんすこやかセンター及び圏域外の地域包括支援センターとの連携
- C) 地域行事に参加しインフォーマルサービスの現状を知る。
- D) 法人主催の地域貢献行事（地藏盆）の参加、手伝い
- E) 担当ケースの以外の利用者の情報共有を密にする。

○連携の強化

入退院時、病院との連携はもとより、癌末期の在宅看取り、往診の歯科医師と口腔内の状態について情報を受けサービス担当者と共有、体調悪化に伴い受診から往診につなげる、処方内容について薬局に意見を求める、転院先病院との情報共有等、入退院加算の算定には至らない支援も多く実施できた。これらの利用者支援を通じて新たな事業所と連携の機会につながった。

併設の西神南あんしんすこやかセンターや圏域外のあんしんすこやかセンターと連携して区変や新規申請者のケアプラン作成、虐待の報告等連携を行った。今年度は井吹台の地域住民が

開催する行事に西神南あんしんすこやかセンターの協力を得て参加し、インフォーマルサービスの情報を事業所内で共有できた。利用者が介護保険サービスの利用だけでなく、地域の行事に参加できる機会を増やせるよう、次年度以後の支援に活かしていきたい。

④更新認定調査委託業務の維持・継続

○月別認定調査件数推移

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
調査	47	42	31	43	45	43	40	36	39	31	29	26	448

○認定調査

今年度は448件の調査を実施。昨年度に比べて35件減少した。
 要介護認定の期間が36～48カ月の利用者が増えたことが大きな要因と考える。
 今年度は神戸市認定係の委託先検査を受けた。各調査員の調査に認定係職員が同行し特記事項の記載内容について個別指導を受けたことで、調査項目の判断基準や根拠、その記載方法などを見直すきっかけとなり、調査員の学びに繋がった。

⑤BCP計画作成と訓練実施

○BCP

西神南あんしんすこやかセンターBCP委員と委員会を協働開催し、感染対策内容の検討（継続や中止）を行った。また、抗原検査の実施と報告によりコロナ感染の早期発見への取り組みを継続した。下半期には感染症、災害時のBCPが完成、職員間に周知を行った。2月には、災害時を想定した訓練を西神南あんしんすこやかセンターと協働で実施。次年度以後も訓練の企画と実施、計画の修正等、BCPのブラッシュアップに努めていきたい。

4. 苦情・相談結果報告

報告件数	令和4年度			報告件数	令和5年度		
	苦情	相談	合計		苦情	相談	合計
	0件	8件	8件		0件	4件	4件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0
苦情	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(複数回答あり)

	話を聞いてほしい	調査依頼	教えてほしい	改善依頼	回答依頼	金銭面	謝罪要求
相談	2	0	0	0	2	0	0
苦情	0	0	0	0	0	0	0

○苦情報告まとめ

苦情報告は昨年度8件より4件減り4件の報告で内容としては相談であった。医師から訪問看護利用に関する相談が1件、利用者から担当変更依頼が2件、利用者からの連絡をサービス事業所に伝え忘れたことによる相談が1件だった。医師からの相談は、受診に同席し、直接事

情を説明、本人や家族の思いを医師と話し合い解決に至った。担当変更希望があった2件は、変更を決断するに至った思いを聞き取りし意向に沿えなかった点を謝罪、後任のケアマネジャーに情報を引き継ぐなど丁寧な対応を行った。利用者からの連絡の伝え忘れについては利用者に謝罪し、その原因と対策を事業所内で共有を行った。

5. 年間行動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
法定研修見学実習受け入れ		あり										
地蔵盆												
他法人との事例検討				7/14							2/16	
あんすこ主催の事例検討会						9/29						
BCP研修・訓練実施											2/1	

6. 新型コロナウイルス感染症報告

○発生件数

令和5年度		
陽性者（職員）	感染拡大防止に対策で要した費用 （マスク、消毒用アルコール）	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等
2名	¥23,188	¥0

○新型コロナウイルスまとめ

昨年5月に5類移行を受け、来訪者や職員の検温は終了したが、換気と事業所内指定場所のアルコール消毒、マスク装着等の感染予防対策を継続した。今年度は年間を通じて職員の感染は2名のみで事業所内での感染拡大は認めなかった。

《総括》

請求件数回復の為、下半期には居宅の営業チラシを作成、初めて病院の地域連携室担当者に営業を行い新規利用者獲得の努力を行った。新規利用者を多く獲得したにも関わらず、終了ケースも多く今年度は収益目標を達成できなかった。次年度は今年度に引き続き、積極的な要介護の新規受け入れと共に、予防プラン受託を全職員が行える体制を整え、利用者増と、減少防止に向けた取り組みを行い、収益改善に向けた努力を継続する。

事例検討会では、支援開始から数か月の新規事例を選定し検討。実際に使用する帳票類をそのまま活用したことで記載方法など実務の学びの機会となった。外部研修の学びも会議で共有することで事業所全体の学びにつながった。

認定調査委託業務は、要介護認定者数増に伴い、調査依頼増を予測していたが認定期間が最長48カ月となった影響か調査件数は減少していた。また、今年度初めて神戸市から委託先検査を受け、特記事項の記載方法を個別のケースごとに指導を受け学びの機会につながった。

1. 《基本方針》

- ・子どもを第一に考え、保護者に寄り添い共に育てる。
- ・職員一人一人が自己研鑽を行い、資質向上に努める。
- ・職員の定着に向けて、業務の効率化を図る。

2. 《中長期目標》

- ・地域・保護者と共に歩む。
- ・教育・保育要領を理解し、教育保育を深める。
- ・キャリアパスを基に研修の充実を図る。
- ・広報活動、求人活動を積極的に行う。
- ・法人内幼保連携型認定こども園と連携を図り、独自性を出す。
- ・地域の子育て家庭への支援を行う。

3. 《令和5年度報告》

- ①子どもの発達段階をよく理解し、主体性を育むよう努める。
 - ・オンライン研修や園内研修を通じて勉強し、検討を重ねた。
- ②子どもの好奇心から始まる自発的な遊びや活動が展開できるように環境を整える。
 - ・手作り玩具や保育環境チームで検討し環境を整えた。
- ③本園と分園の連携を密に図り、豊かな教育保育が行えるようにする。
 - ・5歳児を中心に連携を図ることができた
- ④特色・サービスの視覚化を進める。
 - ・職員紹介ニュースを発行し、保護者と職員との交流を深める。
 - ・地域の施設・学校・関係者に園だより等を配布する。
 - ・湊川神社への避難訓練時、腕章をつけて、地域の方に知っていただく。
 - ・園庭開放、子育てひろばにて、園を知っていただく。
 - ・ホームページ・インスタグラム等での発信を行う。
- ⑤資質向上のため職場内、職場外研修を行う。
 - ・キャリアパス要件を満たすよう研修を受講する。
 - ・職員会議毎に研修、伝達講習、ブレインストーミング等を行う。
 - ・教育保育部門合同研修を行う。(2、3年目研修)
 - ・コンプライアンス研修を行う
 - ・子どもの人権・人格の尊重に関する研修を行う。
- ⑥人材確保・定着に努める。(ICTを活用し、効率化を図る。)
 - ・書類の効率化に努めた。
 - ・会議での保育の意見交換等によりやりがいを感じられる機会を作った。
- ⑦特別な配慮、支援の必要な子どもへの理解を深め、多角的にアプローチする。
 - ・すこやか対象児童以外でも配慮の必要な子どもの話し合いを定期的に行い、かかわりを深めた。虐待の恐れのあるケースについては親子ともに心身の状態を観察するようにした。
- ⑧子育てサロン、外国にルーツを持つ子どものための学習教室を通して、地域への支援を深める。

- ・子育てサロンはたくさんの方が利用している。学習支援は2人程度利用している。

⑨リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。

- ・世の中の事件や事故にもすぐに対応できるようにオンライン会議を活用した。

⑩1号認定に移行する法人内小規模保育園の園児（2歳児）を早めに受け入れ、慣れるようにする。

- ・1月より少しずつ登園機会を作り小規模の職員にも本園に来てもらい引継ぎをしっかりと行った。

⑪感染症対策を行う。

- ・手洗い手指消毒、マスクの着用
- ・家庭内や園での健康観察の周知徹底
- ・十分な換気、空気清浄機の活用

*行事は制限することなく開催できた。

4. 《修繕・購入計画》

- ・園庭花壇仕切り改修工事
- ・見守りカメラ設置

5. 《地域貢献事業計画》

- ・8月 地藏盆
- ・12月 おもちつき
- ・毎月、基本第4土曜日 子育てサロンを開催
- ・毎週火曜日 外国にルーツを持つ子どものための学習教室
- ・ほっとかへんネット事業「はじめの一步ツアー」

6. 《行事報告》

年間行事

月	行 事
4月	入園式
5月	こいのぼり集会 春の造形展
6月	歯科教育指導 同園会
7月	全園児プール開き 七夕祭り ワークキャンプ受け入れ
8月	地藏盆
9月	お泊り保育 (5歳児)
10月	Daiji フェスタ (運動会) 秋の遠足 (0~2歳児は遠足ごっこ)
11月	お楽しみ会 津波避難訓練 保育参加 秋の造形展 遠足5歳児
12月	音楽day (4・5歳児) クリスマス会 おもちつき
1月	よいこの集い お楽しみ会 津波避難訓練
2月	ワクワクデー (生活発表会) ピドスコープ撮影
3月	お別れ遠足 (全園児) お別れ会 卒園式 津波避難訓練

月間行事

- ・お誕生日会
- ・防災訓練
- ・防犯訓練

その他

- ・音楽指導・ECC英語遊び 月数回
- ・盲学校幼稚園部児童との交流 月数回 (対象児童なし)
- ・事故対応訓練 (SIDS プール事故 アレルギー対応)
- ・消火器 火災報知機の点検 年2回
- ・消防署による消防訓練 年1回
- ・警察署による交通安全教室、防犯訓練 年1回

7. <<保健衛生報告>>

項目	頻度等
園児、職員定期内科健康診断	園児 春秋 年2回 職員 春 年1回
園児歯科健診	6月 11月 (4、5歳児)
園児耳鼻科健診	4月 年1回
園児眼科健診	6月 2月 (4、5歳児)
園児発育測定	月1回
園児検尿	年1回
調理員、保育者全員検便	月1回以上
調理室の消毒	月1回
グリストラップの清掃	年5回
砂場消毒	年1回

8. <<令和5年度在籍園児数>>

本園

2・3号認定

年齢 (定員)	0歳児 (9人)	1歳児 (21人)	2歳児 (23人)	3歳児 (25人)	4歳児 (26人)	5歳児 (26人)	合計 (130人)
4月	8	25	23	25	24	24	129
5月	9	25	25	25	24	25	133
6月	9	25	25	25	24	25	133
7月	9	25	25	25	24	25	133
8月	9	25	25	25	24	25	133
9月	9	25	25	25	24	25	133
10月	9	25	25	25	23	25	132
11月	9	25	25	25	23	25	132
12月	9	25	25	25	23	25	132
1月	9	25	25	25	23	25	132
2月	9	25	25	25	23	25	132
3月	9	25	25	25	23	25	132
合計	107	300	298	300	282	299	1586

1号認定

年齢 (定員)	3歳児 (5人)	4歳児 (5人)	5歳児 (5人)	合計 (15人)
4月	6	6	5	17
5月	6	6	4	16
6月	6	6	4	16
7月	6	6	4	16
8月	6	6	4	16
9月	6	6	4	16
10月	6	6	4	16
11月	6	6	4	16
12月	6	6	4	16
1月	6	6	4	16
2月	6	6	4	16
3月	6	6	4	16
合計	72	72	49	193

とも分園

2・3号認定

年齢 (定員)	0歳児 (2人)	1歳児 (3人)	2歳児 (4人)	3歳児 (5人)	4歳児 (7人)	5歳児 (9人)	合計 (30人)
4月	1	9	7	9	9	8	43
5月	1	9	8	9	9	8	44
6月	3	9	9	9	9	8	47
7月	6	9	9	9	9	8	50
8月	9	9	9	9	9	8	53
9月	9	9	9	9	9	8	53
10月	9	9	9	9	9	8	53
11月	9	9	9	9	9	8	53
12月	9	9	9	9	9	8	53
1月	9	9	9	9	9	8	53
2月	9	9	9	9	9	8	53
3月	9	9	9	9	9	8	53
合計	83	108	105	108	108	96	608

9. <<リスクマネジメント報告>>

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

本園

令和4年度		令和5年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
7件	1435件	10件	1867件

○事故発生内容

- ・階段で転倒、前歯を打ちぐらついた、2か月後同じ場所をもう一度打ち出血した。
- ・雲梯に足をひっかけて転倒肘をついたときにひびが入った。
- ・ボールが目当たった。
- ・鬼ごっこで友達の下駄が顔に当たった。

とも分園

令和4年度		令和5年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
0件	1981件	3件	729件

○事故発生内容

- ・巧技台で側頭部を打った。
- ・足を引っかけて転んだ。
- ・友達の指が目当たった。

○まとめ

- ・4月から8月まで0歳児が少なかったことも影響しているのか件数が少なかったため職員に意識して出せるように呼び掛けた。

10. 《苦情・相談結果報告》

※園長が直接対応した件を苦情と定義する。

○報告件数・・・7件（本園6件 分園1件）

報告件数	令和4年度			報告件数	令和5年度		
	合計件数	苦情	相談		合計件数	苦情	相談
	2件	2件	0件		7件	7件	0件

○苦情内容

- ・腕を痛がり園から接骨院受診し肘内障と言われた。肘にひびが入っていたことが後日分かったことに対し骨への影響を疑わなかったのは何故か教えてほしい。
- ・近隣から音楽がうるさい、駐輪、駐車之苦情。
- ・離乳食の子どもに味噌汁を与えてしまったことに関して詳しく話が聞きたい。
- ・すこやか対象児童への配慮が足りないのではないかな。

○まとめ

- ・保護者との情報共有を密に行い園での様子を細やかに伝える。すこやか対象児童への園での関わりはしっかりと懇談の場で伝える。
- ・地藏盆、防災訓練など近隣の方との交流の機会を増やし園を知っていただくとともに、保護者へ迷惑駐車、駐輪しないように呼び掛ける。
- ・起こってしまったことに対し複数で話し合いすぐに改善できるようにした。

11. 《新型コロナウイルス感染症に係る事業継続支援事業補助金》

○インフルエンザの予防接種 43名 182,000 円

1 2. 《総括》

- 令和5年度は、日頃の保育、行事等を感染症対策をしながら制限なく行うことができ、子ども同士の関わりを密に園生活を過ごすことができたと思う。
- 保育内容については、保護者の方にも主体性を培い、非認知能力を高める保育の理解を深めていただけるように努めた。
- 職員間のコミュニケーション不足からの誤食が複数回起こったので声出し確認など職員間の連携を徹底していきたい。
- 近隣からの苦情の多い年でもあった。コロナ渦で地蔵盆の縮小やお年寄りとの交流が減っているので以前のように交流の場を設けていきたい。
- 職員、子どもどちらにおいても本園分園での交流が密にできた年であった。
- 令和6年度も引き続き保護者の方への理解を深めていただける工夫をするとともに、子どものことを第一に考え、職員同士のコミュニケーションを円滑に図ることができるように努めていく。

令和5年度 事業報告書

大慈ひょうご幼保連携型認定こども園

1. 《基本方針》

- ・安全を第一に考え、保護者に寄り添い共に育てる。
- ・職員一人一人が自己研鑽に励み、資質向上に努める。
- ・職員の定着に向けて、業務の効率化を図る。

2. 《中長期目標》

- ・理念に基づいた教育、保育を職員で共通理解し、実施する。
- ・子ども、保護者に寄り添い、地域とともに歩む。
- ・キャリアパスを基に研修の充実を図る。
- ・法人内幼保連携型認定こども園、小規模保育園との連携を図り、独自性を出す。
- ・地域交流を深め、地域子育て家庭への支援を行う。

3. 《令和5年度報告》

- ①子どもの発達段階をよく理解し、主体性を育むよう努める。
 - ・子どもの発達段階をよく理解し、丁寧な関わりに努め、子どもの想いを共有した。
 - ・子どもが自ら活動できるよう環境を検討し、工夫した。
- ②子どもの好奇心から始まる自発的な遊びや活動が展開できるように環境を整える。
 - ・その時の子どもの興味、関心を見逃さず、広がる遊びを予想し環境を整えた。
- ③子どもや保護者、地域とのより良い信頼関係が保てるよう積極的に関わる。
 - ・職員紹介ニュースを発行し、職員と保護者の関係が円滑に築けるようにした。
 - ・地域の学校、施設、関係者に園だよりを配布し、園の活動内容を知って頂ける様に努めた。
 - ・要支援家庭、外国籍家庭に対して、職員が共通理解を持ち保育を進めると共に、関係機関と連絡を密にして子どもが安定して園生活を過ごすことができるようにした。
- ④異年齢児交流を行い、関わりを深めていく。
 - ・異年齢で一緒に散歩に行く等して関わりを深めた。
- ⑤資質向上のため、職場内、職場外研修（オンライン研修含む）を行い、全職員で共通理解をする。
 - ・キャリアパス要件を満たすよう研修を受講した。
 - ・職員会議毎に研修、伝達講習、ブレインストーミングを行った。
 - ・教育保育部門で合同研修を行った。
 - ・法人内職員での専門性を深めるチーム会議を随時行い、各園に周知した。
 - ・コンプライアンス研修を行った。
 - ・子どもの人権・人格の尊重に関する研修を行った。
- ⑥人財確保・定着に努める。（ICTの活発な活用等により効率化を図る）
 - ・保育書類をiPadで作成し、効率化に向けて取り組んだ。
- ⑦行事に地域の方を招待し、一緒に遊ぶ機会を計画するなど、地域交流を深め、地域に根付いた園であり続ける。
 - ・市民花壇の花に年長児と共に水やりをし、季節の移ろいに合わせた花を咲かせて、地域の方にも声を掛けていただいた
- ⑧リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
 - ・部門全体のリスクマネジメントも行い、想定内を増やすよう努めた。

- ⑨保育の振り返りをミーティング・職員会議で行い、子どもの人権・人格を尊重する。
 - ・不適切保育についての話を会議で行い、子どもの人権尊重意識を養っていった。
- ⑩1号に移行する大慈あい小規模保育園、大慈さち小規模保育園の園児（2歳児）を早めに受け入れ、慣れるようにする。
 - ・今年度の受け入れはなかった。
- ⑪感染症対策を、状況により取り組んでいく。
 - ・5月の連休明けから5類になったため、職員のマスクは任意となった。また、対応の変更について職員と保護者に周知した。
 - ・発熱時、その他症状における対応を適切に行った。

4. 《修繕・購入報告》

大規模修繕

- ・幼児クラスの床の張替え、外壁の塗り替えを令和5年度10月～12月の期間に行った。
- ・屋上防水
- ・キッチンの乾式化

見守りカメラ設置

令和6年4月に延期

5. 《地域貢献事業報告》

- ・7月 プール開放 夏まつり（縮小）
- ・8月 大慈こども園の地藏盆
- ・11月 焼き芋パーティー（縮小）
- ・毎月第1、3水、木曜日 園庭開放
- ・ほっとかへんネット兵庫 地域の悩み相談、食品や日用品の交換配布会

6. 《行事報告》

年間行事

月	行 事
4月	入園式
5月	こいのぼりの集い
6月	食育フェア（中止） お楽しみ会 歯科教育指導
7月	プール開き 七夕祭り 夏まつり
8月	プール参観 湊小学校プール参加（中止） ワークキャンプ受け入れ
9月	お泊り保育
10月	運動会 いもほり遠足（3、4歳児） 秋の遠足 お楽しみ会
11月	焼きいも大会 保育参加・参観 作品展 避難訓練（津波） 遠足（5歳児）
12月	ドレミコンサート クリスマス会
1月	もちつき よい子のつどい（5歳児） 津波避難訓練
2月	わくわくひょうごデー
3月	お別れ遠足（全園児） お別れ会 卒園式 津波避難訓練

月間行事（月1回）

- ・お誕生日会 ・防災訓練 ・防犯訓練 ・ECC英語遊び ・音楽あそび
- その他

- ・消防署による消防訓練 年1回
- ・警察署による交通安全教室、防犯訓練 各年1回
- ・事故対応訓練（SIDS プール事故 アレルギー対応 痙攣）
- ・消火器、火災報知機の点検を年2回行う。

7. <<保健衛生計画>>

項 目	頻 度 等
園児、職員定期内科健康診断	園児 春秋年2回 職員 春年1回
園児歯科健診	6月 11月 年2回
園児耳鼻科健診	6月 年1回
4、5歳児眼科健診	6月 年1回
園児身体測定	月1回
園児尿検査	年1回
調理員、保育者検便	月1回以上
調理室の消毒	月1回
グリストラップの清掃	年4回
砂場消毒	年1回

8. <<令和5年度在籍園児数>>

2・3号認定

年齢 (定員)	0歳児 (8人)	1歳児 (15人)	2歳児 (16人)	3歳児 (17人)	4歳児 (17人)	5歳児 (17人)	合計 (99人)
4月	6	18	17	20	19	19	99
5月	6	18	17	20	19	19	99
6月	6	18	17	20	20	19	100
7月	8	18	17	20	20	19	102
8月	8	18	17	20	20	19	102
9月	9	18	18	20	20	19	104
10月	9	18	18	20	20	19	104
11月	9	18	18	20	20	19	104
12月	9	18	18	20	20	19	104
1月	9	18	18	20	20	19	104
2月	8	18	18	20	20	19	103
3月	8	18	18	20	20	19	103
合計	95	216	211	240	238	228	1228

1号認定

年齢	3歳児	4歳児	5歳児	合計

(定員)	(3人)	(3人)	(3人)	(9人)
4月	3	3	4	10
5月	3	3	4	10
6月	3	3	4	10
7月	3	3	4	10
8月	3	3	4	10
9月	3	3	4	10
10月	3	3	4	10
11月	3	3	4	10
12月	3	3	4	10
1月	3	3	4	10
2月	3	3	4	10
3月	3	3	4	10
合計	36	36	48	120

9. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

○報告件数

令和4年度		令和5年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
5件	1552件	4件	886件

○事故発生内容

- ・門の前でつまずき、後頭部を打って出血していた
- ・目に砂が入ったため、流水で洗い流したが充血していた
- ・トイレでこけて木の棚の角で頭をぶつけた

○まとめ

- ・前年度よりも666件もヒヤリハットの件数が少なかった。1、2年目の若い職員が増え、ヒヤリとしたことがあったのに、ヒヤリハットへの記入が出来ていないことが多くあったと思われる。
- ・前年度に引き続き、バランスを崩してけがをすることがあった。0歳児～2歳児クラスの体幹が弱い子どもたちがこけている姿が多く見られた。乳児クラスの子どもたちは体のバランスが悪く不安定であるため、大きなけがにならないように体幹を鍛える遊びを取り入れると共に環境を整えていく。

10. 《苦情・相談結果報告》

※園長が直接対応した件を苦情と定義する。

○報告件数・・・1件

報告件数	令和4年度			報告件数	令和5年度		
	合計件数	苦情	相談		合計件数	苦情	相談
	1件	1件	0件		1件	0件	1件

○苦情内容

- ・午睡中にパンツとズボンを脱いでいる5歳児女児がいた。職員が気付き声を掛けると、隣に寝ていた男児に言われて脱いだと言ったが、男児には言わないでほしいと女児に言われたことと、男児がすでに寝ていたため男児には確認しなかった。保護者（父）に午睡中にあったことをお迎え時に伝えた所、母親がその話を聞いて男児に何を言ったか確認してほしいという話があった。

○まとめ

- ・以前から5歳児男児の間で、アニメの影響からかプライベートゾーンのことについて、からかったり、面白おかしく話をしていることがあった。そのことを女児の母親が知っており、今回のことに不安を感じていた。プライベートゾーンのことでもふざけている姿があった時は個別に厳しく話をする、午睡時も日中と同じように子どもの様子を丁寧に見ること、職員の目が届きにくいトイレには必ず職員が付くことを保護者に伝えて女児に嫌な思いをさせてしまったことを謝罪した。

1 1. 《新型コロナウイルス感染症に係る事業継続支援事業補助金》

○インフルエンザの予防接種 26名 111,000円

1 2. 《総括》

- ・令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5月の連休明けから5類になり、園の行事をほとんどコロナ前と同じようにすることができた。また歌をうたったり、手をつないで触れ合い遊びをしたりと、スキンシップをとりながらコミュニケーションを取り、子ども同士の関わりを深めることができた。
- ・大規模修繕のために足場を設置したり、キッチンの修繕のため外部でお弁当を発注したりと3カ月間いつもと違う過ごし方をしたが、職員間で過ごし方を工夫し、保護者にも事前に大規模修繕についての手紙を配布し理解をしていただいたため、子どもたちに大きな影響がなかったと感じている。
- ・主体的な遊びを職員自身が手探り状態であったため、乳児・幼児会議でクラス子ども達が今どんなことに興味があるか、それを職員同士で話し合い遊びを広げていった。まだまだ職員主導で遊びを進めることがあるため、子どもの主体的な遊びについて引き続き勉強会や研修に参加し、職員の知識を深め保育の質を高めていきたい。

令和5年度 事業報告書

大慈ほまれ幼保連携型認定こども園

1. 《基本方針》

- ・子どもを第一に考え、保護者に寄り添い共に育てる。
- ・職員一人一人が自己研鑽し、資質向上に努める。
- ・職員の定着に向けて、業務の効率化を図る。

2. 《中長期計画》

- ・教育・保育要領を理解し、教育保育を深める。
- ・地域交流を深め、地域と共に育てる。
- ・キャリアパスを基に研修の充実を図る。
- ・広報活動・求人活動を積極的に行う。
- ・法人内の幼保連携型認定こども園・小規模保育園との連携を図り、独自性を出す。
- ・地域の子育て家庭への支援を行う。

3. 《令和5年度報告》

- ①子どもの発達段階をよく理解し、主体性を育むよう努める。
 - ・オンライン研修や園内研修を通して勉強し、主体的に遊ぶことが出来るように検討した。
- ②子どもの好奇心から始まる自発的な遊びや活動が展開できるように環境を整える。
 - ・子どもの主体性を育むよう、子どものつぶやきや発見を大切に保育環境を整えた。
- ③大慈あい小規模保育園、大慈さち小規模保育園との連携を図り、豊かな保育が行えるようにする。
 - ・職員間で情報を共有し、土曜日の合同保育を行った。
 - ・1号への移行児は、園が変わっても出来る限り子どもの負担にならないように、職員間で情報共有を図った。
- ④特色や事業内容の視覚化を進める。
 - ・職員紹介ニュースを発行し、保護者に職員を知っていただいた。
 - ・ホームページやインスタグラムを更新し、保育の発信を図った。
 - ・地域に園だよりを配布して、園のことを知っていただけるよう努めた。
 - ・保育説明会を開き、地域の方に法人の保育への想いを発信した。
- ⑤資質向上のため職場内、職場外研修（オンライン研修を含む）を行う。
 - ・キャリアパス要件を満たすよう研修を受講した。
 - ・毎月の職員会議でマニュアル研修・ブレインストーミングをおこない、職員間での共通理解を深めた。
 - ・部門全体で合同研修（オンライン研修を含む）を行った。
 - ・コンプライアンス研修、子どもの人権・人格の尊重に関する研修を行った。
- ⑥人財確保・定着に努める。（ICTの活発な活用等により効率化を図る）
 - ・保育書類をiPadで作成し、効率化に向けて取り組んだ。
- ⑦リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
 - ・職員間で周知、改善をし、再発防止に努めた。
 - ・部門全体のリスクマネジメントも行い、想定内を増やすよう努めた。
- ⑧保育の振り返りをミーティング・職員会議で行い、子どもの人権・人格を尊重する。

- ・ミーティング・職員会議で報告をし、職員間で共通理解を図った。また、みんなで意見を出し合い検討を重ねた。

⑨園開放にたくさん参加していただけるよう受け入れ体制を整えておく。

- ・4月より再開。園庭での受け入れとし、たくさんの方に利用していただいた。

⑩地域の子育てニーズに応えるべく一時保育を積極的に受け入れる。

- ・6月より再開し、たくさんの方に利用していただいた。

⑪感染症対策を行う。

- ・手洗い手指消毒、体調不良時マスクの着用を行った。
- ・こまめな換気、玩具等の消毒を行った。
- ・加湿器、空気清浄機の活用を行った。
- ・発熱や体調不良の場合は細かく症状を聞き取り、体調把握に努めた。

4. <<修繕・購入計画>>

- ・2024年1月に見守りカメラの設置を行った。

5. <<地域貢献事業報告>>

- ・7月 夏まつり (お楽しみ会に変更 園児のみで行った)
- ・8月 大慈こども園の地蔵盆
- ・9月 保育説明会
- ・1月 おもちつき (たちばな児童館すこやかクラブの親子を招待した)
- ・毎月 基本第2、第4木曜日 園庭開放

6. <<大慈あい小規模保育園・大慈さち小規模保育園との連携>>

- ・土曜日は大慈あい小規模保育園、大慈さち小規模保育園の園児も大慈ほまれ幼保連携型認定こども園で保育を行う。
→感染症の状況を見ながら合同保育を行った。
- ・1号に移行する大慈あい小規模保育園、大慈さち小規模保育園の園児(2歳児)を早めに受入れ慣れるようにする。
→1月下旬より感染症の状況をみながら交流をはかり、2月中旬よりこども園で過ごし始めた。

7. <<行事報告>>

年間行事

月	行事名
4月	入園式
5月	こいのぼりの集会
6月	歯科教育指導(5歳児のみ) 同園会
7月	プール遊び 七夕まつり お楽しみ会 ワークキャンプ受け入れ
8月	地蔵盆(大慈こども園にて)
9月	5歳児お泊り保育 作品展
10月	スポーツフェスティバル(2部制) お楽しみ会 遠足ごっこ(0歳児~2歳児) 秋の遠足(3歳児~5歳児)
11月	保育参加・参観 津波避難訓練(大倉山中央体育館) 遠足(5歳児) よいこの集い

12月	ほまれっこコンサート（4・5歳児） クリスマス会
1月	おもちつき 地震避難訓練（大倉山中央体育館）
2月	わくわく会
3月	全園児お別れ遠足 津波避難訓練（大倉山中央体育館） お別れ会 卒園式

月間行事（月1回）

- ・お誕生日会 ・防災訓練 ・防犯訓練 ・園児発育測定

その他

- ・ECC英語遊び（2～5歳児）月数回
- ・音楽指導（4・5歳児）月数回
- ・近隣の園との5歳児交流会 年2回
- ・消火器 火災報知器の点検 年2回
- ・警察署による交通安全教室、防犯訓練 年1回
- ・事故対応訓練（SIDS プール事故 アレルギー 痙攣）

8. 《保健衛生報告》

項目	頻度等
園児、職員定期内科健康診断	園児4月9月 年2回 職員年1回
園児歯科健診	6月 11月 年2回
園児耳鼻科健診	7月 年1回
園児眼科健診	6月 年1回
園児発育測定	月1回
園児検尿	兵庫県予防医学協会により年1回
調理員、保育教諭全員検便	(株)有研により月1回 6月～10月 月2回
調理室の消毒	サニックスにより月1回
グリストラップの清掃	アーテックサーキュレーションにより年5回
砂場消毒	年1回
配管清掃	年1回

9. 《令和5年度在籍園児数》

2・3号認定

年齢 (定員)	0歳児 (6人)	1歳児 (10人)	2歳児 (10人)	3歳児 (11人)	4歳児 (11人)	5歳児 (12人)	合計 (60人)
4月	9	12	12	12	13	10	68
5月	9	12	12	12	13	10	68
6月	9	12	12	12	13	11	69
7月	9	11	12	12	13	11	68
8月	9	12	11	12	13	11	68
9月	9	12	11	12	13	11	68
10月	9	12	12	12	13	11	69
11月	9	12	12	12	13	11	69
12月	9	12	12	12	13	12	70
1月	9	12	12	12	13	12	70
2月	9	12	11	12	13	12	69

3月	9	12	11	12	13	12	69
合計	108	143	140	144	156	134	825

1号認定

年齢 (定員)	3歳児 (5人)	4歳児 (5人)	5歳児 (5人)	合計 (15人)
4月	6	5	6	17
5月	7	5	6	18
6月	7	5	6	18
7月	7	5	6	18
8月	7	5	6	18
9月	7	5	6	18
10月	7	5	6	18
11月	7	5	6	18
12月	7	5	6	18
1月	7	5	6	18
2月	7	5	6	18
3月	7	5	6	18
合計	83	60	72	215

10. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

○報告件数

令和4年度		令和5年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
5件	1338件	8件	1463件

○事故発生内容

- ・遊んでいる際に転倒し、おでこにたんこぶが出来た。
- ・遊んでいる際に転倒し、前歯で下唇を噛んで出血をした。
- ・バランスを取ろうとして腕を床についた時に、肘の亜脱臼が起きた。
- ・降園時、足首に水泡が出来ていた。夜に大きく膨れたので母親が救急へ連れていくと「火傷」と診断をうけた。診断結果に疑問を感じていたため、園より別の病院を受診した。
- ・友だちと遊んでいる中で、友だちの体が前歯に当たり歯茎より出血した。
- ・平均台に立っていた際に、後ろに転倒。後頭部を打ち、たんこぶが出来た。
- ・下駄マラソン後、左足首の痛みにより歩くことが出来ない状態だった。

○まとめ

- ・転倒時、とっさに手が出ないことから顔に怪我をすることが増えている。朝のサーキット等で体感を鍛え、身体作りをしていく
- ・ヒヤリハットは行事の時期になると件数が減っている。忙しい時期でも書き留めることができる方法を各自で考えることを呼び掛けた。

1 1. << 苦情・相談結果報告 >>

※園長が直接対応した件を苦情と定義する。

○報告件数

令和4年度				令和5年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	5件	5件	0件		1件	1件	0件

○苦情内容

- ・以前より子ども間でのお手紙のやり取りについて担任に相談をしていたが、改善されていない。対応を考えてほしい。

顔にあざを作って帰ってきたが、その日に職員から何も聞いていない。その後の対応に関しても不信感を感じている。対応の方法や子どもを安全にみる方法を見直し、改善してほしい。

○まとめ

- ・保護者の方と担任とが顔を合わせる機会が少なく、信頼関係を築くことが出来ていなかった。顔を合わせた際には会話を大切にし、信頼関係を築いていく。また、場合によっては電話等を行い、話をする機会を作っていく。

伝達事項に関しては伝達方法を見直し、職員間で周知徹底を行った。保護者の方に正確な情報を伝えることが出来るようにしていく。

1 2. << 新型コロナウイルス感染症に係る事業継続支援事業 >>

○インフルエンザの予防接種 15名 64,000円

1 3. << 総括 >>

- ・5月より新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、制限をしていた活動を再開することができた。子どもたちの活動の幅が広がりたくさんの経験を積むことができた。人と関わることや、地域に出かけることで得ることが出来る刺激の大切さを改めて感じた。
- ・行事に関しても、コロナ禍以前の行事に戻すことができた。保護者の方に日常を見ていただく機会が増えたことで、子どもの成長を共有するきっかけが増えた。

コロナ禍に就職をし、行事を経験していない職員が多いため、話し合いと確認を重ねて行事に取り組んだ。みんなで話し合っ取り組んでいくという形が少しずつ出来てきているように感じる。

令和6年度は、職員も主体的に活動ができるように話し合いの場をたくさん設け、みんなで子どもにとって、地域の方にとってよりよい保育を考えていきたい。

1. 《基本方針》

- ①子どもを第一に考え、保護者に寄り添い共に育てる。
- ②職員一人一人が自己研鑽に励み、資質向上に努める。
- ③職員の定着に向けて、業務の効率化を図る。

2. 《中長期目標》

- ①保育理念に基づいた保育を職員で共通理解し、実施する。
- ②子ども、保護者に寄り添い、共に子育てをする。
- ③キャリアパスを基に研修の充実を図る。
- ④法人内幼保連携型認定こども園、小規模保育園との連携を図り独自性を出す。

3. 《令和5年度報告》

- ①保育理念をよく理解し、子どもの主体性を育むよう保育をする。
 - ・子どもの発達段階や興味のある玩具を置き、主体的に遊べるように環境を整えた。
- ②保護者理解が深められるよう、日頃からの関わりを大切にする。
 - ・園での様子をこまめに伝え、成長をした姿を共有する中で家庭での様子を聞き、連携を図った。
- ③大慈ほまれ幼保連携型認定こども園との連携を図り、豊かな体験を増やす。
 - ・職員間で情報を共有し、土曜日の合同保育を行った。
 - ・連携園に遊びに行くことで、各園の園庭や室内で同年齢との交流を図った。
- ④保護者や地域の方々とのより良い信頼関係が保てるよう積極的に関わる。
 - ・職員紹介ニュースを発行し、職員と保護者の関係が円滑に築けるようにした。
 - ・地域に園だより等を配布するとともに、積極的に働きかけ、関係を深めた。
- ⑤資質向上のため職場内、職場外研修（オンライン研修含む）を行う。
 - ・キャリアパス要件を満たすよう研修を受講した。
 - ・教育・保育部門合同研修を行った。
 - ・コンプライアンス研修、子どもの人権・人格の尊重に関する研修を行った。
- ⑥日頃より、法人内園・児童館に行き、交流を深める。
 - ・各園や館に遊びに行くことで、園にはない玩具や園庭で遊び、園の子ども達と交流を持てるようにした。
- ⑦人財確保・定着に努める。（ICTの活発な活用等により効率化を図る）
 - ・保育書類をiPadで作成し、効率化に向けて取り組んだ。
- ⑧リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
 - ・職員間で周知、改善をし、再発防止に努めた。
 - ・部門全体のリスクマネジメントも行い、想定内を増やすように努めた。
- ⑨保育の振り返りをミーティング・職員会議で行い、子どもの人権・人格を尊重した。

⑩感染症対策を行う。

- ・常に窓を開けて換気を行うことで感染防止に努めた。
- ・職員・子ども・保護者の体調管理の把握に努めた。
- ・手洗い、手指、玩具の消毒をこまめに行うよう徹底した。
- ・発熱時やその他症状が出た時の対応として、流行している病気を掲示し周知した。
- ・神戸市からの情報発信を配布し、連携園と密に情報を共有し感染防止に努めた。

4. 《修繕・購入計画》

- ・見守りカメラ
→令和6年4月に延期

5. 《大慈ほまれ幼保連携型認定こども園との連携》

- ・土曜日は大慈ほまれ幼保連携型認定こども園で保育を行う。
→感染症の状況を見ながら合同保育を行った。
- ・1号で移行する園児（2歳児）は各連携園に、早めに受け入れていただき、慣れるようにする。
→1月下旬より感染症の状況を見ながら交流を図り、2月下旬より移行先のこども園で過ごし始めた。

6. 《行事計画》

年間行事

月	行 事
4月	入園式
6月	個人懇談
7月	七夕まつり
10月	運動会・遠足ごっこ
11月	個人懇談・津波避難訓練
12月	クリスマス会
1月	お楽しみ会・津波避難訓練
2月	豆まき
3月	お別れ遠足（バスに乗ってさち小規模保育園の子どもとどうぶつ王国へ行った） お別れ会（子ども達と職員と一緒に遊んだ） お別れ会（2歳児とその保護者が参加し修了式をした）

月間行事

- ・お誕生日会（月1回）・ECC英語遊び（9月～2月の6回）・防災訓練

その他

- ・防犯訓練
- ・事故対応訓練（SIDS・誤飲・アレルギー対応）
- ・消火器、火災報知機の点検 年2回

7. 《保健衛生計画》

項 目	頻 度 等
園児・職員定期内科健康診断	園児 春秋年2回 職員 春年1回
園児歯科健診	6月・年1回
園児耳鼻科健診	6月 年1回
園児身体測定	月1回
園児検尿	兵庫県予防医学協会により年1回
保育者全員検便	(株)有研により月1回以上

*感染症の状況により時期を検討することがある。

8. 《令和5年度在籍園児数》

年齢 (定員)	0歳児 (3人)	1歳児 (4人)	2歳児 (5人)	合計 (12人)
4月	3	4	4	11
5月	3	4	4	11
6月	3	4	4	11
7月	3	4	4	11
8月	3	4	5	12
9月	3	4	5	12
10月	3	4	4	11
11月	3	4	4	11
12月	3	4	4	11
1月	3	4	4	11
2月	3	4	4	11
3月	3	4	4	11
合計	36	48	50	132

9. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診断を受けた怪我を事故と定義する。

○報告件数

令和4年度		令和5年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
1件	511件	1件	1262件

○事故発生内容

- ・保育者が手を繋ぎ歩いたとき、本児の体が浮いた状態になり腕を痛がった。上げることができなかつたため病院へ受診した。肘内障になりかけの亜脱臼と診断され、肘を入れてもらった。

○まとめ

- ・子どもの腕は抜けやすいため、引っ張ることはしない。また、子どもに声を掛けてから手を繋ぎ歩くように職員に周知した。

10. 《苦情・相談結果報告》

※管理者が直接対応した件を苦情と定義する。

○報告件数

令和4年度			令和5年度				
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	1件	0件	1件		1件	1件	1件

○内容

- ・保育園の前のマンションの住民の方から、「多聞通の保育園の子どもがうるさくて夜勤なのに眠れない」と大慈こども園に電話があった。

○まとめ

- ・子ども達が園の前で遊んでいる時の声が大きくなるがあった。声の大きさや過ごす時間帯を考えて出るようことを職員に周知した。

11. 《新型コロナウイルス感染症に係る事業継続支援事業》

○インフルエンザの予防接種 2名 8,000円

12. 《総括》

- ・4月より0歳児の新入園児も定員に達していた。一人一人に寄り添えるよう担当を決め、ゆったりと過ごせるようにした。また、保護者の方とコミュニケーションを取り、園と家庭での情報交換をとることが出来た。
- ・新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」になり公園や姉妹園にたくさん出掛けることができた。また、お誕生日会や運動会は制限なく招待し開催できた。
- ・感染症対策として消毒を行っていたが、新型インフルエンザや手足口病に感染する子どもがいた。感染拡大防止のために手洗い、消毒を引き続き徹底していく。

1. 《基本方針》

- ①子どもを第一に考え、保護者に寄り添い共に育てる。
- ②職員一人一人が自己研鑽を行い、資質向上に努める。
- ③職員の定着に向けて、業務の効率化を図る。

2. 《中長期目標》

- ①子ども、保護者に寄り添い、共に子育てをする。
- ②保育理念に基づいた保育を職員で共通理解し、実施する。
- ③地域に愛される大慈さち小規模保育園になるよう努める。
- ④法人内幼保連携型認定こども園、小規模保育園との連携を図り独自性を出す。
- ⑤キャリアパスを基に研修の充実を図る。

3. 《令和5年度報告》

- ①保育理念をよく理解し、子どもの主体性を育むよう保育をする。
→子どもの発達段階に合った環境を整え、主体的に遊べるようにした。
- ②保護者理解が深められるよう、日頃からの関わりを大切にする。
→園での様子や成長した点を小まめに伝えることで、成長を共有し、保護者との信頼関係を築いた。
- ③法人内幼保連携型認定こども園との連携を図り、豊かな体験を増やす。
→連携園にこまめに遊びに行くことで、各園で砂遊びや広い園庭で十分に身体を動かすなど様々な体験を行った。
- ④保護者や地域の方々とのより良い信頼関係が保てるよう積極的に関わる。
→職員紹介ニュースを配布し、職員の名前と顔が保護者に認識していただけるようにした。
→散歩の際に気軽に声を掛けていただいたり、お便り配布のたびに子どもたちの成長を喜んでいただいたりした。
→子どもたちと花壇の花を季節ごとに植えることで植物に関心を持てるようにした。
地域の方にも子どもたちの植えた植物の成長を見守っていただけた。
- ⑤資質向上のため職場内、職場外研修（オンライン研修含む）を行う。
 - ・キャリアパス要件を満たすよう研修を受講した。
 - ・毎月の職員会議でマニュアル研修を行い、職員間での共通理解を深めた。
 - ・教育・保育部門合同研修を行った。
 - ・コンプライアンス研修、子どもの人権・人格の尊重に関する研修を行った。
- ⑥人財確保・定着に努める。（ICTの活発な活用等により効率化を図る）
→保育書類をiPadで作成し、効率化に取り組んだ。
- ⑦リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
→園だけでなく、部門全体で情報を共有し、想定内を増やすよう努めた。
- ⑧保育の振り返りをミーティング・職員会議で行い、子どもの人権・人格を尊重する。
→ミーティング・職員会議で報告をし、職員間で共通理解を図った。
また、みんなで意見を出し合い検討を重ねた。

⑨感染症対策を行う。

- ・窓を開けて換気を行うことで感染防止に努めた。
- ・職員・子ども・保護者の体調管理の把握に努めた。
- ・こまめな手洗い、手指、玩具の消毒を徹底した。
- ・神戸市からの情報発信を配布し、連携園と蜜に情報を共有し感染防止に努めた。
- ・発熱やその他の症状における対応として、流行している病気を掲示し周知した。

4. 《修繕・購入計画》

- ・見守りカメラ
→令和6年4月に延期

5. 《大慈ほまれ幼保連携型認定こども園との連携》

- ・土曜日は大慈ほまれ幼保連携型認定こども園で保育を行う。
→感染症の状況を見ながら合同保育を行う。
- ・1号で移行する園児（2歳児）は各連携園で、早めに受け入れ慣れるようにする。
→1月下旬より感染症の状況を見ながら、交流を図り、2月下旬より移行先のこども園で過ごし始めた。

6. 《行事計画》

年間行事

月	行事
4月	入園式
6月	個人懇談
7月	七夕まつり
10月	運動会・遠足ごっこ
11月	個人懇談・津波避難訓練
12月	クリスマス会
1月	お楽しみ会・津波避難訓練
2月	豆まき
3月	お別れ遠足（バスに乗ってあい小規模保育園の子どもと一緒にどうぶつ王国へ行った） お別れ会（子ども達と職員と一緒に遊んだ） お別れ会（2歳児とその保護者が参加し修了式をした）

月間行事

- ・お誕生日会(月1回)
- ・ECC英語遊び(9月～2月の6回)
- ・防災訓練

その他

- ・防犯訓練
- ・事故対応訓練（SIDS・誤飲・アレルギー対応）
- ・消火器、火災報知機の点検 年2回

7. 《保健衛生計画》

項目	頻度等
園児・職員定期内科健康診断	園児 春秋年2回 職員 春年1回
園児歯科健診	6月・年1回
園児耳鼻科健診	6月 年1回
園児発育測定	月1回
園児検尿	兵庫県予防医学協会により年1回
保育者全員検便	(株)有研により月1回以上

*感染症の状況により時期を検討し対応することがある。

8. 《令和5年度在籍園児数》

年齢 (定員)	0歳児 (4人)	1歳児 (7人)	2歳児 (8人)	合計 (19人)
4月	4	7	7	18
5月	4	7	8	19
6月	4	7	8	19
7月	4	7	8	19
8月	4	7	8	19
9月	4	7	8	19
10月	4	7	8	19
11月	4	7	8	19
12月	4	7	8	19
1月	4	7	8	19
2月	4	7	8	19
3月	4	7	8	19
合計	48	84	95	227

9. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

○報告件数

令和4年度		令和5年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
1件	541件	0件	588件

10. 《苦情・相談結果報告》

※管理者が直接対応した件を苦情と定義する。

○報告件数

令和4年度			令和5年度				
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	1件	0件	1件		1件	1件	0件

○苦情内容

1号抽選会に参加しなかったため、抽選が出来ず、希望園に入れなかった。

○まとめ

抽選対象者になることや抽選会のお知らせがホワイトボードに掲示されていることを知らなかったと話があった。

マーカーを引くなど、わかりやすく掲示する。

1 1. <<新型コロナウイルス感染症に係る事業継続支援事業>>

○インフルエンザの予防接種 6名 23,000円

1 2. <<総括>>

- 新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」になったことで、園外に出る機会が増え、姉妹園や公園に行ったり、バスに乗って遠足に行ったりすることができ、経験や喜びへと繋げることができた。
- 退職や異動で職員が入れ替わったため、些細な体調の変化や子どもの成長を伝えることで保護者との信頼関係を築くようにした。
- 地域の方には温かく受け入れていただき、子どもたちの成長を見守っていただいた。

令和5年度 事業報告書

神戸市立たちばな児童館

1. 《基本方針》

家庭的な雰囲気の中で、遊びや子ども同士の関わりを通して、将来も幸せになるよう支援を行い、子育てコミュニティの拠点となるよう地域に開かれた児童館を目指す。

2. 《中長期計画》

- ・地域と連携して、子どもを健全に育成する拠点となる。
- ・法人内幼保連携型認定こども園と連携を図り、保育の玄関口となる。
- ・親子が気軽に集い、育児に対する負担感を軽減できる場となる。
- ・育児に不安を覚えた際に、安心して相談しに行きたい場所になる。
- ・初めてくる方が安心して利用できるように、また、児童館の存在を知らない子育て家庭に、知ってもらえるように広報活動をしていく。
- ・地域の小学生以上の児童が進んで遊びに来たくなる場所を目指す。
- ・ボランティアの募集を積極的に行い、児童館活動の更なる充実を図る。

3. 《令和5年度報告》

①地域との連携を密にし、児童館活動を充実させる。

- ・毎月おたよりの配布を行った。
- ・菊水天神祭りのこども神輿に希望者を募り参加した。
- ・新型コロナウイルスの影響を考慮し、指導員のみであったが地域防災訓練に参加した。
- ・子育てコミュニティの方達と打ち合わせをし、日曜開放や、行事に参加していただくことができた。

②法人内こども園と連携して、活動内容の見直しや、環境の整備を行う。

- ・園やおやこふらっとひろば中央で乳児がよく遊んでいる玩具を玩具を手作りし、乳児がより楽しめる遊びを取り入れた。

③SNSやホームページを使って広報活動を積極的に行い、児童館の活動内容を地域の方々に知っていただく。

- ・LINEやホームページを活用して親子館事業のプログラムの予約案内をした。
- ・部門のInstagramに児童館の様子を載せた。
- ・中央区の合同行事にて、すこやかクラブ、一般参加親子の合同イベントに参加した。

④気軽に足を運び、相談ができるように清潔で明るい雰囲気を作っていく。

- ・職員から来館者に声をかけ、気軽に話ができるよう努めた。
- ・11月1日に内装をリニューアルし、おやこふらっとひろばの職員を午後に配置して、相談業務を強化した。

⑤ボランティア受け入れを行い、遊びや行事の充実を図る。

- ・学習支援教室で年間を通して活動を行った。
- ・すこやかクラブで弟妹の託児ボランティア活動をしていただいた。

⑥学習支援教室を引き続き行い、子どもの居場所づくりをすることで地域貢献を行う。

- ・常時3～5名の参加にとどまった。
- ・年度末に2名登録者が増えた。

4. 《地域貢献事業報告》

○ 学習支援教室「まなびやDAIJI」

- ・小学1年生～6年生を対象に令和5年度も引き続き実施した。
- ・主に湊川神社にて実施し、使用できないときは総合福祉センター、たちばな児童館で開催した。
- ・毎週金曜日15:00～17:00に実施した。
- ・登録人数：8人（2年生～6年生）
- ・ボランティア：3名
- ・令和5年度は50回開催することができた。
- ・地域や婦人大学、職員からの紹介により集まったボランティアにより宿題や、授業の分からないところと一緒に考えていくようにした。
- ・居場所づくりとして友だちが増える様に、学習用カードゲームを使用したレクリエーションタイムも設けた。

○ トライやるウィーク

- ・湊翔楠中学校の児童を受け入れた。
- ・親子館事業の準備や乳児との関わり、学童保育の準備等の活動を通して児童館事業の体験をしてもらうようにした。

○ はじめの一步ツアー

- ・ほっとかへんネット事業「はじめの一步ツアー」で、館の見学とプログラムへの参加を行った。

5. 《修繕・購入報告》

○ 児童館内装リニューアル工事 9～10月にかけて内装の工事を行った。

- ・瀧図案 デザイン 1,496,865円
- ・コラボラボ 内装工事 3,960,000円
- ・坂本工務店 内装工事・家具 1,375,814円
- ・弦川悠 壁画 777,970円

6. 《児童健全育成事業報告》

- ・児童館での日常の自由遊びや行事を通して、児童の健全育成を図った。
- ・引き続き木製の大型遊具をリースで設置し、木のぬくもりを感じながらゆったりとごっこ遊びを楽しんだり、体を動かしたりできるようにした。リースの玩具の入れ替えも行った。
- ・月ごとに季節の絵本の見直し、購入を行った。
- ・感染症対策を引き続き行いながら行事を開催した。
- ・感染症に配慮し、高齢者と多数の児童がふれあう行事は中止にした。

年間行事

4月	新入生歓迎会 こいのぼり作り
5月	楠北まつり参加
6月	つくって遊ぼう
7月	夏祭り
8月	サマープログラム（工作・ゲーム等） 交通安全指導 ビデオシアター 高齢者とのふれあい交流（中止） 子ども神輿参加
9月	高齢者へのプレゼント（中止）
10月	ハロウィン写真撮影

11月	シェイクアウト訓練 音楽遊び
12月	年末お楽しみ会 なかよしひろばクリスマス会
1月	カルタ大会 けん玉グランプリ
2月	豆まき
3月	つくって遊ぼう

月間行事

- ・けん玉検定
- ・おりがみ教室
- ・みんなで遊ぼう
- ・おはなし会（中止）

利用人数

	幼児	低学年 (一般)	高学年 (一般)	中高生	大人	学童保育	合計
4月	167	19	14	2	148	396	746
5月	201	2	5	0	189	353	750
6月	231	5	6	2	217	351	812
7月	287	75	34	2	283	391	1072
8月	89	29	6	0	84	391	599
9月	226	3	7	0	208	321	765
10月	243	5	4	0	227	333	812
11月	304	1	7	0	293	310	915
12月	350	21	21	12	290	344	1038
1月	315	12	6	0	303	283	919
2月	397	5	8	2	376	235	1023
3月	352	9	19	2	335	278	995
合計	3162	186	137	22	2953	3986	10446

7. <<在宅育児家庭支援報告>>

○ 親子館事業

- ・在宅育児家庭における育児に伴う孤立や育児不安などへ対応するため、地域に住む幼児と保護者を対象に親子が気軽に集える場として事業を行った。
- ・職員が仲立ちとなり、保護者同士が交流できるよう配慮した。
- ・季節が感じられるようなプログラム、親子のふれあいを楽しめるプログラムを取り入れた。
- ・登録児童とその保護者が活動に集中できるように、職員で0、1歳児の弟妹をできるだけ預かるようにした。

○ 「すこやかクラブ」2～4歳児とその保護者の仲間づくり（登録制）

目的：グループで楽しく遊び、保護者同士の交流を図った。

対象：2～4歳児とその保護者

実施日時：毎週金曜日10：30～11：30

地域の幼稚園のプレ等により、利用者のニーズに合わせて金曜日の10：30～11：30に行った

託児機能：0、1歳児の弟妹は児童館職員ができるだけ預かり、登録の親子が活動に集中できるようにした。

登録組数：(子どもの人数)：16組(16名) 内9組が0、1歳児の弟妹同伴

実施内容・参加人数

	月	日	内 容	参加人数 (組数)
1 学 期	5	19	開講式	31人 (13組)
		26	制作 (カレンダー)	33人 (14組)
	6	2	大雨警報の為 休館	0人 (0組)
		9	保健指導(ふれあい講座)	29人 (13組)
		16	制作 (カレンダー)	30人 (13組)
		23	染め紙あそび	25人 (11組)
		30	制作 (ちょうちん)	22人 (10組)
	7	7	七夕祭り	27人 (12組)
14		1学期お誕生日会	26人 (11組)	
2 学 期	9	8	制作 (カレンダー)	30人 (12組)
		16	制作 (しおり)	36人 (14組)
		22	こども本の森	24人 (10組)
		29	歯みがき指導	31人 (13組)
	10	6	消防署見学	28人 (12組)
		13	ミニ運動会	37人 (16組)
		20	おかあさんプログラム	34人 (14組)
		27	ハロウィンごっこ	34人 (14組)
	11	10	おかあさんプログラム	31人 (12組)
		17	うまちゃんと遊ぼう	30人 (12組)
		24	制作 (カレンダー)	32人 (13組)
	12	1	交通安全指導	27人 (11組)
		8	制作 (クリスマスブーツ)	33人 (13組)
15		2学期お誕生日会 クリスマス会	27人 (11組)	
3 学 期	1	12	つくって遊ぼう (かるた)	31人 (12組)
		19	修了記念制作 (写真たて)	31人 (12組)
		26	制作 (カレンダー)	36人 (14組)
	2	2	節分遊び	54人 (16組)
		9	おかあさんプログラム	35人 (12組)
		16	制作 (ひなまつり)	35人 (14組)
	3	1	お別れ遠足 (王子動物園)	40人 (16組)
		8	修了式 3学期お誕生日会	38人 (15組)

○ 「キッズクラブ」すこやかクラブの保護者による幼児の相互関わりと交流

目 的：すこやかクラブのグループで保護者が主体となって遊びの内容を決めて活動する。

対 象：すこやかクラブの希望者

実施日：毎週木曜日 10:30～11:30

参加数：5組

○ 「なかよしひろば」子育て親子の交流の場

対 象：0歳児～就学前児とその保護者

- ・ 0歳児タイム、1歳児タイムは感染症対策の為、年度途中まで令和4年度に引き続き2部に分け、申込制にして実施した。1部、2部共に10組ずつで行った。
- ・ 予約制にし、インターネット予約で受付をした。

実施日：毎週火曜日・水曜日（4月～3月）

- ・0歳児タイム…0歳児の親子が楽しく遊ぶ
毎週火曜日10:00～10:30、11:00～11:30
- ・1歳児タイム…1歳児の親子が楽しく遊ぶ
毎週水曜日10:00～10:30、11:00～11:30
- ・おべんとうひろば…自由に昼食をいただく
毎週月曜日～土曜日11:30～12:30
新型コロナウイルス感染拡大防止の為、年間を通じて休止した。
- ・誕生日会…2か月に1度行った（奇数月）

なかよしひろば参加人数

	0歳児タイム参加人数（組）	1歳児タイム参加人数（組）	合計人数（組）
4月	50（23）	52（26）	102（49）
5月	103（50）	61（30）	164（80）
6月	84（42）	72（36）	156（78）
7月	54（27）	58（29）	112（56）
8月	0（0）	0（0）	0（0）
9月	109（55）	67（33）	176（88）
10月	166（82）	89（44）	255（126）
11月	140（70）	98（49）	238（119）
12月	81（40）	66（32）	147（72）
1月	71（36）	79（38）	150（74）
2月	93（46）	60（29）	153（75）
3月	85（42）	43（21）	128（63）
合計	1036（513）	745（367）	1781（880）

8. <<子育てコミュニティ育成事業（児童館日曜開放）報告>>

目的：地域における子育てコミュニティづくりを図る

- ・地域の各種団体やボランティアで構成する「開放委員会」が実施する。
- ・児童館は日曜開放に積極的に協力し、委員の方と共に実施する。
- ・予約制にして開催した。
- ・夏祭り、年末お楽しみ会は、児童館と共同開催で行い、新型コロナウイルス感染症前の実施形態に戻って行った。

日曜開放実施内容及び参加人数

	内 容	参加人数
4月	つくってあそぼう（宝探しゲーム）	20
6月	プラバン作り	25
7月	七夕飾り	27
7月	夏祭り	252
9月	スーパーボールすくい	37
10月	スライム作り	39
11月	万華鏡作り	40
12月	年末お楽しみ会	141
1月	けん玉グランプリ	24

2月	ミニ運動会	29
3月	昔遊び	40

9. 《広報報告》

- ・ホームページを活用し、「じどうかんだより」の更新を行った。
- ・内装リニューアルに合わせて「じどうかんだより」も一新し、「たちばな新聞」とした。
- ・SNSを活用して、興味を持ってもらうことに努めた。
- ・毎月「じどうかんだより」「たちばな新聞」を地域の関係者・関係機関に届け、地域との関係強化を図った。

10. 《安全指導・危機管理報告》

- ・避難訓練（火災、地震、水害、防犯）月1回～2回
- ・一般来館の児童も避難訓練に参加した。

11. 《研修報告》

- ・神戸市や中央区社会福祉協議会が開催した児童館研修に参加し、知識を得た。それを持ち帰り、他職員に伝達をしたり、実際行ってみたりと有効に活用できた。

12. 《総括》

- ・11月に内装をリニューアルしたため一般利用の親子が増えた。また、ロコミで来たと、地域外から0、1歳タイムに遊びに来られる方もいた。
- ・おやこふらっとひろばと連携し、双方の利用案内を行った。育児相談に力を入れ、おやこふらっとひろばの職員が水曜日の午後にいるようにし、午後の一般来館親子の利用者増に努めた。
- ・すこやかクラブの0、1歳児のきょうだいが多かったため、たちばなふれあいのまちづくり協議会で協力をお願いし、託児ボランティアに来ていただくことができた。
- ・学童保育利用児童や、元利用児童の誘いで、一般来館で遊びに来る児童がいた。また、長期休み中の日中の居場所としての活用も見られた。児童がたくさん住んでいる場所からは離れているが、それでも遊びに来たくなる場所であるように行事や遊びなどの活動内容を引き続き工夫していく。
- ・学童保育を利用していた中学生がテストの後など時間に余裕がある時にやってきて、職員とのコミュニケーションを楽しんでいた。高校受験や卒業の報告にも訪れていたもので、地域の児童に長く関わっていける児童館でありたい。また、中学生にとっても、安心できる居場所としていきたい。

令和5年度 事業報告書

神戸市立たちばな児童館放課後児童クラブ

1. 《基本方針》

- ・豊かな遊びや経験を通して、健やかな育成を図る。
- ・保護者、地域社会との連携を図り、よりよい子育て環境作りを行う。
- ・湊学童保育コーナーとの連携を密に図る。

2. 《中長期目標》

- ・児童一人一人と丁寧に向き合い、心落ち着く場にする。
- ・安心して学童保育が利用できるよう、保護者との関係作りに努める。

3. 《令和5年度報告》

①全学年の児童への対応を学び知識、技能を深める。

- ・研修参加、ミーティングや会議で話し合いを重ねた。
- ・高学年児童とも積極的に関り、理解に努めた。

②豊かな経験ができるよう努める。

- ・お楽しみ会等の企画、準備、進行などを自分たちで行う等のサポートをした。
- ・地域の神輿に希望者とともに参加をした。

③夏季休業日期間の希望者にお弁当委託サービスを行う。

- ・昨年に引き続きライフデリに委託し、実施することができた。

④リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。

- ・部門で情報を共有し、安全確保に努めた。
- ・職員会議で毎月情報共有し、対応について話し合った

⑤児童、職員の交流を深め、湊学童保育コーナー、湊第二学童保育コーナーと一体的に保育を行う。

- ・オンラインを活用してけん玉大会を行い交流を図った。
- ・毎日オンラインで合同ミーティングを行い、情報を共有した。

⑥植物や生物の世話をする機会を用意し、命の大切さを学ぶ機会を作る。

- ・メダカの飼育や花、観葉植物への水やりなどを通して、命を大切にすることを学ぶ機会を設けた。

⑦小学校との定期的な連絡会を実施する。

- ・必要に応じて情報のやり取りを随時行った。

⑧児童が興味を持っていることに進んで取り組めるように、環境を整えていく。

- ・児童が中心となって発案し準備、進行をしたお楽しみ会を行った。

⑨Wi-Fi環境を整備し、小学生のパソコン学習に対応する。また、利用に関するルールについて職員も理解を深め、子どもに伝えていく。

- ・Wi-Fiにつないで宿題をしている。宿題をする時のみ使用できるルールになっていることを児童や保護者に伝えた。

⑩資質向上のため職場内、職場外研修（オンライン研修を含む）を行う。

- ・コンプライアンス研修を行った。
- ・子どもの人権・人格の尊重に関する研修を行った。

⑪保育の振り返りをミーティング・職員会議で行い、子どもの人権・人格を尊重する。

- ・子どもへの関わり方について気になる点は無かったか議題に取り入れ、振り返りを行った。

4. 《児童への指導内容》

- ・健やかで安全な環境作りに努めるとともに、自立に向けて支援をし、人間関係が円滑にいくよう指導を行った。
- ・学校や地域と連携を密に行い、子どもの安全確保、自立支援に努めた。

5. 《行事報告》

年間行事

4月	新入生歓迎会
5月	楠北まつり こども神輿参加
6月	七夕飾り作り
7月	たちばなカフェ 交通安全指導
8月	夏まつりWEEK（ゲーム・工作） ビデオシアター 高齢者とのふれあい交流（中止） こども神輿参加
9月	運動遊び 高齢者へのプレゼント（中止）
10月	ハロウィン
11月	クリスマス飾り作り
12月	年末お楽しみ会（学童お楽しみ会） たちばなカフェ
1月	かるた大会 けん玉で遊ぼう 個人懇談
2月	地域作品展に編み物等を出品
3月	新1年生入会説明会 お別れ会 たちばなカフェ

月間行事

- ・誕生日会 ・けん玉検定 ・おりがみ教室 ・みんなであそぼう
- ・おはなし会（休止）

6. 《月別在籍数報告》 受け入れ可能人数84名

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
4月	2	8	4	5	4	4	27
5月	4	8	4	6	3	3	28
6月	4	8	4	6	3	3	28
7月	4	8	4	6	2	3	27
8月	4	8	4	6	2	3	27
9月	4	8	4	6	2	3	27
10月	4	8	4	6	2	3	27
11月	4	8	4	6	2	3	27

12月	4	8	4	6	2	3	27
1月	4	8	4	6	2	3	27
2月	4	8	4	6	2	2	26
3月	3	8	4	5	2	2	24
合計	45	96	48	70	28	35	322

7. <<防災・防犯訓練報告>>

- ・火災、地震、水害、防犯、何れかの訓練を月1回以上行った。
- ・総合福祉センターの防災訓練に参加した。

8. <<会議報告>>

- ・毎月職員会議を行った。児童について、児童の関わり、作業手順の統一、学童保育の約束事の共通理解、問題点や改善点について話し合った。
- ・長期休み期間を除く平日にオンラインで湊学童保育コーナーとミーティングを行い、情報共有をした。

9. <<リスクマネジメント報告>>

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

○報告件数

令和4年度		令和5年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
3件	2210件	0件	1012件

○まとめ

- ・事故の発生はなかった。
 - ・前年度と比較しヒヤリハットの件数が減っているが、児童ごとに分けて書いていた内容を1枚にまとめるなど書き方を見直し、職員が負担に感じ始めていた部分を改善したことも影響している。
- 事故は幸い起こらなかったもので、今後も継続して事故の芽を摘んでいく。

10. <<苦情・相談結果報告>>

※館長が直接対応した件を苦情と定義する。

○報告件数

令和4年度				令和5年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	2件	1件	1件		1件	1件	0件

○内容

- ・1年生の利用児童の母より相談があった
学童からの帰りに上級生に追いかけられたり、ランドセルやリュックサックを引っ張られたりしている。家のインターホンにも映り込んで遊んでいるので、児童

館ではどのように対応してくれるのかと言う話があった。

○まとめ

- ・該当の児童に聞き取りをし、指導を行った。
双方の保護者にも聞き取りと指導の内容をお伝えし、申し出のあった保護者に納得していただいた。

1 1. 《新型コロナウイルス感染症に係る事業継続支援事業》

○感染者発生後の施設復旧・感染予防対策費

- ・消毒液等 79,109 円

○まとめ

- ・5類に緩和以降も消毒作業を続け、感染拡大防止に努めた。

1 2. 《虐待の疑いのある児童への対応》

○内容

- ・児童が会話の中で両親が喧嘩をしていると話していた。その後の会話の中で母に包丁を向けられたことを話していた。詳しく話を聞くと殴る、蹴る、首を絞める、父への暴力等があることが分かった。

○対応

- ・虐待の疑いのあるケースと思われたため、児童の住む区の保健福祉部へ当方から連絡を入れた。保健福祉部担当者の指示に従い、学童にて聞き取りが終わるまで児童を待機させた。聞き取りに来るまでの間に統括部長、課長、小学校へ連絡。保健福祉部担当者の聞き取りで母に言わないでほしいという本児の意向により家庭訪問はしないことになった。話に合ったようなことがあった場合は、110番に電話をするなど、身を守るすべを伝えていた。

○まとめ

- ・職員間で情報共有をし、変わった様子がないか観察をするようにした。
- ・その後も保健福祉部担当者からの聞き取りがあったが、話に出たようなことは起きていないとのこと。
- ・母が来館したことがあったが、変わった様子は見受けられなかった。

1 3. 《総括》

- ・人数が少ないのでゆったりと過ごしており、自分のしたい活動に集中して取り組んでいる様子だった。
- ・高学年の児童の中には、行事の際にみんなを楽しませることに喜びを感じていたり、日常での悩みや不満を職員に話すことで気持ちの切り替えをしていたりする姿が見られ、居場所としての役割の大切さを感じた。
- ・学校の垣根を越えて仲良く遊んでいて、友人関係が広がり、複数の学校の児童が利用している意義があった。
- ・午後から一般で遊びに来る乳児に対して優しく接することができ、一緒に遊ぶ姿

も見られた。

- 学童保育利用人数が少ないので、一人一人の様子を見ながら関わっていくことができる。職員の気付く力、対応力を上げていけるよう教育、指導を行っていく。
- 行事等は5類に緩和以降、感染対策に気を付けながら徐々にコロナ禍以前の形に戻していった。
- 虐待の疑いのある児童がおり、対応に当たった。会話の中で思いつめた様子もなく突然出てきた話であった。今後もこう言った話を聞き逃すことなく、異変に気付いていけるよう職員が一丸となって業務に励んでいく。

令和5年度 事業報告書

神戸市立湊学童保育コーナー
神戸市立湊第二学童保育コーナー

1. 《基本方針》

- ・豊かな遊びや経験を通して、健やかな育成を図る。
- ・保護者、地域社会との連携を図り、よりよい子育て環境作りを行う。
- ・親館との連携を密に図る。

2. 《中長期目標》

- ・児童一人一人と丁寧に向き合い、心落ち着く場にする。
- ・安心して学童保育が利用できるよう、小学校・保護者との連携作りに努める。

3. 《令和5年度報告》

- ①小学校との連携を密に図り、定期的な連絡会を実施する。
 - ・定期的な連絡ではなかったが、必要に応じて情報交換を随時行った。
- ②児童、職員の交流を深め、親館と一体的に保育を行う。
 - ・オンラインを活用してけん玉大会を行い、交流を図った。
- ③豊かな経験ができるよう努める。
 - ・学童内の行事の準備や進行を行い、友だちと協力して目的に取り組むようにするなど多様な経験をできるようにした。
- ④夏季休業日期間の希望者お弁当委託サービスを行う。
 - ・昨年に引き続きライフデリに委託し、実施することができた。
- ⑤リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
 - ・会議で情報を共有し、安全確保に努めた。
 - ・職員会議で毎月情報共有し、対応について話し合った
- ⑥植物や生物の世話をする機会を用意し、命の大切さを学ぶ機会を作る。
 - ・メダカの飼育や植物への水やりなどを通して、命を大切にすることを学ぶ機会を設けた。
- ⑦児童が興味を持っていることに進んで取り組めるように、環境を整えていく。
 - ・こども園にの手助けを借りながら、粘土のコーナー等、低学年がより興味を持てる遊びを取り入れた。
 - ・第二コーナーでは、児童の興味に合わせて玩具や本を購入した他、目安箱を設置し、児童の意見を集めた。
- ⑧Wi-Fi環境を整え、小学生のパソコン学習のルールについて職員も理解を深め、子どもに伝えていく。
 - ・Wi-Fiにつないで宿題をしている。宿題をする時のみ使用できるルールになっていることを児童や保護者に伝えた。
 - ・学校で許可されているタイピングソフトを使う際のルールを児童に伝え浸透を図った。

- ⑨湊コーナーと第二コーナーで連携を図り延長保育や土曜日の保育を合同で行う・
 - ・延長保育、土曜保育を年間を通じて合同で行った。
- ⑩資質向上のため職場内、職場外研修（オンライン研修を含む）を行う。
 - ・コンプライアンス研修を行った。
 - ・子どもの人権・人格の尊重に関する研修を行った。
- ⑪保育の振り返りをミーティング・職員会議で行い、子どもの人権・人格を尊重する。
 - ・子どもへの関わり方について気になる点は無かったか議題に取り入れ、振り返りを行った。

4. 《児童への指導内容》

- ・健やかで安全な環境作りに努めるとともに、自立に向けて支援をし、人間関係が円滑にいくよう指導を行った。
- ・学校や地域と連携を密に行い、子どもの安全確保、自立支援に努めた。

5. 《行事報告》

年間行事

4月	新入生歓迎会
5月	楠北まつり・こども神輿参加
6月	つくって遊ぼう
7月	夏祭り 昼食会
8月	サマープログラム（工作・ゲーム） ビデオシアター こども神輿参加
9月	製作遊び
10月	ハロウィンパーティー
11月	製作遊び
12月	クリスマス会 昼食会
1月	お正月遊び 個人懇談
2月	豆まき 新1年生資料配布
3月	お別れ会 お別れ遠足（中止） 入会説明会 昼食会

月間行事

- ・誕生日会 ・けん玉検定 ・おりがみ教室 ・みんなであそぼう

6. 《月別在籍人数報告》

- ・湊学童保育コーナー 受け入れ可能人数135名

1、2年生

	1年生	2年生	合計
4月	69	67	136
5月	72	65	137
6月	73	66	139
7月	72	65	137
8月	76	66	142

9月	76	65	141
10月	76	65	141
11月	75	62	137
12月	74	62	136
1月	74	63	137
2月	74	64	138
3月	73	64	137
合計	884	774	1658

- ・湊第二学童保育コーナー 受け入れ可能人数105名
3～6年生

	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
4月	43	18	4	1	66
5月	43	18	4	1	66
6月	44	18	4	1	67
7月	42	17	4	1	64
8月	42	17	4	1	64
9月	41	16	4	0	61
10月	40	14	4	0	58
11月	40	14	4	0	58
12月	38	14	4	0	56
1月	38	14	4	0	56
2月	38	14	4	0	56
3月	38	14	4	0	56
合計	487	188	48	5	728

7. 《防災・防犯訓練報告》

- ・火災、地震、水害、防犯、何れかの訓練を月1回以上行った。

8. 《会議報告》

- ・毎月職員会議を行った。児童について、児童の関わり、作業手順の統一、学童保育の約束事の共通理解、問題点や改善点について話し合った。
長期休み期間を除いて、平日に児童館とオンラインでミーティングを行い、情報共有をした。

9. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

○報告件数

湊学童保育コーナー

令和4年度		令和5年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
2件	882件	3件	390件

○事故発生内容

- ・目の打撲

遊んでいる際、向かいにいた児童が玩具の入っていたかごを投げ、怪我をした児童の右脛に当たった。

眼科を受診し、打撲と診断。視力等に異常なし。

- ・左手中指の怪我

脚を折りたためる機の金属のレール部分に指を入れたまま立ち上がろうとし、金属部分に引っ掛かり指の皮がめくれて出血した。

消毒をして保護の処置を受けた。

- ・左手小指の怪我

床についた手を通りかかった児童に踏まれた。

内出血があったが骨折無し。

○まとめ

- ・投げたものが当たった件については、加害児童に指導し保護者からも家庭で指導をお願いした。
- ・指をはさんだ場所はテープで覆い、児童にも指導をして再発防止に取り組んだ。
- ・遊んでいる時に周囲に気を付けるよう児童に呼びかけた。
- ・ヒヤリハットの報告件数が少なくなっており職員の意識が低下していたと思われるので事故を防ぐため気付きと周知、対策の徹底を図っていく。

○報告件数

湊第二学童保育コーナー

令和5年度	
事故	ヒヤリハット
1件	303件

○事故発生内容

- ・左目の打撲

前にいた児童の指が目当たった。

異常無し

○まとめ

- ・偶然起こった出来事であるが、周りに人がいる時は周囲の状況に気を付けるよう児童に話をした。

10. 《苦情・相談結果報告》

※館長が直接対応した件を苦情と定義する。

○報告件数

湊学童保育コーナー

令和4年度				令和5年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	7件	4件	3件		4件	4件	4件

○苦情・相談内容

- ・他児に足を引っ搔かれて傷ができています。引っ搔いた児童は周りの保護者からも暴力的な児童だと話が上がっている。安心して預けられるようにもっとよく見ておいてほしい。
- ・他児に背中を噛まれた件で相手の子どもに直接話をしたい。
最初に話した職員が相手児童寄りの立場で話しているように思えた。
- ・以前に背中を噛んだ児童がまた服を噛んできた。階を分けるなどしてほしい。
また、その出来事を家で子どもから聞いたので、職員から話をしてほしい。
- ・普段から関わりのある児童2名から「友達やめる」と言われ家で泣いている。
「楽しいことが無いから死にたい」と言っている。相手の保護者と直接話をする場を設けてほしい。

○まとめ

- ・衝動的な行動や暴力的な行動をする児童の動きを止めることができずに起こってしまったことで苦情につながった件が複数ある。保育環境や職員配置を見直して対応に当たった。
- ・関係する保護者の方に集まっていただき、話し合いの場を設けた。感情的になることはなく、今後の児童同士の関わりについて意見を言い合い、各家庭で指導することになった。学童でも児童同士のやり取りに気になる点が無いか注意してみていくことを伝えた。

○報告件数

湊第二学童保育コーナー

令和5年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談
	2件	1件	1件

○苦情・相談内容

- ・友達にのけ者にされたと言って家で泣いているので状況を知りたい。
- ・他児とトラブルがあった際の対応について聞きたい。中央区社会福祉協議会にも連絡を入れたので聞き取り調査の後報告を聞きたい。

○まとめ

- ・当事者を集めて話を聞き、状況を説明したので最後には納得していただいた。
- ・以前から職員の対応に納得がいかず、こちらにも落ち度があったため苦情

につながった。直接保護者と懇談の場を持ち、今後の対応改善点、学童での様子、家庭での指導内容等を話し、納得していただいた。普段からの伝達の仕方や様子の伝え方に配慮し、職員が信頼していただけるように努める。

1 1. 《新型コロナウイルス感染症に係る事業継続支援事業》

○感染者発生後の施設復旧・感染予防対策費

- ・湊コーナー 消毒液等 346,043 円
- ・湊第二コーナー 消毒液等 122,471 円

○まとめ

- ・5類に緩和以降も消毒作業を続け、感染拡大防止に努めた。

1 2. 《虐待の疑いのある児童への対応》

○内容

- ・顔に痣ができていた児童がいたので聞き取りをした。父に指ではじかれてきたと話していた。
- ・児童が会話の中で、バイオリンの練習中に母にお腹を蹴られたと話していた。

○対応

- ・虐待の疑いのあるケースと思われたため、児童の住む区の保健福祉部へ当方から連絡を入れた。保健福祉部担当者の指示に従い、学童にて写真を撮って送信した。お腹をけられた児童についてはコーナー長より保護者に話し、役所への連絡をすることになると伝えた。保健福祉部担当者が電話で家庭に聞き取りを行った。

○まとめ

- ・顔の痣は児童がふざけていて父が指で弾いたとなっていたが、場所が違っているようだった。母は父にやりすぎだと家で怒ったと言っており、役所に連絡が入っても仕方がないと感じているとのことだった。
- ・お腹をけられた児童は、練習中に子どもがイライラして怒り出すのでやってしまったとのことだった。
- ・職員間で情報共有をし、変わった様子がないか観察をするようにした。
- ・その後は通報に至るような出来事は起きていない。

1 3. 《総括》

- ・校内に施設が2つになり利用人数が多くなったため、職員間の連携、それぞれの役割が大切であると改めて感じた。職員の意識、スキルの向上に努めていく。
- ・保護者への伝達が不十分であったり、子どもへの対応の仕方にもう少し配慮ができたのではないかと感じる部分もいくつかあり、信頼関係がうまく構築できていない家庭があったので、保護者への伝達の仕方や、内容について職員に指導を行っていく。
- ・衝動的行動をする児童が複数おり、カウンセラーの助言を受けながら対応している。少しずつ落ち着いて過ごす姿が見られるようになってきているので、引き続き気になる児童にはどのように接していけばいいのかを話し合い、情報共有をし

てチームで取り組んでいく。また、職員のスキル向上と、個別配慮のできる職員の雇用に努める。

- 虐待の疑いのある児童がおり、対応に当たった。児童の顔の傷はマスクの下にあったため、気づきにくい場所であったが、職員が見逃さなかった為、適切な対応ができた。また、会話の中で突然出てきた話から分かったこともあったので、今後も異変に気付いていけるよう職員が一丸となって業務に励んでいく。

1. <基本方針>
 - ・利用者の最善の利益を目的とし、利用者主体の福祉サービスを提供する
 - ・母と子の権利擁護の為に、職員一人ひとりの倫理観、人間性を養い、母と子が安心して生活出来る場を提供する

2. <中長期計画>
 - ・入所者が金銭的、精神的、社会的に自立出来る様、自立に繋がる支援をする。また、全職員がそのヴィジョンに対し、共通の意識を持ち業務を遂行する
 - ・職員の資質向上
 - ・母子生活支援施設の認知の向上

3. <令和5年度報告>
 - ①各入所者の自立へのプロセスを明確にし、ニーズに沿った支援をする。また、心理士を採用し、支援の質を高める。
 - ・入所後、生活する中で、入所当初とは違った課題も生まれ、入所者のニーズに沿った支援を行った。心理士の採用に関しては、求人活動を行ったが、採用には至らなかったため、来年度も引き続き、採用に向けて活動していきたい。
 - ②人材育成計画を作成し、実行する。また、人材育成を通し、組織強化に努める。
 - ・コーチング研修や個人の面談を通し、職員間の意思疎通、職員それぞれの長所の強化、業務の中で挑戦してみたいという思いが生まれるよう努めた。結果、勤務年数に関係なく、自発的に行動する姿や組織の強化に繋がった。
 - ③母子生活支援施設の認知の向上
母子連盟での活動…関係機関を対象にした、施設見学、研修会開催
施設での活動…大学を訪問し、授業を行う
 - ・母子連盟では、関係機関を対象にした施設見学、研修を行った。施設では大学を訪問し2回、授業を行った。

4. <地域貢献事業>
 - ①法人こども園の時間外保育受け入れ（20時以降）
 - ・依頼は1件のみだった。
 - ②リフレッシュ保育事業の保育時間延長（21時以降）
 - ・職員の配置上、原則、19時までの受け入れとしたため、利用はなかった。
 - ③アフターケア（居室訪問、相談業務、病院の付き添い、金銭管理、関係機関との連携等）
 - ・5世帯に行った。
 - ④ほっとかへんネット中央との連携
 - ・研修への参加、広報活動を担った。

5. <修繕・購入報告>
 - ・退所後のリフォーム、防犯カメラの増設を行った。

6. <活動報告>

①研修

- ・母子関係の研修、法人内研修、施設内研修に参加した。

②広報

- ・毎月、施設内新聞を利用者、関係機関に配布した。
- ・市内の児童福祉施設で開催する就職フェアに参加した。

③学習指導

- ・小学生

長期休み以外(各児童週1回)…主に国語・算数を行い、個々の能力に沿って、学校の宿題、プリント、ワークを用いた。

長期休み(1回30分)…夏休みの宿題を行った。

- ・中学生

テスト前以外(各児童週1回)…学校、塾のワークを用い、行った。

テスト前(各児童2日間連続)…テスト範囲の勉強を行った。

④健康診断

種類	職員	母親	児童
一般健康診断	年2回	年2回	年2回
検便(〇-157)	月1回	—	—

⑤避難訓練

- ・消防訓練(毎月、1回)、浸水訓練(6月)、不審者訓練(10月)、地震訓練(11月)を行った。

- ・保健衛生

業者に依頼し、害虫駆除、各居室のエアコン清掃、排水管清掃、共有部の廊下清掃を行った。

- ・リフレッシュ保育事業

6月より再開し、職員の配置上、受け入れの曜日や時間に制限を設けた。年間利用者数は50名だった。

7. 《年間行事報告》

月	行事	月	行事
4	昼食会 (カレーライス・プザベリ)	10	ハロウィン
5	母子協 母と子の運動会 (雨天中止)	11	親子エンジョイ OB会 施設内忘年会
6	害虫駆除	12	児童エンジョイ 施設内クリスマス会 昼食会 (ビーフシチュー・キノコゲツト・フライドポテト・おにぎり・ブロッコリー・ジュース)
7	七夕 昼食会 (カレーライス・プザベリ) 卓球大会	1	母子協 新春母と子の集い 新年会
8	母子協 児童キャンプ 料理教室招待 地藏盆 昼食会 (二色丼・みそ汁・ミネゼリ) 昼食会 (クリームシチュー・ロールパン・ヨーグルト) 昼食会 (ハンバーグ・プザベリ) 昼食会 (豚丼・みそ汁・ミネゼリ)	2	節分
9	母子協 バス旅行 焼肉パーティー 昼食会 (カレーライス・プザベリ)	3	母子協 児童スキーキャンプ ひな祭り 昼食会 (カレーライス・プザベリ)

8. 《月間行事報告》

・月間行事

- ①母の会…月 1 回行い、行事の予定等について話した。
- ②個別遊び…月 1 回行い、食事作り等を行った。

9. 《入居者の異動利用状況》

・入居者の異動利用状況 (定員…入所→20世帯、短期保護→2世帯)

月別区分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
初日在籍世帯数		18	18	19	19	19	19	19	20	19	19	19	18	226
初日在籍人数		41	40	42	42	42	42	42	44	42	42	42	39	500
入所	住宅喪失	1	1						1					3
		2	2						2					6
退所		1							1			1		3
		3							2			3		8
短期保護	母子	1	1	1			1	1						5
		3	3	2			2	2						12
	婦人			1	1	1	1	1	3	3	3	2	2	18

(数字の上段は世帯数、下段は人数)

1 0. 《会議報告》

- ①職員会議、支援会議、リスクマネジメント会議、ワンアッパ会議、リフレ委員会
・毎月1回、行う。
- ②三者連絡会議
・年2回、行う。

1 1. 《リスクマネジメント報告》

※事故の定義…職員が付き添い、病院を受診したもの。

○報告件数

	令和4年度		令和5年度	
	事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
入所者	0 件	5 件	0 件	34 件

○事故発生内容

病院を受診する様な怪我は無かった。

○まとめ

ヒヤリハットの内容としては、職員による事務的ミスや連携ミスが多数を占めていたが個人情報に関するヒヤリハットも上がっており、取り扱いについて全職員で一から見直し、今まで行ってきた処理方法を変更するなど、改善を図った。

1 2. 《苦情・相談結果報告》 苦情の定義→施設長が状況を見て、苦情か相談かを判断する。

○報告件数

報告 件数	令和4年度			報告 件数	令和5年度		
	合計	苦情	相談		合計	苦情	相談
	14件	14件	0件		1件	0件	1件

○まとめ

今年度は相談が1件のみだった。利用者の生活環境、職員の対応など、苦情に該当するような事案はなかったが、昨年度の経験から報告書作成の基準が職員によって差があるため、職員間で話し合い、意識の統一化を図っていきたい。

1 3. 《新型コロナウイルス感染症に係る事業継続支援事業》

- ・申請せず。

1 4. 《総括》

- ・令和5年度より新体制となり、組織の強化については、特に意識的に行った。その中で、施設として目指す姿や職員として目指す姿など、様々な場面で意識の改善を図り、職員それぞれの仕事に対する姿勢がチームとして一つの力になるよう、努めた。
- ・今後の母子生活支援施設の在り方として、施設内だけではなく、地域へのケアも求められているため、自分達が行いたい福祉及び様々な福祉ニーズに対応出来るよう、職員の資質の向上も含め、準備を行っていきたい。

令和5年度 事業報告書

大慈学童クラブ

1. 《基本方針》
 - ・児童福祉法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき児童の人権を尊重する
 - ・共同で行動することを通して、生活習慣、人間関係、思いやり等が身につくように援助する
2. 《中長期計画》
 - ・地域福祉の一環として、地域のニーズに応え、利用者が安心して利用出来るサービスを提供する。また、各利用者が集団生活を通し、思いやりの心と考える力を育める様努める
 - ・職員の資質向上
3. 《令和5年度報告》
 - ①個別配慮が必要な児童の受け入れ等、利用者のニーズを把握し、ニーズに沿ったサービスを提供する
 - ・今年度も個別に配慮が必要な児童の受け入れを行い、職員配置を増やすなど、ニーズに沿った、サービスを提供した。
 - ②人材育成計画を作成し、実行する。また、人材育成を通し、組織強化に努める
 - ・コーチング研修や個人の面談を通し、職員間の意思疎通、職員それぞれの長所の強化、業務の中で挑戦してみたいという思いが生まれるよう努めた。結果、勤務年数に関係なく、自発的に行動する姿や組織の強化に繋がった。
4. 《地域貢献事業》
 - ・延長保育の時間外受け入れ（18時～19時）
延べ130名、受け入れを行った。
5. 《活動報告》
 - ①広報
 - ・保護者、各区役所、神戸市役所こども家庭局に新聞を発行した。新聞の内容には、行事予定やお知らせ等を記載した。
 - ・新学童受け入れ説明会を行った。
 - ②避難訓練
 - ・夜間想定以外、ハーバー大慈と同様に行う。
 - ③保健衛生
 - ・エアコンのクリーニング、排水管清掃、廊下清掃を業者に依頼し、実施した。また、毎週金曜日（祝日、年末年始除く）、大掃除を行った。

6. 《行事報告》

年間行事

行事	
4月	お花見、昼食会（カレーライス・プチゼリー）
6月	グループワーク 2回
7月	個別懇談会（希望者対象）、昼食会（カレーライス・プチゼリー）
8月	映画会、水遊び、消火器訓練、スイカ割り、屋台村、交通安全教室 地蔵盆（お供えのお下がり配布） 昼食会（二色丼・味噌汁・プチゼリー） 昼食会（クリームシチュー・ロールパン・ヨーグルト） 昼食会（ハヤシライス・プチゼリー） 昼食会（豚丼・味噌汁・ミニジュース）
9月	昼食会（カレーライス・プチゼリー）
11月	グループワーク
12月	クリスマス会、もちつき、個別懇談会（希望者対象）
3月	お別れ会、昼食会（カレーライス・プチゼリー）

※月間行事

・のびっ慈 DAY

月 1回、工作などを行った。

・ピラティス

7月より、講師に月 1回来ていただき、希望者のみ保育室内で行った。

・たねまき寺子屋

2月より、講師に月 1回（30分）来ていただき、偉人の話しをしてもらった。

7. 《月別在籍人数報告》 定員 35名

	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
4月	6	6	4	10	26
5月	6	6	4	10	26
6月	6	6	4	10	26
7月	6	6	4	10	26
8月	6	6	4	10	26
9月	6	6	4	9	25
10月	6	6	4	9	25
11月	6	6	4	9	25
12月	6	6	4	9	25
1月	6	6	4	9	25
2月	6	6	4	9	25
3月	6	6	4	9	25

8. 《会議報告》

- ・学童委員会
月1回、行った。

9. 《リスクマネジメント報告》

※事故の定義…職員が付き添い、病院を受診したもの。

※ケガの定義…事故以外のケガで、職員が処置したもの

○報告件数

令和4年度		令和5年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
0件	37件	2件	26件

○事故発生内容

室内の机や台の角で頭を打ち、出血する。

○まとめ

事故は室内遊び中と宿題中に単独で起こった。2件共に軽傷だったが、頭だったため病院を受診した。ヒヤリハットに関しては、児童の送り出し、登下校システムに関する職員によるミスが多かったため、職員間で話し合い、確認方法などを大幅に変更した。

10. 《苦情・相談結果報告》

※苦情の定義…運営委員長が状況を見て、苦情か相談かを判断する。

○報告件数

令和4年度				令和5年度			
報告件数	合計	苦情	相談	報告件数	合計	苦情	相談
	1件	1件	0件		4件	1件	3件

○苦情内容

児童同士のトラブル、職員の対応

○まとめ

保護者より、児童同士のトラブルについて話しがあり、職員が間に入り、児童と話しをしたが、保育中の配慮が足りず、再度同じ事が起きてしまう。また、他のケースでも、相談を受けた後の報告が出来ていなかったりなど、職員の対応に問題があったため、職員間で相談、苦情を受けた際の対応について話し合った。

11. 《新型コロナウイルス感染症に係る事業継続支援事業》

- ・申請せず。

12. 《総括》

- ・今年度の途中より、神戸市からの要請で、19：00までを通常の保育時間とした。それに伴い、職員の配置も変更した。
- ・利用されている方のニーズとして、小規模の保育、習い事などの出入りの自由、気象警報時の開放、19時以降の保育などがあるため、今後も地域のニーズに沿った福祉サービスを提供できるよう、努めていきたい。

令和5年度 事業報告書

おやこふらっとひろば中央

1. 《基本方針》

- ・中央区の子育てコミュニティの拠点になる。
- ・親子に寄り添って支援を行う。
- ・中央区の子育て関係機関や近隣施設との積極的な連携を行う。

2. 《中長期目標》

- ・親子が安心して利用できるよう一人一人に寄り添って支援を行う。
- ・子どもが興味関心を持つよう環境を整える。
- ・「おやこふらっとひろば中央」を知っていただくように積極的に広報を行う。

3. 《令和5年度報告》

- ①中央区こども福祉課や保健師、関係課と密な連携を図り、子育て支援を行った。
 - ・中央区こども福祉課課長、保健師、保育サービスコーディネーターとの情報交換会を行った。
 - ・保健師や保育サービスコーディネーターにイベントの講師をしていただいたり個別相談を行っていただいたりした。
 - ・毎月、妊娠中の方の見学&相談会を開催し、保健師による個別相談や情報提供を行った。出産後、ふらっとひろばを利用されている。
 - ・子育てに困っている保護者や疲れている保護者には、保健師と繋げられるよう連携を図った。
- ②中央区における子育てに関する課題を抽出し、対応できるように企画した。
 - ・双子、三つ子の保護者同士、外国にルーツを持つ子どもの保護者同士を繋げるようにイベントを行った。
 - ・孤立している保護者に子どもの年齢の近い保護者と話ができるよう促した。
 - ・イベント時に保護者同士が話ができるよう「お喋りタイム」を設けた。
- ③一人一人に寄り添って子育て相談に応える。
 - ・どの保護者とも話をし、特に子育てに困っている人には十分時間を取って応えた。
- ④子どもの興味関心のあることを見極め、玩具を始めとする環境を整える。
 - ・子どもの様子をよく観察し、必要な玩具を用意した。
- ⑤広報活動を積極的に行う。
 - ・お家におられる方にも情報が届くよう、SNSの活用等、行った。
 - ・4カ月健診やその他の健診の時に保健師からパンフレットを渡していただいた。
 - ・近隣施設にもパンフレットを置いていただいた。
- ⑥職員全員で情報を共有し、親子が安心していられるようにする。
 - ・保護者からの情報は全職員で共有し、全員が同じように支援ができるよう取り組んだ。
 - ・月1回開催する職員会議時に、全員で情報を共有できるよう、心がけた。

4. 《行事報告》

年間行事

月	行 事
4月	0歳タイム・1歳2歳タイム（ふれあい遊び）、お食事相談会、バースデー、外国にルーツを持つ子どものプログラム、三宮図書館連携プログラム、KIITO連携プログラム
5月	0歳タイム、1歳2歳タイム（運動あそび）、お食事相談会、バースデーフォト講座、三宮図書館連携プログラム、こども本の森 神戸連携プログラム
6月	0歳タイム・1歳2歳タイム（感触あそび）、お食事相談会、バースデー三宮図書館連携プログラム、保育サービスコーディネーター相談会、双子三つ子プログラム、妊娠中の方の見学&相談会
7月	0歳タイム・1歳2歳タイム（夏まつり）、お食事相談会、バースデーフォト講座、三宮図書館連携プログラム保育サービスコーディネーター相談会、1周年記念コンサート、神戸市交通局連連携プログラム、KIITO連携プログラム落語の会、妊娠中の方の見学&相談会
8月	0歳タイム・1歳2歳タイム（ふれあいあそび）、お食事相談会、バースデーフォト講座、三宮図書館連携プログラム、外国にルーツを持つ子どもプログラム、看護師による熱中症予防講座、妊娠中の方の見学&相談会
9月	0歳タイム・1歳2歳タイム（感触あそび）、お食事相談会、バースデーフォト講座、三宮図書館連携プログラム、妊娠中の方の見学&相談会
10月	0歳タイム・1歳2歳タイム（運動あそび）、お食事相談会、バースデーフォト講座、三宮図書館連携プログラム、ハロウィンパーティー 妊娠中の方の見学&相談会
11月	0歳タイム・1歳2歳タイム（こども本の森 神戸連携プログラム）、お食事相談会 バースデー、フォト講座、三宮図書館連携プログラム 歯科衛生士による歯科衛生講座、妊娠中の方の見学&相談会
12月	0歳タイム・1歳2歳タイム（こども本の森 神戸連携プログラム）、お食事相談会 バースデー、フォト講座、三宮図書館連携プログラム、クリスマスパーティー、 妊娠中の方の見学&相談会
1月	0歳タイム・1歳2歳タイム（ふれあいあそび）、お食事相談会、バースデー 双子・三つ子プログラム、三宮図書館連携プログラム 妊娠中の方の見学&相談会
2月	0歳タイム・1歳2歳タイム（手作り玩具）、お食事相談会、バースデー フォト講座、三宮図書館連携プログラム、保健師による感染症予防講座 妊娠中の方の見学&相談会
3月	0歳タイム・1歳2歳タイム（こども本の森 神戸連携プログラム）、お食事相談会 バースデー、三宮図書館連携プログラム、保育サービスコーディネーター相談会 妊娠中の方の見学&相談会

5. 《令和5年度 利用人数一覧表》

○利用人数

	0歳	1歳	2歳	3歳以上	大人	合計
4月	315	240	67	11	628	1261
5月	322	229	47	7	623	1228
6月	320	268	43	5	655	1291
7月	282	263	58	19	621	1243
8月	282	284	78	19	663	1326
9月	325	286	78	7	708	1404
10月	343	346	47	9	763	1508
11月	303	325	36	4	696	1364
12月	267	339	50	6	673	1335
1月	257	331	65	3	650	1306
2月	232	337	65	8	638	1280
3月	257	354	63	5	684	1363
合計	3505	3602	697	103	8002	15909

○居住地別利用 組数

中央区	灘区	東灘区	兵庫区	長田区	須磨区	垂水区	北区	西区	市外
4264	603	570	209	52	149	141	156	91	618

○子育て相談件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
693	763	781	664	646	752	730	655	641	649	591	700

○頻度 組数

新規	再来
1433	5420

6. 《リスクマネジメント報告》

○報告件数

令和4年度		令和5年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
0件	39件	0件	28件

○リスクマネジメントまとめ

- ・親子で一緒にいるので、大きな怪我はなかった。
- ・0歳1歳の子どもが、利用している子どもの89%を占めているので、バランスを崩しての転倒や打撲が多かった。
- ・危険のないように、保護者と共に見守り安全に遊んでいただけよう配慮する。

7. 《苦情・相談結果報告》

○報告件数・・・0件

○まとめ

神戸市に「わたしから神戸市への提案」を出されることはなかった。

8. 《総括》

- 令和5年度は16,000人ほどの利用者だった。
- お家で子育てをしているご保護者が子育てのちょっとした相談する所がない現状だと感じている。
少しでも子育ての不安や心配事が吐露でき、的確に支援や行政に繋がることができるよう努めたい。
- 「こども本の森 神戸」「東遊園地」「クリエイティブセンター神戸 (KIITO)」と連携し、イベントを行った。
中央区の中心地の再開発に向け、子育て世代が集える充実した街作りの一員となっていると感じている。
- 「おやこふらっとひろば中央」で大慈厚生事業会を認知していただき、こども園や小規模保育園の入園、「たちばな児童館」の利用にも繋がっていると感じている。
- 今後も中央区で安心して子育てができるよう、関係者がチームとなり、子育て支援の輪を広げていく。そして、利用している保護者の方一人一人に寄り添って、子育て相談を始めとした子育て支援を行っていくよう努める。

令和5年度 事業報告書

事業所内保育事業 大慈さくら保育園

1. <<ヴィジョン>>

世代を超えた関わりのもと、安心して自分を出せる子どもを育てる

2. <<基本方針>>

- ① 高齢者との多様な関わりを通して、思いやりの心を育む
- ② 自然との関わりを通して、多様な経験をする
- ③ 子どもが安心して生活できるように、保護者との連携を図る

3. <<最終目標>>

心・和み・笑顔 ～世代を超えた関わり、誰からも愛される園を目指します～

「いつでも前向き」「私はあなたで、あなたは私」「共に楽しみ、共に笑う」

- ・全ての人々の心を大切にします
- ・全ての人々の和を大切にします
- ・全ての人々が笑顔になれる場所にします

4. <<中長期目標>>

- ① 保育理念に基づいた保育を職員で共通理解し、実施する
- ② 子ども、保護者に寄り添い、共に子育てをする

5. <<令和5年度計画>>

- ① 老人施設事業所内保育の特性を活かし、高齢者との交流を定期的実施する

コロナの流行も下火になり、4月から各階へ順番に園児が高齢者を訪問する計画を実施しました。感染症が流行する季節には、やはり積極的な訪問を控えることとなりましたが、高齢者施設の行事などに参加させて頂いたりする中で、徐々に子供たちを覚えて頂いている高齢者もいらっしやり、散歩の途中で声を掛けて頂いたり、手を振ってくださるような自然な交流に繋がりました。

今後も続けていきたいと考えております。

- ② こどもの国籍の多様化に対応するために、外国籍の保護者とのコミュニケーションを深める努力をし、こどもが安定して園生活を過ごせるようにする

難しい言い回しや単語を使用せず、分かり易い言葉で出来るだけ沢山のコミュニケーションをとる機会を作りました。写真を撮って、それを見て頂きながら園での様子を話したり、音声通訳機器や携帯の翻訳機能を利用したコミュニケーションも有効でした。

6. <<月行事計画>>

月行事	頻度
お誕生日会	毎月1回
発育測定	毎月1回
特養高齢者との交流会	毎月2～4回

7. 《年間行事》

月	行事	月	行事
4月	入園式	10月	園外保育
5月		11月	
6月	2歳児 園外保育	12月	クリスマス会
7月	七夕まつり	1月	正月あそび
8月	花火大会 (特養と合同)	2月	豆まき
9月		3月	お別れ会

8. 《防火防災計画》

①運営に関する基準に準じ毎月の防災訓練を実施した

月行事	頻度
防災訓練 (避難及び消火訓練)	毎月1回
防犯訓練	年3回
安全チェック	毎月1回
事故対応訓練 (SIDS・誤飲・アレルギー対応)	随時

②訓練や設備点検等、大慈智音園の防火防災計画と連動を図った

月	内容
4月	消火器使用期限確認 防災マニュアル確認 避難訓練 不審者対策
5月	高圧電気点検 避難訓練
6月	災害連絡網確認
7月	避難訓練 不審者対策 消火訓練
8月	図上避難訓練 消防設備点検
9月	空調点検
10月	災害食使用訓練
11月	不審者対策 地震シェイクアウト訓練 災害連絡網訓練
12月	空調点検
1月	図上避難訓練 地震シェイクアウト訓練
2月	消防設備点検
3月	不審者対策

9. 《令和5年度在籍園児数》

年齢 (定員)	0歳児 (1人)	1歳児 (3人)	2歳児 (8人)	合計 (12人)
4月	0	1	1	2
5月	0	1	1	2
6月	0	1	1	2
7月	0	1	1	2
8月	0	1	1	2
9月	1	1	1	3
10月	1	1	1	3
11月	1	1	1	3

12月	2	1	1	4
1月	2	1	1	4
2月	2	1	1	4
3月	2	1	1	4
合計	11	12	12	35

10. 《リスクマネジメント報告》

令和4年度			令和5年度		
合計件数	事故	ヒヤリハット	合計件数	事故	ヒヤリハット
15	0	15	25	0	25

○リスクマネジメントまとめ

園児数が少ない事もあり、これまでは怪我やヒヤリとする事が少なかったが、今年度は1歳児の行動でヒヤリとする事が多くなりました。職員全員で情報共有を行い、連携して事故を防ぐことが出来ました。

11. 《苦情・相談報告》

- ・担当者を明記し随時受け付け口頭・書面で上司へ報告し敏速で確実な対応を行う。

令和4年度			令和5年度		
合計件数	苦情	相談	合計件数	苦情	相談
0	0	0	0	0	0

○苦情相談まとめ

保護者と個別にじっくり話す機会と時間がとれているので、相談事などもその都度解決できしており、毎日が個別懇談の様なコミュニケーションが出来ました。少人数運営の良い所でもあると思うので、今後も家庭との連携を大切にしていきたいと思います。

12. 《幼保連携型認定こども園 神戸潤和保育園との連携》

- ・保育内容の支援（巡回指導・相談等・代替え保育）
- ・集団保育の体験機会（行事参加または屋外遊戯場の利用等）
- ・地域枠で入所される児童（3歳以降）の連携・調整
- ・給食の搬入

○まとめ

今年度は春に1・2歳児を連れて神戸潤和保育園へ交流に行く事が出来ました。2歳児にとってはとても良い経験になったと感じています。0歳児の離乳食については、進捗状況をこまめに伝えて、その後の方針についての十分な連携が取れました。

13. 《保健衛生報告》

項目	頻度等
園児・職員定期内科健康診断	園児 春秋年2回 職員 春年1回
園児歯科健診	年1回
園児発育測定	月1回 胸囲測定(年2回)
園児検尿	年1回
保育従事者の検便	月1回 (6月～9月は月2回)

1 4. 《新型コロナウイルス感染症報告》

令和5年度			
陽性者(職員)	陽性者(園児)	感染拡大防止対策に要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金
1	0	155,000円	155,000円

1 5. 《総括》

今年度も、少人数である事の強みを活かした保育が実施できました。高齢者施設との交流も、子ども・高齢者の双方が笑顔になれる良い行事になりました。

外国籍の園児の保護者とのコミュニケーションについても、職員自身が慣れてきた事もあり、随分とスムーズに情報交換が出来る様になりました。

子どもの人数が少ないので、前年度に引き続き、職員の配置体制を含めた柔軟な受け入れ態勢を整えていく事を検討していきます。